

自然科学

講師: 錦織 寿、栗和田 隆、栗和田隆、三仲 啓

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

生物・化学の基礎を再確認し、人体の構造と機能の学習を助けるとともに、物理学の基本法則を理解して、看護技術のエビデンスの理解につなげる基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	(生物1)生物の性質、生物学の範囲	講義	講義の内容について復習を行うこと。
2	(生物2)細胞の構造と機能、呼吸	講義	教科書を予め読んでおくこと。
3	(生物3)血液と循環器系	講義	教科書を予め読んでおくこと。
4	(生物4)消化と吸収、神経の働き	講義	教科書を予め読んでおくこと。
5	(生物5)遺伝の仕組みとバイオテクノロジー	講義	講義の内容について復習すること。
6	(化学1)看護における化学の必要性、物質の構成について理解できる。	講義・演習	医療における化学薬品の使用の歴史を予習することが望ましい。
7	(化学2)イオン結合、共有結合、金属の性質などを理解し、モルの概念を理解できる。	講義・演習	中学校～高校の化学について復習しておくことが望ましい。
8	(化学3)モル当量の計算ができる。また、気体の性質を理解できる。	講義・演習	授業後の復習を行うこと。
9	(化学4)浸透圧、化学反応式について理解できる。	講義・演習	小テストの実施。授業後の復習を行うこと。
10	(化学5)化学平衡、酸と塩基について理解できる。また、pH計算ができる。	講義・演習	小テストの実施。授業後の復習を行うこと。
11	(物理1)作用・反作用の法則が理解できる。重さと質量の違いが理解できる。	講義・演習	小テストの実施
12	(物理2)力の合成・分解により3つ以上の力のつりあいが理解できる。摩擦力の性質を学ぶ。	講義・演習	小テストの実施
13	(物理3)物体に働く力がつり合うには力のモーメントのつり合いも必要であることを理解する。	講義・演習	小テストの実施
14	(物理4)重心位置の影響、ポディメカニクスを学ぶ。	講義・演習	小テストの実施
15	(物理5)圧力(水圧、大気圧)を理解する。血圧の意味と測定原理を理解する。	筆記試験	小テストの実施

■受講上の注意

(生物)わからない内容があれば高校の教科書等で復習し授業中に質問すること。
(化学)中学、高校の内容を復習しておくことが望ましい

■成績評価の方法

(生物)終講試験100%
(化学)終講試験(80%)、小テスト(20%)により総合的に評価する。
(物理)終講試験(内容は毎回の小テストと同様なもの)
生物・化学・物理の試験結果を総合して評価する。

■テキスト参考書など

(生物・化学)やりにおし 生物 化学 照林社
(物理)「やりにおし 数学 物理」照林社

■備考

中学、高校の教科書に目を通しておくこと
割合・比例配分の計算練習や物理の練習問題として以下を自習するとよい。
(物理)毎回プリントを配付する

■実務経験

論理学

講師: 外園 幸一

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

論理的なものの見方、考え方、表現する力を養うことを目的とする。論理的な思考や判断に基づいて的確に行動することが看護師求められる。そこで、読む・書く・聞く・話すという実践の中で、「論理的に思考する力」を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「論理学とは何か」について、「論理の字義」「論理学の歴史」「論理学の意義」などの観点から考察し、学習の必要性や意義を理解することができる。	講義	パワーポイントによる図示
2	「論理学の基礎知識」としての「概念」「定義」「外延と内包」などを正確に理解し、日常生活における言語使用の特徴を把握することができる。	講義	配布プリント、パワーポイント使用する
3	「形式論理学の基本法則」(同一律、矛盾律、排中律)を理解し、また、判断の分類、事実判断、と価値判断の区別などについて考察することができる。	講義	配布プリント、パワーポイント使用
4	「推理の種類」(帰納、演繹、類比)について、文例を通じて理解し、それらの推理の区分を三段論法に直して説明することができる。	講義・グループワーク	配布プリント、パワーポイント使用
5	命題論理学における五種の基本的複合命題の記号化と、それぞれの真理値表を作成し、「逆・裏・待遇」について理解することができる。	講義・グループワーク	配布プリント、パワーポイントを使用
6	哲学的論理学の一種としての「弁証法」について、その起源と展開を歴史的視点から学習し、また、その基本的構造を理解することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
7	「愛の論理学」というテーマで、論理的思考を展開し、「愛の表象」「愛の概念」などについて理解し、「愛と感情」の本質的構造を洞察することができる。	講義・グループワーク	配布プリント、パワーポイントを使用
8	日常生活の中に見られる色々な愛を考察することによって「愛の外延」及び「愛の目的」を理解し、「愛と自由」との弁証法的関係を理解することができる。	講義・グループワーク	配布プリント、パワーポイントを使用
9	「愛の類型」について学習し、西洋の起源の「エロスの愛」「フィリア的愛」「アガペー的愛」の特徴を対比的に理解することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
10	東洋の起源の愛としての「仁」及び「慈悲」について学習し、西洋的な愛の類型との対比を通じて、東西文化の本質的相違を論理的に理解することができる。	講義・グループワーク	配布プリント、パワーポイントを使用
11	「日本語の論文作成の要点」を論文の基本形式・文体の統一などの観点から学習し、論理的文章の諸条件を考察することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
12	日本語による公用文作成の基本的技能について学習し、常用漢字と音訓表、付表を活用した論文作成について理解することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
13	日本語文法の基礎的構造を学習し、品詞の種類や活用分類、形式名詞や補助動詞の特徴などについて正確に理解することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
14	日本語文章における「ひらがな書きの用法」「送り仮名の付け方」などについて学習し、論理的に書く技法について理解することができる。	講義	配布プリント、パワーポイントを使用
15	まとめ・終講試験	試験	講義での資料等を全て持参すること

■受講上の注意

講義中の私語や無断退出など、授業の妨げとなる行為をしないこと

■成績評価の方法

受講態度、レポート作成、終講試験の成績などの総合評価による

■テキスト参考書など

教科書は使用しない。授業中に配布するプリントをテキスト代わりに使用する。

■備考

講義資料としてのプリントは講義前に配布する。

■実務経験

基礎統計

講師: 福崎 賢治

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

数的計算方法および統計学の基礎知識を習得し、医療・看護場面で求められる量的データを扱う基礎能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護に必要な計算の概略を理解できる。分数と少数の扱いを理解する。0乗、マイナス乗を理解できる。	講義・演習	小テストの実施
2	分数と少数の扱いを理解する。正比例を使える。	講義・演習	予習を行うこと。
3	単位の考え方を理解できる。単位の接頭語を理解できる。単位の換算ができる。	講義・演習	予習を行うこと。
4	溶液の濃度を理解できる。圧力の単位を理解できる。薬容量の計算ができる。	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施。
5	点滴の計算ができる。	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施。
6	希釈の計算ができる。	講義・演習	予習を行うこと、小テストの実施。
7	酸素ガスの計算ができる。BMI、カロリー計算ができる。	講義・演習	予習を行うこと。
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

予習を必ず実施すること、宿題を課すので必ず実施すること。

■成績評価の方法

平常点10%、小テスト・課題20%、試験70%により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

『やり直し 数学 物理』時政孝之著、照林社

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

倫理学

講師: 的場千佳世

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間とは何か、人間の存在、生命の尊重、人間らしい生き方などを考えることにより、保健医療福祉の場での人権の尊重や、職業倫理に基づく行動の基礎を身につける。また、倫理に関する基本的な考え方、基本的人権、人としての尊厳、患者の権利などを理解する。その上で、看護専門職にとっての倫理の意義を理解し、高度化する医療のなか、生命倫理や看護倫理を学ぶ基礎を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	倫理とは何か、倫理学とはどんな学問かを理解する。生命倫理や看護倫理へと進むための見通しを持つ。	講義グループワーク	
2	代表的な倫理理論を理解する。①功利主義②義務論③徳倫理学	講義グループワーク	
3	生命倫理の成立事情を理解し、患者の権利について理解を深める	講義グループワーク	
4	医学実験・人体実験の歴史を踏まえ、インフォームドコンセントについて理解を深める がん告知について考える	講義グループワーク	
5	生命倫理の基本原則について理解する 「宗教上の理由」による治療拒否について、その事例を踏まえて考える	講義グループワーク	
6	代表的な倫理理論を理解する ③徳倫理学④ケア倫理学	講義グループワーク	
7	これまでの学習を踏まえ、医療資源の配分問題、臓器移植の問題を考える。	講義グループワーク	
8	まとめとテスト	筆記試験	

■受講上の注意

講義前は予習を必ずしてくる。
講義中の私語、他者の妨げとなる行為はしないこと。

■成績評価の方法

課題評価、総括評価

■テキスト参考書など

テキスト: 小林亜津子著『看護のための生命倫理[改訂3版]』ナカニシヤ出版(2019)ISBN978-4-7795-1405-0。
参考図書: 品川哲彦著『倫理学入門』中公新書、加藤尚武著『現代倫理学入門』講談社学術文庫。

■備考

講義資料については、講義前に配布する。

■実務経験

社会学・家族社会学

講師: 山田 晋

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間を取り巻く環境としての社会や家族・文化が、人間にどのような影響を与えているかを理解し、人間を社会的存在として多角的に学習する。また、社会学の基礎的な概念や理論を踏まえながら、現代社会の諸相を客観的に学ぶ。そして、人間にとっての家族の意味を問い直しながら、ライフサイクルの視点から家族の役割と構造、家族の機能について理解する。

「社会学は、社会学者の数ほど定義がある」と言われ、幅広くあいまいな学問であるといわれている。私流社会学をあえて言うと「人間学・幸福学」である。社会の中で生きている人間、どんな問題を抱えているのだろうか？幸せに生きているのだろうかを問いかけていきます。具体的には①世界、日本という広い社会を総合的全面的に考察し、②家族、地域、病院等狭い社会などを考察、③人々の生活と暮らしを取り巻く社会的現実を学んでいきます。本講は2部構成で前半は近年大変関心の高いSDGs(持続可能な開発目標)をテーマに世界と日本の抱えている問題をワークを交え学んでいく。後半は近年、在宅医療・看護が重点置かれてきている中、社会の基礎的集団である家族について取り上げる。家族とは何？家族でどんな問題が起こっているかを問いかけていく。主に高齢者、子どもを中心に在宅医療・看護の現場を映像を交えて学んでいく。まとめとして看護の仕事、看護師と家族、ワークライフバランス(仕事と生活との調和)について理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会学とは何か、何を学ぶのか？	講義グループワーク	私とは？ どう生きる？社会学を学ぶ意義は？
2	SDGsを学ぶー世界の現状と課題を問う	講義グループワーク	2030年までの17目標・169ターゲット
3	世界の貧困・飢餓・健康・教育ーSDGs①②③④⑥	講義グループワーク	映像を交えて発展途上国の現実に迫る
4	日本の国際協力・支援ー国境なき医師団、海外青年協力隊などの活動に学ぶ	講義グループワーク	映像交え医師・看護師、助産師の活動に学ぶ
5	世界の人権問題とジェンダー平等ーSDGs⑤・ジェンダー平等実現を	講義グループワーク	映像通し女性差別と現実と闘う女性たちに学ぶ
6	地球環境の危機	講義グループワーク	環境問題を問うー私たちにできること
7	いのちは地球より重いー戦争体験から学ぶ	講義グループワーク	世界と日本の戦争の歴史ー加害・被害の実相
8	戦後79年の日本のあゆみー総括と課題	講義グループワーク	日本的平和・豊かさ・幸福度を問う
9	日本の社会・生活問題を問うー家族・地域・少子化・高齢化	講義グループワーク	世界3位経済大国の一方で深刻な矛盾は広がる
10	家族及び家族問題ー家族は幸せ？	講義グループワーク	「家族とは何？」「どんな問題が起こってる？」
11	家族形成論ー配偶者選択・性・離婚をめぐるー	講義グループワーク	好きと愛するの違いは？愛と性について学ぶ
12	家族援助の対象と理解ー夫婦・子育て・一人親家庭ー	講義グループワーク	ジェンダーの視点から家族・夫婦、子育てについて
13	在宅医療・在宅看護ー高齢者・認知症ケアを中心に	講義グループワーク	映像を通して在宅医療・看護の現場に学ぶ
14	患者家族と在宅ケアー家族は「第2の患者」	講義グループワーク	家族看護における看護者の役割と援助実践
15	家族・看護職の現状と未来ー看護職とワーク・ラウフ・バランス・15回のまとめ	講義グループワーク	看護職の映像を視聴、15回社会学のまとめ

■受講上の注意

①毎回の授業で学んだこと＝受講感と毎回配布する新聞記事(2つ)の感想を提出すること ②授業中は寝ないよう日ごろの生活習慣、自己管理に留意を。

■成績評価の方法

毎週の課題レポート40% 最終レポート60%

■テキスト参考書など

参考図書

『知っていますか？SDGsーユニセフと目指す2030年ゴール』 さ・え・ら書房、

『よくわかる家族社会学』 ミネルバ書房、

■備考

■実務経験

心理学

講師: 蓑毛 良助

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

心理学の基礎的理論を学び、人のこころと行動を深く理解する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発達援助の手順と心理学分野について理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
2	発達の原則と段階、胎児の発達が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
3	乳児の発達が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
4	幼児の発達と心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
5	児童の発達と心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
6	青年の心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
7	成人の心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
8	知能の心理と知能検査が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
9	高齢者の心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
10	性格の心理と性格検査が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
11	カウンセリングについて理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
12	医療と心理学の関連が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
13	視覚障害児の心理と在宅医療について理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
14	聴覚障害児の心理が理解できる。	講義	テキストの該当箇所を予習すること。
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

適宜グループワークを行うので、主体的に参加する。

■成績評価の方法

出席状況と受講態度と課題評価、終講試験を総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院 心理学

適宜、資料を配布する。参考文献は、講義中に提示する。

■備考

■実務経験

鹿児島県の文化と生活

講師: 永山 修一

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

鹿児島県の歴史を踏まえ、自然、文化、言語(方言)、県民性、産業、食生活、有人離島が多い等々多角的な視点から鹿児島県の特徴を学ぶ。そのことを通して、鹿児島県の素晴らしさ、未来の可能性を発見する。また、郷土の文化・歴史を知ること、地域で生活する人々の理解にもつなげ、文化の多様性、そして人間の多様性を理解する。そして、地域での文化・生活の理解から、看護の根本である「人間とは何か」「健康とは何か」を考える。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	歴史入門1(歴史の基礎となる史料と資料について概観する)	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
2	歴史入門2(歴史の基礎となる史料と資料について概観する)	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
3	古墳時代までの鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
4	古代の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
5	中世の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
6	古代～中世の南島の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
7	戦国時代～近世初頭の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
8	近世の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
9	幕末・明治維新期の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
10	戦前の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
11	戦後の鹿児島県の歴史を概観する	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
12	鹿児島県の文化1(日向神話について概観する)	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
13	鹿児島県の文化2(民俗芸能について概観する)	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
14	鹿児島県の文化3(伝承等について概観する)	講義グループワーク	興味・関心を持ち、内容の理解に努める
15	まとめと試験	試験	講義での資料等を全て持参すること

■受講上の注意

講義前の予習は指示に従うこと。
講義中の私語、他者の妨げとなる行為はしないこと。

■成績評価の方法

毎回のミニレポートと試験

■テキスト参考書など

テキスト: 資料で語る鹿児島県の歴史
参考書: 原口泉他4名『鹿児島県の歴史』(山川出版社)

■備考

講義資料については、講義前に配布する。

■実務経験

人間関係論

講師: 田沼 利枝

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間を見つめ、人と人とのつながりを大切にして、基本的なコミュニケーションから人間関係を発展させるための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間関係の基本である自己理解について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの「はしがき」と「目次」を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
2	人間関係の基本である自己受容について理解できる。	講義・個人ワーク	どの章に興味をもったか、考えておくこと。 講義終了後ミニレポート提出
3	人間関係の諸問題を学習するための基礎的知識について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの第1章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
4	様々な対人関係や役割行動について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの第2章～4章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
5	コミュニケーションについての基礎的な知識について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの第5章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
6	心理支援的コミュニケーションについて理解できる。	講義・個人ワーク・グループワーク	テキストの第5章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
7	カウンセリングの理論と技法について理解できる(Ⅰ)。	講義・個人ワーク	テキストの第6章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
8	カウンセリングの理論と技法について理解できる(Ⅱ)。	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第7章～8章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
9	ロールプレイを通して受容的共感的態度を理解できる。	講義・グループワーク	講義終了後ミニレポート提出
10	グループによる体験学習を通して、コミュニケーションや人間関係に関するスキルを実践的に身につけることができる。	講義・グループワーク	講義終了後ミニレポート提出
11	チーム医療とチームにおける看護師の役割を理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの第9章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
12	死に向かう患者と家族を支えるための看護師の役割を理解できる。	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第10章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
13	家族関係と家族の病理構造について理解できる。	講義・個人ワーク	テキストの第11章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
14	家族を支援する看護師の役割について理解できる。	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第11章を読んでおくこと。 講義終了後ミニレポート提出
15	終講試験とまとめ		筆記試験

■受講上の注意

学習の振り返りのために毎回ミニレポートを提出のこと。
主体的に講義に臨み、気づきを深めてほしい。

■成績評価の方法

授業への参加態度(10%)、授業後のミニレポート(50%)、試験(40%)により総合的に評価

■テキスト参考書など

「人間関係論」医学書院
参考書は適宜授業の中で紹介

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、公認心理師及び臨床心理士として実務経験のある教員による授業である

生活と科学

講師: 坂上 ちえ子、木下 朋美、宍戸 克実

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

多様化する生活、それを取りまく生活環境(衣食住を含めて)を理解するとともに、自らの生活を振り返り、よりよい生活、生活環境について考え、人間・生活を把握する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	衣生活—1 繊維や織物、布に備わる性質と特徴について興味を持って理解できる。(担当: 坂上)	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
2	衣生活—2 被服の役割や環境への適応性について関心を持って理解できる。(担当: 坂上)	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講し、簡単な実験にも取り組むこと。
3	衣生活—3 被服選択や管理のために必要な知識を主体的に理解できる。(担当: 坂上)	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講し、簡単な実習にも取り組むこと。
4	衣生活—4 高齢者、障害者用衣服の素材や機能性について具体的に理解できる。(担当: 坂上)	講義・グループワーク	ワークシートに要点を記入しながら受講し、グループで協力して演習内容にも取り組むこと。
5	衣生活—5 終講試験とまとめ(担当: 坂上)	筆記試験	
6	食生活—1 食品の一次機能が理解できる(担当: 木下)	講義	栄養学の教科書第2章A~C、Fを予習すること。 ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
7	食生活—2 食品の二次機能が理解できる。(担当: 木下)	講義	ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
8	食生活—3 食品ごとの栄養素の特徴や調理特性を理解できる(担当: 木下)	講義	栄養学の教科書第5章D~Eを予習すること。 ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
9	食生活—4 食品衛生や食の安全、表示制度について理解できる(担当: 木下)	講義	栄養学の教科書第10章Dを予習すること。 ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
10	食生活—5 まとめと終講試験(担当: 木下)	講義・筆記試験	ワークシートに要点を記入しながら受講すること。
11	住生活—1 住生活の歴史や間取りの変遷について理解できる。(担当: 宍戸)	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施。
12	住生活—2 住空間の構成について理解できる。(担当: 宍戸)	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施。
13	住生活—3 安全な住まい、機能的な住まいについて理解できる。(担当: 宍戸)	講義・グループワーク	授業中に作図ワークを実施。
14	住生活—4 多様な居住スペース、ライフスタイルについて理解できる。(担当: 宍戸)	講義・グループワーク	
15	住生活—5 終講試験・まとめ(担当: 宍戸)	講義・筆記試験	

■受講上の注意

(衣生活)

テキスト代わりにプリント(ワークシートも兼ねる)を毎週配布するので、前回分も毎時間忘れないよう持参すること、また、ワークシートの記入や実験、グループワークには積極的に取り組むこと。

■成績評価の方法

衣生活・食生活・住生活それぞれ講義終了後に、筆記試験を行い総合的に評価を行うので時期については講義開始時に提示する。

(衣生活)試験(90%)授業への参加態度(10%)により総合的に評価する。

(食生活)試験(90%)課題提出(10%)により総合的に評価する。

(住生活)試験(70%)授業中の課題提出(20%)授業参加度(10%)などにより総合的に実施。

■テキスト参考書など

参考図書: 増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、一級建築士として実務経験のある教員による授業である

人体の構造と機能 I

講師: 吉家 清貴

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統だてて学び、疾病により生じる構造と機能の変化や看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。

細胞、組織の構造・機能と、器官としての神経系、感覚器系、内分泌系の構造と機能について学ぶ。

* 解剖学の内容は、限られた時間内に学ぶべき事柄が大変多く、膨大な知識を要領よく系統的に自分のものにする努力が必要です。身体の構造・機能の理解なしに、今後、看護学科で学ぶたくさんの科目の理解はありえません。自ら学びをまとめて理解する積極的な姿勢が姿勢が強く望まれます。受け身の学習は駄目です。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖学の位置づけ、細胞、組織、器官、器官系の全体像について理解する。	講義	細胞、組織、器官の関係を講義する。
2	組織と器官について理解する。	講義	組織と器官について講義する。
3	細胞内小器官について理解する。	講義	細胞内小器官について講義する。
4	細胞膜と膜の興奮について理解する。	講義	細胞膜と膜の興奮について講義する。
5	細胞分裂と分化について理解する。	講義	細胞分裂と分化について講義する。
6	上皮組織と筋組織について理解する。	講義	上皮組織と筋組織について講義する。
7	結合組織と神経組織について理解する。	講義	結合組織と神経組織について講義する。
8	神経細胞の興奮と種類について理解する。	講義	神経細胞の興奮と種類について講義する。
9	脳の構造と機能について理解する。	講義	脳の構造と機能について講義する。
10	脳の構造と機能について理解する。	講義	脳の構造と機能について講義する。
11	脊髄神経と脳神経について理解する。	講義	脊髄神経と脳神経について講義する。
12	脳高次機能について理解する。	講義	脳高次機能について講義する。
13	内分泌系の構造と機能について理解する。	講義	内分泌系のフィードバックとホルモン、成長・活動・生体防御に関わるホルモンについて講義する。
14	内分泌系の構造と機能について理解する。	講義	生殖、血圧、カルシウム代謝に関わるホルモンについて講義する。
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

前もって講義プリントを配布するので、講義する範囲を一読してください。
自宅で復習することが大切です。わからないことがあれば講義後に質問して下さい。

■成績評価の方法

筆記試験 90点 講義に対する取り組み 10点

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護学講座 解剖生理学
講義内容のまとめプリントを配布する。

■備考

ホワイトボードに板書します。板書内容はホームページにアップしますが、講義中にスマートフォン等による撮影を許可します。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

人体の構造と機能Ⅱ

講師:吉家 清貴

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統立てて学び、疾病により生じる構造と機能の変化や看護実習のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。
ガス交換を担う呼吸器、血液循環を担う循環器、全身を循環する血液の構造と機能について学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器(鼻腔、咽頭、喉頭、気管)の構造・機能を理解する。	講義	鼻腔、咽頭、喉頭、気管までを講義する。
2	呼吸器(肺・肺胞・ガス交換)の構造・機能を理解する。	講義	肺・肺胞・ガス交換・血液ガスについて講義する。
3	呼吸機能の調節(神経、中枢、呼吸筋)を理解する。	講義	呼吸調節について講義する。
4	呼吸器のまとめと国家試験過去問題を紹介する。	講義	疾患と国家試験過去問を解説する。
5	循環器(心臓)の構造と機能を理解する。	講義	心臓の構造、心筋、刺激伝導系について講義する。
6	循環器(動脈)の構造と機能を理解する。	講義	動脈について講義する。
7	循環器(静脈・リンパ系)の構造と機能を理解する。	講義	静脈、リンパ管について講義する。
8	循環器(循環の調整)の仕組みを理解する。	講義	心拍、血圧について講義する。
9	循環器のまとめと国家試験過去問題を紹介する。	講義	疾患と国家試験過去問を解説する。
10	血液(赤血球)の形成・機能を理解する。	講義	赤血球の分化、ヘモグロビンについて講義する。
11	血液(白血球)の形成・機能を理解する。	講義	白血球の分類、機能について講義する。
12	血液(血小板・凝固系)の形成・機能を理解する。	講義	接液凝固について講義する。
13	血液(血漿)の機能を理解する。	講義	血球以外の血漿の働きについて講義する。
14	血液のまとめと国家試験過去問を紹介する。	講義	疾患と国家試験過去問を解説する。
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

前もって講義プリントを配布するので、講義する範囲を一読してください。
自宅で復習することが大切です。わからないことがあれば講義後に質問してください。

■成績評価の方法

筆記試験 90点 講義に対する取り組み 10点

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護学講座 解剖生理学 最新版
講義内容のまとめプリントを配布する。

■備考

ホワイトボードに板書します。板書内容はホームページにアップしますが、講義中にスマートフォン等による撮影を許可します。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

人体の構造と機能Ⅲ

講師: 杉原 一正

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

消化器系、泌尿器系、生殖器系の構造と機能について説明することができるとともに、臨床の現場で目にする消化器系疾患、泌尿器系疾患、生殖器系疾患の病態や症状を、その構造と機能の視点から説明でき、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	口腔と歯の構造と機能、咀嚼について説明できる。	講義	小テストの実施
2	摂食と嚥下、唾液腺の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
3	咽頭、食道、胃の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
4	小腸の構造と機能、栄養素の消化と吸収について説明できる。	講義	小テストの実施
5	大腸、膵臓の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
6	肝臓、胆嚢、腹膜の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
7	腎臓の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
8	傍系球体装置、レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系について説明できる。	講義	小テストの実施
9	排尿路、体液の調節、酸塩基平衡について説明できる。	講義	小テストの実施
10	男性生殖器の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
11	女性生殖器の構造と機能について説明できる。	講義	小テストの実施
12	女性の生殖機能、受精と胎児の発生について説明できる。	講義	小テストの実施
13	初期発生と着床について説明できる。	講義	小テストの実施
14	成長と老化について説明できる。	講義	小テストの実施
15	終講試験とまとめ	筆記試験	小テストの復習をすること

■受講上の注意

講義の予習(前もって教科書を読んでおく)をして、主体的に授業に望むこと。

■成績評価の方法

終講試験(80%)、小テスト(10%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 解剖生理学』医学書院

■備考

資料プリントは毎回配布する。

■実務経験

本科目は、歯科医師としての実務経験のある教員による授業である。

人体の構造と機能Ⅳ

講師: 上川 善昭

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人体の発生および構造と機能を系統だてて学び、疾病により生じる構造と機能の変化を理解するとともに、問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を実践し、看護実践のエビデンスに活用する基礎能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	解剖生理学Ⅳの学び方について理解する。特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を理解する。 感覚器総論(特殊感覚、体性感覚、皮膚感覚、内臓感覚、感覚伝導路)について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	解剖生理学Ⅳの学び方について理解する。 PBLについて実践できるように学習する。 PBLの準備(班分け、課題の提示)を行う。
2	感覚器各論(眼の構造・解剖、近視、遠視、白内障、緑内障など)について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	感覚器各論(眼の構造・解剖、近視、遠視、白内障、緑内障など)について予習する。 PBLの準備(グループワーク)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
3	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
4	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	感覚器各論(耳の構造と聴覚、平衡感覚、鼻の構造と嗅覚、口腔の構造と味覚、皮膚の構造と皮膚感覚、疼痛の発生機序と伝達)について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
5	生体の防御機能について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	生体の防御機能について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
6	非特異免疫(炎症作用)、特異免疫(細胞免疫、体性免疫)について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	非特異免疫(炎症作用)、特異免疫(細胞免疫、体性免疫)について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
7	体温調節機構について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	体温調節機構について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
8	骨、関節の構造について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	骨、関節の構造について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
9	筋肉の構造、筋の収縮について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	筋肉の構造、筋の収縮について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
10	体幹の骨格、関節、筋について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	体幹の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
11	頭頸部の骨格、関節、筋について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	頭頸部の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
12	上肢の骨格、関節、筋について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	上肢の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
13	下肢の骨格、関節、筋について理解できる。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	下肢の骨格、関節、筋について予習する。 PBLの発表準備(GW)を行う。 小テスト(前回講義の振り返り)
14	特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を実践する。	講義・DVD・グループワーク(PBL)	特に問題解決に立脚した学習法(Problem Based learning)を準備し実践する(発表)。
15	終講試験とまとめ		筆記試験

■受講上の注意

事前準備、講義内容の予習をしてくる。
主体的、積極的に講義やPBLに参加する。
私語は慎む。

■成績評価の方法

終講試験(50%)、小テストとレポート(30%)、授業への参加態度とPBL(20%)により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

系統看護学講座・解剖生理学(医学書院)
解剖トレーニングノート(医学教育出版社)

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

看護につながる人体の構造と機能

講師：池西 静江、今村 恵、花園 千恵子、内野 優子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 人体の構造と機能の知識に基づいて、「日常生活行動」を理解する
2. 健康障害が日常生活行動に及ぼす影響を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人が生きていることをシステム理論から理解し、人が生きていくことを生活行動との関連で理解する【池西】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です。 【事前課題：白地図5点】
2	生きていることを可能にする呼吸・循環、栄養・代謝、排泄について理解を深める【池西】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です。 授業終了時に【ポストテスト:5点】あります。
3	「動く」ために必要な脳神経系、感覚器系(視覚)、運動器系の構造と機能を理解する【池西】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【ポストテスト:10点】
4	姿勢保持・歩行・手の運動について、人体の構造と機能の知識を活用して理解する【花園】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【白地図:5点】
5	自ら「動く」ことができなくなる原因とメカニズムについて理解する【花園】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【ポストテスト:5点】
6	日常生活行動「行為と入浴」に必要な神経、運動器の構造と機能を理解する【池西】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です
7	皮膚・粘膜の構造と機能と清潔保持の意義を理解する【池西】	反転授業	事前にワークシートを配布します。授業終了時にワークシートを集めます【ワークシート:5点】【ポストテスト:5点】
8	「食えること」の意義と「食えること」に影響する因子について理解する【内野】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【白地図:10点】
9	「食える」ために必要な脳神経系、運動器系、感覚器系(味覚)、消化器系の構造と機能を理解する【内野】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です。 【ポストテスト:5点】
10	自ら「食えること」ができなくなる要因とメカニズムを理解する【内野】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【ポストテスト:5点】
11	1)ヒトが「排泄する」ことの意義を考える 2)人が「排泄する」生活行動の過程を理解する【今村】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です
12	「便を排泄する」ために必要な人体の構造と機能を理解する【今村】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【白地図:5点】【ポストテスト:5点】
13	「尿を排泄する」ために必要な人体の構造と機能(腎臓・膀胱)を理解する【今村】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【白地図:5点】【ポストテスト:5点】
14	1)「尿を排泄する」ために必要な人体の構造と機能(尿道)を理解する 2)対象の排泄行動から排泄に関する問題点と援助を考える【今村】	反転授業	事前にワークシートを配布します。事前学習に取り組んで、自ら学ぶ授業です 【ポストテスト:5点】
15	グループダイナミクスを活用して課題に取り組み、「日常生活行動」に必要な人体の構造と機能を理解する	反転授業	各授業で学習した内容について個人テスト(PBL)およびチーム基盤型学習(TBL)を実施します。各授業内容を復習しておくと共に各授業で使用した資料等を持参し授業に臨むこと。

■受講上の注意

事前にワークシートを配布しますので、既習の人体の構造と機能を確認し、事前準備をして、休まず授業に参加してください

■成績評価の方法

上記に示すポストテスト、白地図、ワークシート、PBL(10点)TBL(15点)で成績評価します。したがって、当該講義を欠席した場合はその回の評価は0点になります

■テキスト参考書など

池西静江 スタディガイド2024 照林社、電子書籍 医学書院テキスト
池西静江 看護につながる人体の構造と機能 照林社

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

生化学

講師: 塔筋 弘章

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

生物は分子や原子からなる。この分子や原子が互いに作用することにより、生命活動を営むことが可能となり、複雑で高度に組織化された性質をもつ。生化学では、無生物である分子がどのように生命を構成し、保ち、次世代へ伝えていくのかを学ぶ。そして健康とは、病気とは、という医学の根本的問題をその基礎において理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	細胞について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
2	細胞小器官について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
3	細胞をつくる物質(アミノ酸・タンパク質)について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
4	細胞を作る物質(糖質・脂質)について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
5	細胞を作る物質(核酸 等)について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
6	遺伝情報(複製、転写)について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
7	遺伝情報(タンパク質合成)について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
8	生体膜について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
9	糖質・代謝について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
10	脂質代謝について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
11	エネルギー代謝の統合について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
12	酵素反応について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
13	生化学的な分析・診断・治療について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
14	バイオテクノロジー・幹細胞について理解する。	講義	テキストに目をおしておくこと。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

テキストの内容について予習してから講義に臨む。判らないことは質問し、授業時間内に理解した上で、復習をする。

■成績評価の方法

平常点25%、試験75%

■テキスト参考書など

医学書院 生化学

■備考

必要に応じてプリントを配布する。

■実務経験

臨床微生物学

講師:吉家 清貴

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

微生物の特徴と生体の及ぼす影響を理解するとともに、免疫及び感染症について理解を深め、感染症対策の基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人体に感染する微生物全般を理解する。	講義	感染症微生物の特徴について講義する。
2	感染経路、症状、感染症予防について理解する。	講義	感染の全体像について講義する。
3	感染症予防に関する法律について理解する。	講義	感染症法などについて講義する。
4	感染症に関する免疫系を理解する。	講義	防疫免疫について講義する。
5	予防接種について理解する。	講義	防疫免疫の応用について講義する。
6	人体に不利な免疫反応を理解する。	講義	アレルギー反応について講義する。
7	感染症の診断について理解する。	講義	感染症の検査について講義する。
8	滅菌と消毒について理解する。	講義	微生物を死滅させる方法について講義する。
9	化学療法の原理について理解する。	講義	感染症の治療について講義する。
10	呼吸器感染症について理解する。	講義	種類別の微生物を臓器別にまとめて講義する。
11	消化器感染症について理解する。	講義	種類別の微生物を臓器別にまとめて講義する。
12	性感染症、神経系感染症について理解する。	講義	種類別の微生物を臓器別にまとめて講義する。
13	発疹性感染症について理解する。	講義	種類別の微生物を臓器別にまとめて講義する。
14	免疫不全と日和見感染症について理解する。	講義	種類別の微生物を臓器別にまとめて講義する。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

前もって講義プリントを配布するので、講義する範囲を一読してください。
自宅で復習することが大切です。わからないことがあれば講義後に質問してください。

■成績評価の方法

筆記試験 90点、講義に対する取り組み 10点

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護学講座「微生物学」最新版
講義内容のまとめプリントを配布する。

■備考

ホワイトボードに板書します。板書内容はホームページにアップしますが、講義中にスマートフォン等による撮影を許可します。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

病理学

講師: 吉田 浩己

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

疾病の成り立ちに関する基本的事項等を理解し、説明できる。

1. 講義は授業開始前に配布するプリントとテキストに基づいて行います。
2. 講義を受ける前に、プリントに記載されている疾病の基本事項の理解に挑戦する(予習)ことにより「理解力」が涵養(かんよう)される。講義後に復習を繰り返すことにより知識は「定着」します。
3. 予習、復習を続けることにより、勉学が習慣化し、生涯学習力の基盤が形成されます。
4. 単位制度は、1時間の講義に対し、1時間の予習、1時間の復習を基本に制度設計されています。単位の修得には、予習と復習は不可欠です。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病理学と疾病について説明できる。	講義	テキストp12、課題①についてレポート提出
2	疾病の病因、疾病の基本病変について説明できる。	講義	テキストp12、課題②、③、④、⑤についてレポート提出
3	退行性病変について説明できる。	講義	テキストp32、課題①、②、③についてレポート提出
4	進行性病変について説明できる。	講義	テキストp32、課題④、⑤についてレポート提出
5	循環障害について説明できる。	講義	テキストp92、課題①、②、③、④、⑤、⑧、⑨についてレポート提出
6	循環障害について説明できる。	講義	テキストp92、課題①、②、③、④、⑤、⑧、⑨についてレポート提出
7	炎症について説明できる。	講義	テキストp32、課題⑥、⑦についてレポート提出
8	炎症について説明できる。	講義	テキストp32、課題⑥、⑦についてレポート提出
9	腫瘍について説明できる。	講義	テキストp166、課題①、②、④、⑤、⑥についてレポート提出
10	腫瘍について説明できる。	講義	テキストp166、課題①、②、④、⑤、⑥についてレポート提出
11	先天異常について説明できる。	講義	テキストp134、課題①、③、④についてレポート提出
12	形成過程の自己評価	講義	
13	まとめ	講義	
14	まとめ	講義	
15	目標達成評価テスト	試験	記述式の筆記試験で行う。

■受講上の注意

医学・病理学は主体的学習が基本です。「病理学」の修得は、病態学「病理学各論」の学びに不可欠です。課題のレポートは次回授業の開始までに、提出してください。

■成績評価の方法

筆記試験 100点

「理解し、説明できる」ことが教育・学習目標であるので、目標に到達しているか判定するために、試験問題の回答は記述式で行い、評価します。

■テキスト参考書など

テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野、病理学 医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、医師、病理専門医として、大学の医学教育、医学研究のみならず、病院の病理診断や医療行為などの実務経験のある教員による授業である。

病態生理学

講師: 池西 静江、山門 真樹、今村 恵

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

解剖生理学及び病理学の知識をもとに正常な人体の構造と機能に病変が加わって生じる症候について理解を深め、看護実践に活用するための基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病態生理学を学ぶ意義及び病気をとらえる視点(病因・病変・症候・治療)を理解する	講義	解剖生理学の復習をして積極的に授業に参加すること。
2	肺の炎症(肺炎)について病態関連図を作成し、病気の原因、病変、症候、治療を理解する	講義・演習	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。病態関連図を作成して提出すること。
3	肝臓の悪性腫瘍(肝臓がん)について病態関連図を作成し、病気の原因、病変、症候、治療を理解する	講義・演習	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。病態関連図を作成して提出すること。
4	心臓の循環障害(心筋梗塞)について病態関連図を作成し、病気の原因、病変、症候、治療を理解する	講義・演習	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。病態関連図を作成して提出すること。
5	脳血管障害・脳の変性(脳出血)について病態関連図を作成し、病気の原因、病変、症候、治療を理解する	講義・演習	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。病態関連図を作成して提出すること。
6	腎臓の炎症(IgA腎症)について病態関連図を作成し、病気の原因、病変、症候、治療を理解する	講義・演習	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。病態関連図を作成して提出すること。
7	疼痛の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
8	運動麻痺の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
9	ショックの原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
10	乏尿・無尿の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
11	浮腫の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
12	脱水の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
13	黄疸の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
14	吐血・喀血・下血の原因・メカニズム・分類・症状及び観察のポイントを理解する	講義	解剖生理学や病理学の復習をして積極的に授業に参加すること。終了前に小テストを実施する。
15	グループダイナミクスを活用して課題に取り組み、各症候の原因とメカニズムを関連付けて理解できる	講義	授業で学習した症候について個人テスト及びチーム基盤型学習 Team Based Learning(TBL)を実施する。各症候について復習すると共に、授業で使用した資料等を整理して授業に臨むこと。

■受講上の注意

事前に配布するワークシートをもとに予習して授業に参加すること

■成績評価の方法

病態関連図5点×5、小テスト5点×8、課題レポート5点、個人テスト20点、TBL10点

■テキスト参考書など

『解剖生理学』医学書院 『病理学』医学書院 『病態生理学』医学書院
『看護学生スタディガイド』照林社

■備考

解剖生理学・病理学等の復習及びワークシートの内容を予習して授業に参加すること

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

疾病論 I

講師: 齋藤 俊、牛島 孝

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する。(呼吸器系・循環器系)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器の構造と機能が理解できる。	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと。 担当: 齋藤
2	呼吸器系の疾患と症状が理解できる一鼻腔・咽頭・喉頭の疾患。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
3	呼吸器系の疾患と症状が理解できる。一気管・気管支・肺の疾患(COPD・気管支喘息・肺がん・肺循環障害・呼吸不全・気胸など)(その1)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
4	呼吸器系の疾患と症状が理解できる。一気管・気管支・肺の疾患(COPD・気管支喘息・肺がん・肺循環障害・呼吸不全・気胸など)(その2)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
5	呼吸器系の疾患と症状が理解できる。一胸膜の疾患	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
6	呼吸器系の検査・治療・処置が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
7	呼吸器系の検査・治療・処置が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 齋藤
8	循環器系の構造と機能が理解できる。	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと。 担当: 牛島
9	循環器系の疾患と症状が理解できる。一心臓の疾患(虚血性心疾患・心筋症・心不全など)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
10	循環器系の疾患と症状が理解できる。一心臓の疾患(虚血性心疾患・心筋症・心不全など)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
11	循環器系の疾患と症状が理解できる。一血管の疾患(高血圧・閉塞性動脈硬化症・大動脈瘤・解離・静脈血栓症など)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
12	循環器系の疾患と症状が理解できる。一血管の疾患(高血圧・閉塞性動脈硬化症・大動脈瘤・解離・静脈血栓症など)	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
13	循環器系疾患の検査・治療・処置が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
14	循環器系疾患の検査・治療・処置が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 牛島
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理学・病態生理学の既習知識が必要となるので、復習して臨むこと。
各回数予習・復習をして臨むこと。

■成績評価の方法

筆記試験 100%

■テキスト参考書など

『呼吸器』『循環器』医学書院

適時資料を配布する。

参考図書:『病理学』『解剖生理学』医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

疾病論Ⅱ

講師:牛島 孝 坂口 大

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する。(消化器系・腎泌尿器系)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	消化器の構造と機能が理解できる。	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと。 担当:牛島
2	消化器疾患の症状と病態生理、栄養と代謝について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
3	消化器疾患の検査が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
4	消化器疾患の治療が理解できる。(細胞と再生医療)	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
5	消化器疾患について理解できる。(がんについて)	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
6	消化器疾患について理解できる。(ビタミン、栄養代謝について)	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
7	消化器疾患について理解できる。(アルコール、感染症について)	講義	予習・復習を行うこと。 担当:牛島
8	腎泌尿器の構造と機能が理解できる。	講義	解剖生理学の復習をして臨むこと。 担当:坂口
9	腎泌尿器疾患の症状が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
10	腎泌尿器疾患の検査が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
11	腎不全について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
12	腎炎・感染症について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
13	腎泌尿器系のがんについて理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
14	小児の腎疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:坂口
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

解剖生理学・病態生理学の既習知識が必要となるので、復習して臨むこと。
各回数予習・復習をして臨むこと。

■成績評価の方法

筆記試験 100%

■テキスト参考書など

『消化器』『腎泌尿器』医学書院

適時資料を配布する。

参考図書:『病理学』『解剖生理学』医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

疾病論Ⅲ

講師:後藤 孝史、山下 学

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

系統別、代表疾患についてその病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳神経—1 神経の構造と機能が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
2	脳神経—2 神経の構造と機能が理解できる。大脳・小脳・脊髄など	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
3	脳神経—3 運動機能と感覚機能、意識障害が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
4	脳神経—4 運動症状、高次脳機能障害、感覚障害、不随意運動が理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
5	脳神経—5 排尿障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、神経学的診察について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
6	脳神経—6 放射線検査、脳脊髄液検査、脳血管障害について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
7	脳神経—7 外傷、小頭症、脊髄疾患、筋ジストロフィー、パーキンソン病、HAM、認知症について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:後藤
8	運動器—1 脊椎疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:水島
9	運動器—2 筋・腱の疾患、麻痺性疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:水島
10	運動器—3 診断に必要な検査、先天性疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:市川
11	運動器—4 骨折・脱臼について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:市川
12	運動器—5 代謝性疾患、下肢・上肢帯について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:長谷先生
13	運動器—6 骨腫瘍・骨系統疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:長谷先生
14	運動器—7 捻挫と打撲、骨・関節の炎症性疾患について理解できる。	講義	予習・復習を行うこと。 担当:竹内
15	まとめと終講試験	筆記試験	担当:後藤・竹内

■受講上の注意

主体的に講義に臨み、臨床現場で必要な知識を講師から積極的に学ぶこと。
既習の知識を含め事前学習を行い、講義内容の理解に努めること。

■成績評価の方法

終講試験 80点 授業への参加態度 20点により総合的に評価を行う。

■テキスト参考書など

テキスト:系統看護学講座 脳神経 医学書院 系統看護学講座 運動器 医学書院
参考書:標準整形外科学 医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である

臨床栄養学

講師: 寺師 睦美

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

食品の栄養と代謝、各ライフステージの特徴、病態と食事療法の基礎的知識を理解し、栄養学的視点から人の食生活や健康状態に応じた適切な考え方や、看護ケアにおける実践的な対処法を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床栄養学の概要と看護における栄養管理の意義を理解する。	講義	第1章を予習すること。
2	臨床栄養学の基礎知識(糖質・脂質・タンパク質の代謝及び機能)を理解する。	講義	第2章A～Cを予習すること。
3	臨床栄養学の基礎知識(ビタミン・ミネラル・食物繊維・水の代謝及び機能)を理解する。	講義	第2章D～Gを予習すること。
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝を理解する。	講義	第3・4章を予習すること。
5	食品成分と食事摂取基準を理解する。	講義	第5章を予習すること。
6	栄養ケア・マネジメントの意義と基礎知識、チーム医療における看護ケアのあり方を理解する。	講義	第6章を予習すること。
7	栄養アセスメントと食事調査の基礎知識を理解する。	講義	第7章を予習すること。
8	食事調査を実施し摂取内容を分析することで、栄養状態の評価・判定の意義を理解する。	講義・グループワーク	各自の食生活を調査し、課題をまとめること。
9	各ライフステージの特徴と看護における栄養管理を理解する。	講義	第8章A～Dを予習すること。
10	各ライフステージの特徴と看護における栄養管理を理解する。	講義	第8章E～Iを予習すること。
11	臨床栄養の基礎知識、各疾患の食事療法と栄養管理を理解する。	講義	第9章A～Dを予習すること。
12	臨床栄養の基礎知識、各疾患の食事療法と栄養管理、糖尿病食品交換表の活用法を理解する。	講義・演習	第9章E～Gを予習すること。
13	臨床栄養の基礎知識、各疾患の食事療法と栄養管理を理解する。	講義	第9章H～Iを予習すること。
14	健康づくりと食生活のあり方、食の安全性を理解する。	講義	第10章を予習すること。
15	終講試験、総括	筆記試験	

■受講上の注意

教科書の予習・復習をすること。
課題やグループワークは、主体的に取り組むこと。小テストを適宜実施する。

■成績評価の方法

課題レポート・アンケート調査など20% 小テスト20% 筆記試験60%により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院「栄養学」「人体の構造と機能3」
日本糖尿病協会・文光堂「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」

■備考

資料プリントは適宜配布する。参考文献は、適宜紹介する。
教科書や解剖生理学や生化学など関連科目を復習することが望ましい。

■実務経験

本科目は、管理栄養士として実務経験のある教員による授業である。

臨床薬理学

講師: 杉原 一正

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

薬物療法の目的、薬物の特徴と作用機序、主な副作用や有害事象、与薬時の注意点、薬物治療における安全確保のための薬物管理に関する基礎的事項について説明することができるとともに臨床の現場での対症療法薬や主要疾患の治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明することができ、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬物治療における看護師の役割、適切な与薬、薬剤管理、患者への説明と指導について具体的に述べることができる。	講義	小テストの実施
2	薬物治療の目的、医薬品の取り扱い、薬物の特徴と作用機序について説明できる。	講義	小テストの実施
3	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬物相互作用について説明できる。	講義	小テストの実施
4	薬物の安全管理、薬物の副作用や有害事象の早期発見と適切な対応について説明できる。	講義	小テストの実施
5	抗感染症薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義	小テストの実施
6	抗悪性腫瘍薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義	小テストの実施
7	解熱鎮痛薬、制吐薬、便秘治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
8	下痢治療薬、鎮咳・去痰薬、鎮静薬、睡眠薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
9	高血圧症、急性冠症候群、心不全の治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
10	不整脈、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の治療薬、抗血栓薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
11	消化性潰瘍、胃食道逆流症、慢性肝炎、慢性腎臓病の治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
12	糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、関節リウマチの治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
13	パーキンソン病、認知症、うつ病、てんかんの治療薬の種類、特徴と作用機序、与薬時の注意点について説明できる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
14	薬物治療における看護師の役割拡大、特に特定行為に選定されている薬剤関連項目について述べるができる。	講義・グループワーク	小テストの実施 課題レポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	小テストを復習しておくこと。

■受講上の注意

講義の予習(前もって教科書を読んでおく)をして、主体的に授業に望むこと。

■成績評価の方法

終講試験(80%)、小テスト(10%)、課題レポート(5%)、授業への参加態度(5%)

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 別冊 臨床薬理学』医学書院

■備考

資料プリントを毎回配布する。

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

環境保健学

講師: 青山 公治

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

環境と人間の間の相互作用について理解を深め、人々の健康の保持・増進を目指して環境要因と生体影響並びにその予防対策の基礎的知識を習得する。

1. 健康は我々を取り巻く環境要因と相互作用の中で維持されていることを説明できる。
2. 健康事象を環境との関りとして捉える視点を身につける。
3. 環境要因の変化による健康影響とそれらの予防対策について説明できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「環境と人間」 健康はヒトと環境との相互作用の中で成立していることを説明できる。	講義	パワーポイントと教科書をもとに講義をすすめる。予習は教科書を、復習は教科書と配布資料を見直す。テキストp2-12, p118-119
2	「地球規模の環境と健康」 従来の公害と現在の広域的な地球環境汚染の状況を説明できる。	講義	同上 テキストp119-128
3	「水質汚濁」 水質汚濁指標について説明できる 海洋プラスチック問題について説明できる 「大気汚染」 我が国の主な大気汚染物質とその現状および対策について説明できる	講義	同上 テキストp129, p131-133
4	「物理的環境要因と健康」 電離放射線および非電離放射線の健康影響について説明できる。 温熱環境の評価と健康影響について説明できる。	講義	同上 テキストp135-137
5	「生活環境と健康」 室内環境と健康(シックハウス症候群)について説明できる。 食品管理に関する法律について説明できる。 上水道と下水道処理について説明できる。	講義	同上 テキストp138-139, p140-143, p130, p146-147
6	「廃棄処理物」 廃棄物の分類について説明できる。	講義	同上 テキストp144-146
7	「日本の環境行政」 環境基本法の理念を説明できる。 環境基準について説明できる。」	講義	同上 テキストp148-151
8	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義内容だけでなく、環境保健に関連する社会情報にも関心を持ちながら理解を深めること。

■成績評価の方法

筆記試験 100点

■テキスト参考書など

テキスト: 系統看護学講座・専門分野「公衆衛生」医学書院
参考書: 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

■備考

■実務経験

看護学概論

講師: 濱川 孝二

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護の原点や理念、歴史的背景などについて学び、「看護とは何か」を考える。また、看護の対象、目的及び看護活動における基本的概念を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護師とは何をする職業なのか、看護師の役割と看護独自の機能とは何かを考えることができる。	講義・グループワーク	自己の考える看護についてまとめてくること。 (テキスト序章参照)
2	看護の歴史的変遷と理論家による看護のとらえ方、看護の定義を学び、看護の本質について理解できる。	講義・グループワーク・DVD	看護の歴史、定義について調べてくること。 (テキストP10～20参照)
3	対象である人間について、生物的(身体的)・心理的(精神的)・社会的統一体として理解できる。	講義・グループワーク	人間の心と身体の関係について調べてくること。 (テキスト第2章参照)
4	健康の概念を理解し、看護の目的である健康の意義のついて理解できる。	講義・グループワーク	「健康」とは何か、自己の考えをまとめておくこと。 (テキスト第3章参照)
5	生活の要素と健康とのかかわりについて理解できる。	講義・グループワーク	自己の考える生活とは何かについてまとめてくること。
6	人間にとっての環境について理解し、環境との相互作用について考えることができる。	講義・グループワーク	身の回りにある環境とは何かを考え、まとめてくること。
7	主な看護理論家の述べる看護理論から、看護が果たす役割について理解できる。	講義・グループワーク	看護理論家みる看護の定義を読んでくること。 「看護覚書」「看護の基本となるもの」を持参する。
8	主な理論家の述べる看護理論から、看護が果たす役割について理解できる。	講義・グループワーク	看護理論家みる看護の定義を読み、理論家の述べる看護についてまとめてくること。 「看護覚書」「看護の基本となるもの」を持参する。
9	主な看護理論家による看護の考え方を学び、自己の考える看護について考えを深めることができる。	講義・グループワーク	「看護覚書」「看護の基本となるもの」を読み、看護とは何かを自分の考えをまとめてくること。
10	看護の機能と役割、継続性と多職種連携の実際、その重要性を理解できる。	講義・グループワーク	テキストの「看護の提供のしくみ」について、読んでくること。
11	看護行為を行う際に用いられるケアの概念を学び、看護におけるケアとは何かを理解する。また、看護実践に必要な要素、看護実践の質の保証に必要な条件を学ぶ。	講義・グループワーク	看護における「ケア」とは何かについて、調べてくること。
12	看護実践を支える看護制度、看護行政、看護の周辺的な役割について理解できる。	講義・グループワーク	専門職とは何か、専門職としての看護役割について調べてくること。
13	倫理とは何か、看護職を目指すうえでの倫理の必要性や医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、看護実践における倫理とは何かについて考えることができる。	講義・グループワーク	倫理、道徳、法とは何かについて調べてくること。 (テキスト第5章参照)
14	現代の保健医療福祉活動における看護職の特徴と課題について理解できる。	講義・グループワーク	保健医療福祉活動とは何かについて調べてくること。
15	終講試験・まとめ	筆記試験	全ての講義資料を持参すること

■受講上の注意

看護とは何かについて考えていく講義です。遅刻、欠席のない様にする。講義前には課題を課す事もあるので、きちんと事前学習を行い提出期限を遵守する。講義中の私語、携帯等の音については十分に注意すること

■成績評価の方法

平常点 10点(出席状況・受講態度など)、事前課題 10点、筆記試験 80点

■テキスト参考書など

「看護学概論」メヂカルフレンド社
「看護覚え書」現代社 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

共通基本技術 I

講師: 杉戸 結香

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護技術の意義を理解し、対象の安全・安楽を守るために必要な基礎的知識、技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護技術の特徴を理解できる	講義	テキスト I 序章の予習をしておくこと
2	看護技術を適切に実践するための要素を理解できる	講義	テキスト I 序章、テキスト II 序章の予習をしておくこと
3	看護における安全・安楽について理解できる	講義・グループワーク	テキスト I 第3章・II 第5章を事前に読んでおくこと
4	1)安全確保の技術について理解できる 2)組織における事故防止対策について理解できる 3)医療安全の重要性と対策について理解できる	講義	テキスト I 第3章の予習をしておくこと
5	苦痛の緩和・安楽確保の技術について理解できる	講義	テキスト II 5章を予習する
6	療養環境における危険防止について理解できる	講義・グループワーク	療養環境のリスク予測と対策をグループで考え演習する
7	計画した看護の技術(安楽促進の技術)を実施し、援助を振り返ることができる	演習	安全・安楽な技術を提供するための一連の実践プロセスを行う
8	感染成立の条件と感染防止の基本が理解できる 標準予防策と感染経路別予防策の基本が理解できる	講義	テキスト I 第2章、A感染防止の基礎知識、B標準予防策、C感染経路別予防策を予習しておくこと
9	標準予防策の根拠に基づいた具体的方法が理解できる 感染性医療廃棄物の取り扱いが理解できる	講義	テキスト I 第2章、F感染性廃棄物の予習する
10	標準予防策が適切に実施できる	演習	予習・復習を行い動画を視聴して主体的に臨むこと
11	医療器材の洗浄・消毒・滅菌方法の基礎知識が理解できる 無菌操作の基礎知識が理解できる	講義	テキスト I 第2章D洗浄・消毒・滅菌、E無菌操作の予習をしておくこと
12	無菌操作を適切に実施できる	講義・演習	テキスト I 第2章E無菌操作の予習をしておくこと 予習・復習を行い動画を視聴して主体的に臨むこと
13	無菌操作を適切に実施できる	演習	テキスト I 第2章E無菌操作の予習をしておくこと 予習を行い動画を視聴して主体的に臨むこと
14	無菌操作を適切に実施できる	演習	無菌操作の技術確認を行う
15	まとめ、終講試験(筆記試験)	筆記試験	筆記試験を行う

■受講上の注意

看護技術を提供する際の要素について理解し、看護技術の基盤である安全(感染防止の技術を含む)・安楽の技術について習得する科目である。演習は実習室でおこなうため、身だしなみが整っていない学生は入室を認めない。

■成績評価の方法

課題(15点)、技術確認(10点)、筆記試験(75点) 合計100点

■テキスト参考書など

『基礎看護技術 I』『基礎看護技術 II』『基礎・臨床看護技術』 医学書院
スタディガイド 照林社

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

共通基本技術Ⅱ

講師:前田 真紀

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

看護における対人関係成立に必要な意思疎通の手段を理解し、演習を通してコミュニケーション技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間関係作りの基盤になるコミュニケーションの意義を理解できる	講義	テキストⅠ第1章Aを予習しておくこと
2	コミュニケーションの基本的要素と分類を理解できる	講義	テキストⅠ第1章Bを予習しておくこと
3	コミュニケーションに必要な態度を理解できる	講義・演習	テキストⅠ第1章Cを予習しておくこと
4	効果的なコミュニケーションの技法を理解できる(傾聴・情報収集)	講義・グループワーク	テキストⅠ第1章Dを予習しておくこと
5	効果的なコミュニケーションの技法を理解できる(説明・アサーティブ)	講義・グループワーク	テキストⅠ第1章Dを予習しておくこと
6	対象一看護師関係におけるコミュニケーションを理解できる	講義	
7	対象一看護師関係におけるコミュニケーションを理解できる	講義・演習	
8	プロセスレコードの意義と記載方法について理解できる	講義	テキストⅠ第1章B④を予習しておくこと
9	コミュニケーションにおける技法を理解し、ロールプレイで活用することができる	講義・演習	既習した授業をもとに、看護におけるコミュニケーションについて考え、事例をもとにロールプレイを行う
10	ロールプレイ(学生間)を通して、自己のコミュニケーションを振り返り、対象一看護師間液のあり方と自己の課題について考える	演習	実施したロールプレイをリフレクションする 授業終了後、プロセスレコードを記載すること
11	プロセスレコードをもとに体験した場面を振り返り、自己の対人関係の傾向を把握し、自己の課題を明確にすることができる	講義・演習	プロセスレコードをもとにグループワークをする
12	医療状況におけるコミュニケーションを実践できる(模擬患者)	演習	既習したコミュニケーションスキルを復習し演習に臨むこと
13	医療状況におけるコミュニケーションを実践できる(模擬患者)	演習	既習したコミュニケーションスキルを復習し演習に臨むこと
14	実践経験をフィードバックし、実践的思考を深めることができる	演習・グループワーク	実践したことをグループメンバーと討議する
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

課題評価、総括的評価

■テキスト参考書など

医学書院(電子書籍)「基礎看護技術Ⅰ」

■備考

資料プリントは随時配布する

■実務経験

本授業は、看護師として実務経験のある教員による授業である

共通基本技術Ⅲ

講師: 杉戸 結香

単位数: 2単位

時間数: 60時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

ヘルスアセスメントの目的について理解し、対象の健康状態を客観的・系統的に把握するための身体計測、バイタルサインとフィジカルアセスメントに必要な技術を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ヘルスアセスメントの意義・目的・方法と留意点が理解できる	講義	テキストP128～142を予習しておくこと
2	ヘルスアセスメントの意義・目的・方法と留意点が理解できる	講義	テキストP142～154を予習しておくこと
3	バイタルサインとは何か、バイタルサインを観察する意義がわかる	講義	テキストP154～ 予習しておくこと
4	意識レベル・体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法が理解できる	講義、個人学習協同学習	各個人の課題に取り組むとともに、協同学習で協同学習を深める
5	意識レベル・体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法が理解できる	講義、個人学習協同学習	各個人の課題に取り組むとともに、協同学習で協同学習を深める
6	意識レベル・体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法が理解できる	講義、個人学習協同学習	各個人の課題に取り組むとともに、協同学習で協同学習を深める
7	意識レベル・体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法が理解できる	講義、個人学習協同学習	各個人の課題に取り組むとともに、協同学習で協同学習を深める ポストテスト実施
8	意識レベル・体温・脈拍・呼吸・血圧に関する基礎的知識・方法が理解できる 記録・報告の方法について理解できる	講義、個人学習協同学習	各個人の課題に取り組むとともに、協同学習で協同学習を深める ポストテスト実施
9	バイタルサイン測定が正確に実施できる 身体計測の方法・留意事項がわかる	演習協同学習	事前学習を行い動画の視聴も行った上で、主体的に臨むこと
10	バイタルサイン測定が正確に実施できる 身体計測の方法・留意事項がわかる	演習協同学習	事前学習を行い動画の視聴も行った上で、主体的に臨むこと
11	バイタルサイン測定が正確に実施できる	演習協同学習	事前学習を行い動画の視聴も行った上で、主体的に臨むこと
12	バイタルサイン測定が正確に実施できる	技術試験	繰り返し練習をしたうえで臨むこと
13	バイタルサイン測定が正確に実施できる	技術試験	繰り返し練習をしたうえで臨むこと
14	心理・社会状態のアセスメントが理解できる	講義	テキストP267～279を予習しておくこと
15	呼吸器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(呼吸器の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP191～204を予習すること
16	呼吸器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(呼吸器の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP191～204を予習すること
17	循環器のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(循環器の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP204～215を予習すること
18	事例(呼吸器・循環器)をもとにヘルスアセスメントが実施できる	演習	講義の内容を復習し、動画の視聴をして主体的に臨むこと
19	事例(呼吸器・循環器)をもとにヘルスアセスメントが実施できる	演習	講義の内容を復習し、動画の視聴をして主体的に臨むこと
20	消化器系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(消化器系の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP220～230を予習すること
21	消化器系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	演習	講義の復習を行い、動画の視聴をして主体的に臨むこと

22	筋骨格系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(筋骨格系の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP230～239を予習すること
23	脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(脳神経系の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP239～P263を予習すること
24	脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(脳神経系の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP239～P263を予習すること
25	筋骨格系・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	講義	事前学習(脳神経系の解剖生理)を十分に行い、臨むこと テキストP239～P263を予習すること
26	筋骨格系・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・方法・アセスメントが理解できる	演習	講義の復習を行い、動画を視聴して主体的に臨むこと
27	事例をもとにフィジカルアセスメントを考えることができる	講義	事前学習を行い、主体的に臨むこと LTD話し合い学習法で行う
28	事例をもとに、フィジカルアセスメントを行うことができる	演習	事前学習とこれまで学習してきたことを復習し、主体的に臨むこと
29	事例をもとに、ヘルスアセスメントができる	講義	事前学習を行い、主体的に臨むこと
30	終講試験およびまとめ		筆記試験

■受講上の注意

解剖生理学で学習したことを復習し、講義に臨むこと。自己学習や放課後などの時間を有効に活用し、技術練習に励み、技術向上を目指すこと。協同学習を行い、お互いに自己の役割を発揮して学習を深めること。

■成績評価の方法

筆記試験60点、課題20点、技術試験20点 計100点

■テキスト参考書など

『基礎看護技術 I』『基礎・臨床看護技術』医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

生活援助技術 I

講師: 杉戸 結香、内野 優子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間の生活における環境と活動・休息の意義を理解し、日常生活の援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間にとっての環境の意味を理解し、療養生活を構成する要素、病室・病床の環境のアセスメントについて理解することができる。	講義	テイチンゲール著「看護覚え書」の環境に関する項目を読んでくる テキスト基礎看護技術Ⅱ第Ⅰ章を予習してこ
2	病室・病床の環境整備の目的・方法・留意点を理解できる ベッドメイキング・リネン交換の目的・方法・留意点が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第Ⅰ章を予習してこ
3	病床環境についてアセスメントし、環境調整ができる	演習	講義内容を復習し、コッノートに技術についての予習を行い、動画を視聴した上で主体的に演習に臨むこと
4	ベッドメイキングとリネン交換を実施できる	演習	講義内容を復習し、コッノートに技術についての予習を行い、動画を視聴した上で主体的に演習に臨むこと
5	ベッドメイキングとリネン交換を実施できる	演習	環境調整技術の技術確認を行う
6	人間の生活における活動・運動の意義を理解し、活動のアセスメントと援助方法が理解できる 体位変換と床上運動の目的・方法・留意点を理解できる	講義	テキスト第4章を予習してこ 看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
7	看護にとっての活動を理解し、ボディメカニクスの知識を身につけ活用の必要性がわかる	講義	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
8	体位変換の基礎的知識を理解し、安全・安楽を考え実施できる	演習	動画を視聴し、自分で実施できるように学習する 学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること
9	移乗・移送の目的・方法・留意点を理解できる	講義	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
10	車いすへ安全・安楽に移乗、移送することができる	演習	動画を視聴し、自分で実施できるように学習する 学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること
11	移乗・移送の援助が安全・安楽を考え実施できる	演習	動画を視聴し、自分で実施できるように学習する 学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること
12	歩行の援助の目的・方法・留意点を理解できる 歩行の援助が安全・安楽を考え実施できる	講義後、演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること
13	ストレッチャーへの移乗、移送を安全・安楽に実施することができる 必要に応じた活動の援助を安全・安楽・自立に向けて実践することができる	演習	動画を視聴し、自分で実施できるように学習する
14	人間の生活における睡眠・休息の意義を理解し、睡眠・休息のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第4章を予習してこ
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

既習した形態機能学で学習したことを復習し、授業に臨むこと
主体的に各自で技術演習に励み、技術向上を目指すこと

■成績評価の方法

技術チェック、課題、筆記試験

■テキスト参考書など

医学書院「基礎看護技術Ⅱ」、照林社「スタディガイド」

■備考

資料プリントは随時配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

生活援助技術Ⅱ

講師: 外園 智子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間の生活における食事と排泄を理解し、日常生活の援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	食事のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	「看護につなぐ人体の構造の機能」の中で学習した「食べる」を復習しておくこと テキスト基礎看護技術Ⅱ第2章を予習しておくこと
2	経口摂取が可能な対象のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第2章を予習しておくこと
3	経口摂取が可能な対象への食事援助が実施できる	演習	演習計画を立案し援助を実施する。患者体験を通し、食事援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
4	嚥下障害のある対象のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第2章を予習しておくこと
5	経口摂取が困難な対象の援助方法が理解できる(経管栄養法、中心静脈栄養法)	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第2章を予習しておくこと
6	経管栄養法の実施方法が理解できる	講義・演習	看護技術コソノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習) 学習したことを看護技術コソノートに追加・修正すること(復習)
7	排泄のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	「看護につなぐ人体の構造の機能」の中で学習した「排泄」を復習しておくこと テキスト基礎看護技術Ⅱ第3章を予習しておくこと
8	自然排泄(排尿・排便)に問題のある対象の援助方法を理解できる(床上での排尿・排便の援助、尿失禁、便失禁のある対象のおむつ、ポータブルトイレを使用した援助)	演習	看護技術コソノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
9	自然排泄(排尿・排便)に問題のある対象の援助方法を理解できる(床上での排尿・排便の援助、尿失禁、便失禁のある対象のおむつ、ポータブルトイレを使用した援助)	演習	学習したことを看護技術コソノートに追加・修正すること(復習)
10	摘便、浣腸の方法が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第3章を予習しておくこと
11	モデル人形に排泄援助(坐薬挿入・摘便・浣腸)が実施できる	演習	看護技術コソノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習) 学習したことを看護技術コソノートに追加・修正すること(復習)
12	導尿の目的と方法が理解できる	講義	テキスト基礎看護技術Ⅱ第3章を予習しておくこと
13	モデル人形に排泄援助(導尿)が実施できる	演習	看護技術コソノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
14	モデル人形に排泄援助(導尿)が実施できる	演習	学習したことを看護技術コソノートに追加・修正すること(復習)
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

既習の人体の構造と機能(消化器系・泌尿器系)、看護につなぐ人体の構造と機能(食べる・排泄)を復習し、講義に臨むこと。
看護技術は繰り返し練習し身につくものです。主体的に学習してください。実習室での授業は身だしなみ・準備が整っていない場合入室できません。

■成績評価の方法

提出物・課題、平常点(30点)・終講試験(70点)

■テキスト参考書など

電子書籍: 医学書院「基礎看護技術Ⅱ」 照林社「スタディガイド2024」

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

生活援助技術Ⅲ

講師:前田 真紀

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

人間の生活における身体の清潔と衣生活の意義を理解し、対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間の生活における身体の清潔・衣生活のアセスメントと援助方法が理解できる	講義・グループワーク	「看護につなぐ人体の構造と機能」で学習したことを復習しておくこと 医学書院(電子書籍)基礎看護技術Ⅱを予習しておくこと
2	入浴・シャワー浴のアセスメントと援助方法が理解できる	講義・グループワーク	「看護につなぐ人体の構造と機能」で学習したことを復習しておくこと 医学書院(電子書籍)基礎看護技術Ⅱを予習しておくこと
3	入浴・シャワー浴が安全・安楽に実施できる	演習	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
4	全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
5	全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
6	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
7	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
8	事例に応じた全身清拭・寝衣交換が安全・安楽に実施できる	技術試験	受験後、リフレクションシートをもとに自己の技術を振り返る
9	部分浴(手浴・足浴)のアセスメントと援助方法が理解できる	講義・グループワーク	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
10	部分浴(手浴・足浴)の援助を安全・安楽を考え実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
11	部分浴(口腔・陰部洗浄)のアセスメントと援助方法が理解できる	講義・グループワーク	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
12	部分浴(口腔・陰部洗浄)の援助を安全・安楽を考え実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
13	洗髪のアセスメントと援助方法が理解できる	講義	看護技術コッノートに、チェックリストの目的・根拠やコツを記入する(予習)
14	洗髪の援助を安全・安楽を考え実施できる	演習	学習したことを看護技術コッノートに追加・修正すること 患者体験を通して、清潔援助を受ける対象の心理的状态を理解してほしい
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

予習については事前に連絡する
自己学習や放課後等の時間を活用し、技術試験に励み技術向上を目指すこと

■成績評価の方法

授業への参加態度、授業中の課題(10点)、技術試験(20点)、筆記試験(70点)により総合的に評価する

■テキスト参考書など

医学書院(電子書籍)基礎看護技術Ⅱ

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

技術演習・評価 I

講師: 前田 真紀

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

1年次に習得した様々な看護技術を活用し、事例に応じた看護を実践するための能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法の理解ができる。事例の看護を実践するために必要な情報の収集ができる	講義・グループワーク	講義開始時に確認テストを行う。講義終了後、次の講義までにワークシート内の追加情報項目を記載する。
2	事例患者のニーズを把握して情報を整理し、必要な看護を考える	講義・グループワーク	講義終了後、指定日までに援助計画を立案し提出する。
3	事例患者に合わせた看護計画の追加・修正ができる	講義・グループワーク	グループワークを通して、事例患者の状態に合った看護援助であるか討議し、援助計画を追加・修正する。
4	計画をもとに、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかグループで討議しながら演習を行う。
5	計画をもとに、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかグループで討議しながら演習を行う。
6	計画をもとに、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかグループで討議しながら演習を行う。
7	計画をもとに、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかグループで討議しながら演習を行う。
8	リフレクションを通して、事例患者に必要な看護援助を再考し、看護援助を追加・修正ができる。	講義・グループワーク	リフレクションを通して学びを共有し、事例患者の状況に合った必要な看護援助を再考して、看護計画の再立案を行う。
9	事例患者の状況に応じて、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立を考慮した看護援助であるかを確認し、看護援助を実施する。演習時、計画の追加・修正を行う。演習時間以外に各自で技術練習を行う。
10	事例患者の状況に応じて、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立を考慮した看護援助であるかを確認し、看護援助を実施する。演習時、計画の追加・修正を行う。演習時間以外に各自で技術練習を行う。
11	事例患者の状況に応じて、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立を考慮した看護援助であるかを確認し、看護援助を実施する。演習時、計画の追加・修正を行う。演習時間以外に各自で技術練習を行う。
12	事例患者の状況に応じて、安全・安楽・自立を考慮した看護援助が実施できる。	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立を考慮した看護援助であるかを確認し、看護援助を実施する。演習時、計画の追加・修正を行う。演習時間以外に各自で技術練習を行う。
13	事例患者に応じて、安全・安楽・自立に考慮した看護援助が実施できる。	技術試験	試験終了後、リフレクションシートを記載し、自己の看護を振り返る。
14	事例患者に応じて、安全・安楽・自立に考慮した看護援助が実施できる。	技術試験	試験終了後、リフレクションシートを記載し、自己の看護を振り返る。
15	リフレクションを通して、自己の課題を明確にすることができる。	講義・グループワーク	リフレクションしたことをもとに、事例患者の看護を再考する。本科目を通して学んだこと、自己の課題を解決するための具体策を考える。

■受講上の注意

提出物は、期日を厳守すること。主体的に講義や演習に望むこと

■成績評価の方法

事前学習(5点)、確認テスト(10点)、看護援助計画(25点)、技術試験(50点)、リフレクション(10点)の総計100点。出席状況点として、欠席毎に総計点から3点を減点する

■テキスト参考書など

医学書院(電子書籍)「基礎看護技術 I」、「基礎看護技術 II」

■備考

課題内容と確認テストの内容は事前に知らせる。
個人ワークの内容が評価に繋がるため、個人で取り組むこと。既習した看護技術の復習を行うこと。
これまでの単元で学んだ知識・技術を活用すること。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

健康回復支援論

講師: 鹿島 三千代、政元 圭菜

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

健康障害を持つ対象を理解し、健康回復に向け必要な看護を考える

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	健康回復援助論の概要が理解できる。病期のとらえ方と基礎的知識が理解できる。	講義	臨床看護総論・慢性期看護のテキストを読むこと。
2	病期のとらえ方と基礎的知識が理解できる。患者心理の特徴と影響因子について理解できる。	講義・グループワーク	臨床看護総論・慢性期看護のテキストを読むこと。ロールプレイを観て患者心理を考える。
3	経過別に応じた看護(急性期)。急性期にある患者の特徴が理解できる。急性期にある患者の看護が理解できる。	講義・グループワーク	テキスト・資料を読み、1・2回目の復習を行い臨むもの。
4	経過別に応じた看護(回復期)。回復期にある患者の特徴が理解できる。急性期にある患者の看護が理解できる。	講義・グループワーク	テキスト・資料を読み、1～3回目の復習を行い臨むもの。
5	経過別に応じた看護(慢性期)。慢性期にある患者の特徴が理解できる。急性期にある患者の看護が理解できる。	講義・グループワーク	テキスト・資料を読み、1～4回目の復習を行い臨むもの。
6	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
7	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
8	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
9	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
10	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
11	Scenarioの看護を考える(Scenarioの看護)問題との出会いから解決課題の発見。学習による知識の習得、議論を通じた思考の深化・問題解決過程を身につける。健康障害と各期の看護の視点を学ぶ。経過別・主要症状別・治療処置別看護を、作成した病態関連図を活用しながら看護を考える。	PBL	既習している内容を活用し、Scenarioの看護理解するために各種テキスト・資料の活用(課題提出)
12	同上(クラス発表)学習の成果発表を通じて学びの共有(他のグループの学習内容の理解)	クラス発表	発表資料持参
13	模擬患者を演じるための疾患・治療・患者心理の理解が行え、患者想定ができる	講義・グループワーク	事前に配布された事例学習
14	模擬患者体験及びまとめ リフレクションを行いグループで意見交換を行う	演習・グループワーク	リフレクション・グループワークを行い患者心理を深める
15	総括試験及びまとめ		総括評価

■受講上の注意

個人の学習行動や成果が、グループ学習に与える影響を考え主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

課題評価・パフォーマンス評価・総括評価

■テキスト参考書など

【解剖生理学】【循環器】【脳神経系】【腎泌尿器】他随時提示 医学書院
【スタディーガイド】照林社 他科目で既習している資料

■備考

PBLとは、学生同士グループを組み(チーム)、自ら問題を発見し、解決策を考えていく学習方法です。複数のテキストや資料を集め、主体的に学習する方法を身につけることができます

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

地域・在宅看護概論 I

講師: 富安 恵子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人々が暮らす地域を理解し、人々の暮らしや人々が支え合って生きることの重要性を理解するとともに、地域に暮らす人々への看護の役割を学ぶ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	なぜ、地域・在宅看護論なのか。(科目の位置づけ) 地域のなかでの暮らしと健康・看護について学ぶ	講義	サブテキスト地域・在宅看護論P2～9を読んでもく。事前課題を忘れずに臨むこと。
2	人々の暮らしについて理解を深める。暮らしとは何か。構成するもの、暮らしと健康の関係、暮らしの中で健康をとらえることの意味を理解する	講義・グループワーク	自分の暮らしや、家族の暮らしについて調べてくる
3	人々の暮らしについて理解を深める。暮らしとは何か。構成するもの、暮らしと健康の関係、暮らしの中で健康をとらえることの意味を理解する	講義・グループワーク	他の人の意見をしっかりと聞くこと
4	暮らしの基盤としての地域を理解する。地域の定義、人々の暮らす地域の多様性を理解する	講義・グループワーク	自分の住む地域の特性を調べておく
5	人々は家族、職場、学校などシステムを作りながら進み、支え合って生きることを理解する。	講義・グループワーク	テキストをしっかりと読んでくること
6	人々の健康生活を支援するために必要な地域の情報は何か考え、その情報について理解する。学校周辺を歩き、人々の暮らしや健康を支えている資源(人的資源、物的資源)について理解する	協同学習・フィールドワーク	積極的に調べてくる。安全に行動する
7	人々の健康生活を支援するために必要な地域の情報は何か考え、その情報について理解する。学校周辺を歩き、人々の暮らしや健康を支えている資源(人的資源、物的資源)について理解する	フィールドワーク	安全に行動する
8	前回のフィールドワークを基に地域や暮らしについて理解する(エコマップ作成)	講義・グループワーク	まとめに必要な物は各自持参する
9	前回のフィールドワークを基に地域や暮らしについて理解する(エコマップ作成)	講義・グループワーク	まとめに必要な物は各自持参する
10	地域を知る、暮らしを知るために必要な情報を整理し、住民の思いを理解する(インタビューの計画立案と演習)	講義・グループワーク・ロールプレイ	イメージを膨らませ、しっかりと準備する
11	地域に出向き、住民との関わりを通して地域や暮らしについて理解を深める(住民へのインタビューの実施)	フィールドワーク	指定された服装で臨む。言動、行動に留意する
12	地域に出向き、住民との関わりを通して地域や暮らしについて理解を深める(住民へのインタビューの実施)	フィールドワーク	指定された服装で臨む。言動、行動に留意する
13	フィールドワークのまとめを行い、地域で暮らすことについての意義を認識する(自己決定、支え合い)	グループワーク	グループメンバーと協力しながら行う
14	地域における暮らしを支える看護について考えたことを発表する(2クラス合同)	発表	自分の伝えたいことをしっかりと伝える
15	地域における暮らしを支える看護について考えを深める(2クラス合同)	意見交換	活発に意見を交わす 他の人の意見を聞き、看護についてしっかりと考える

■受講上の注意

主体的に取り組むこと。フィールドワークの時は、身だしなみ、行動、言動に留意すること

■成績評価の方法

課題評価、グループワークの成果発表

■テキスト参考書など

医学書院(電子書籍)地域・在宅看護論 I
基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社

■備考

資料・プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、保健師として実務経験のある教員による授業である

基礎看護学実習①②

講師:外園 智子

単位数:2単位

時間数:80時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

基礎看護学実習①病院における看護活動を見学し、対象の療養生活にかかわる看護師の役割について理解する

基礎看護学実習②さまざまな健康段階にある対象の療養生活を知り、対象に必要な日常生活援助を実施する

■科目内容

■学習のねらい

■方法

病院等の実習施設で臨地実習を行う

■学習上の留意点

臨地実習指導者・担当教員の指導のもと実習を行う

■受講上の注意

受持たせていただく患者様とご家族に感謝の気持ちを忘れず実習を行う
既習した学習を復習して主体的に臨む

■成績評価の方法

実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録などの提出などによって、基礎看護学実習①②の実習評価表に基づいて評価を行い、総合して評価する

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による実習である

文化人類学

講師: 米田 智美

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

異なる文化を持つ患者にとっての病の意味や背景に目を向け、医療と文化をキーワードに文化人類学の基本的な視点を学ぶ。また、在日外国人と医療の問題を扱い、学んだ視点や方法論を使って多文化共生医療の現状分析と看護の現場における改善について具体的に検討する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間と文化	講義	「人間と文化」の概念の成立
2	質的研究とエスノグラフィー	講義	エスノグラフィー-ethnographyの基礎的な考え方
3	個人・家族・家族を超えた繋がり	講義	性役割、家族と結婚のあり方など、日本との違い
4	人生と通過儀礼	講義	世界でおこなわれている様々な儀礼、人生の節目の儀礼と人が新たな段階へと進むこととの関連性
5	宗教と世界観	講義	宗教が人間の歴史・規範と結びついての意義
6	健康と医療	講義	健康と病気に係る人間の行動や病気の経験
7	いのちと文化	講義	死と病についての向き合い方の問題、医療人類学の観点
8	終講試験とまとめ	テスト	筆記試験

■受講上の注意

教科書をあらかじめ読んでおくこと

■成績評価の方法

単位取得試験は、レポート評価(30点)、筆記試験(70点)の100点満点、60点以上を合格とする

■テキスト参考書など

文化人類学 医学書院2021年1月6日第4版 編集 波平恵美子 執筆 波平恵美子 小田博志 仲川祐里 浜本まり子 森田久仁子 道信良子

■備考

近年、看護においても文化人類学その下位分野の医療人類学の考え方や方法論に関心が高まっています。これを機会に文化人類学(医療人類学)という学問に触れてみてほしいと思います。

■実務経験

教育原理

講師: 杉原 薫

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- ・「教育とはなにか」について考え、自分なりの答えを他者に伝えることができる。
- ・看護師や養護教諭として果たすべき教育的役割についての基礎知識を実践に応用するための視点を持つことができる。
- ・専門職業人として生涯学習に積極的に取り組もうとする意欲を持つことができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	これまでの自分を振り返り、「教育」とは何かについて考える。	グループワーク ワークシートの提出	
2	なぜ、「教育」が必要なのかについて考える。	講義・グループワーク ワークシートの提出	
3	「教育」の目的について理解する。	講義・グループワーク ワークシートの提出	
4	学校で行われている「教育」の意義について考える。	講義・グループワーク ワークシートの提出	
5	諸外国における学校「教育」の状況について理解する。	DVD・グループワーク ワークシートの提出	
6	学校外で行われている「教育」の意義について考える。－家庭教育－	講義・グループワーク ワークシートの提出	
7	学校外で行われている「教育」の意義について考える。－生涯教育－	講義・グループワーク ワークシートの提出	
8	「考える」ことの本質について考える。	DVD・グループワーク ワークシートの提出	
9	「評価」の方法と意義について理解する。	講義・グループワーク ワークシートの提出	
10	「子ども」とはどのような存在なのかについて考える。	DVD・グループワーク ワークシートの提出	
11	現代社会における「子ども」を取り巻く問題について理解する。－貧困－	講義・グループワーク ワークシートの提出	
12	現代社会における「子ども」を取り巻く問題について理解する。－いじめと不登校－	講義・グループワーク ワークシートの提出	
13	現代社会における「子ども」を取り巻く問題について理解する－ジェンダーとセクシュアリティ－	講義・グループワーク ワークシートの提出	
14	これまでの学びを振り返り、「教育」とは何かについて考える。	グループワーク 13回分のワークシートを持参すること。 ワークシートの提出	
15	終講試験とまとめ	筆記試験 14回分のワークシートを持参すること。	

■受講上の注意

- ・他者の言葉に耳を傾けること。
- ・自分の考えを他者に伝える努力をすること。

■成績評価の方法

- ・毎回の授業への参加度・ワークシートへの記入状況(50%)
- ・終講試験(50%)

■テキスト参考書など

テキストは使用しない。

■備考

- ・受講者の興味関心により授業内容を変更する場合がある。
- ・毎回の授業においてワークシートを配布するので紛失しないよう保管すること。

■実務経験

情報科学

講師: 福崎 賢治

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

コンピュータリテラシー、情報倫理、情報セキュリティに関する知識を習得し、情報処理の基本的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	レポートを作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
2	レポートを作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
3	案内文を作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
4	案内文を作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
5	表を作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
6	表を作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
7	グラフを作成できる1	講義・演習	予習を行うこと
8	グラフを作成できる2	講義・演習	予習を行うこと
9	データベースを使える1	講義・演習	予習を行うこと
10	データベースを使える2	講義・演習	予習を行うこと
11	表計算ソフトの関数を使う1	講義・演習	予習を行うこと
12	表計算ソフトの関数を使う2	講義・演習	予習を行うこと
13	表計算ソフトの関数を使う3	講義・演習	予習を行うこと
14	情報倫理を理解できる	講義・演習	予習を行うこと
15	情報セキュリティを理解できる	講義・演習	予習を行うこと

■受講上の注意

予習を必ず実施すること。

■成績評価の方法

平常点30%、授業中の提出課題70%により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

FOM出版 情報リテラシー Windows10 Office 2019 対応

■備考

USBメモリーを準備すること

■実務経験

キャリアデザイン

講師: 牟田 京子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

本科目は、看護者の働き方の選択肢は多岐にわたることを認識し、自身のライフサイクルやライフスタイルに合わせた柔軟な働き方をイメージし、「目指すべき看護者像」を具体化させることが狙いである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション 講義の概要説明・看護専門職業人とは	講義	
2	看護師の役割 看護師の仕事、看護活動の場、看護職に求められること	講義	
3	看護師のキャリアデザイン	講義	
4	キャリアデザインを支える考え方	講義	
5	キャリアデザインの実際	講義	
6	ストレスマネジメントの実践的な方法	講義	
7	アンガーマネジメントの実践的な方法	講義	
8	終講試験 看護専門職業人としてのわたしの出発(レポート)	レポート	
9	看護専門職業人としての私の出発	講義	

■受講上の注意

第1回の講義までにテキスト第1章を読んでおくこと

■成績評価の方法

①1講義毎のミニツツペーパー40% ②終講試験レポート課題60%

①と②によって評価する

■テキスト参考書など

濱田安岐子(2022)看護者のためのキャリアデザインBOOK つちや書店

■備考

本講義においてアクティブラーニング(グループディスカッション及びプレゼンテーション)を取り入れ、学修効果を高める

■実務経験

疾病論Ⅳ

講師:吉家 清貴

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

「内分泌・代謝」「血液・造血器」「アレルギー・膠原病・感染症」に関する代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	内分泌系について理解する。	講義	内分泌について復習する。
2	脳下垂体疾患について理解する。	講義	脳下垂体腫瘍について講義する。
3	甲状腺疾患、副腎皮質疾患について理解する。	講義	よく見られる甲状腺、副腎疾患について講義する。
4	副腎皮質・副腎髄質・腎臓ホルモンと血圧異常、副甲状腺とカルシウム異常について理解する。	講義	高血圧をおこす内分泌疾患について講義する。
5	代謝と代謝性疾患「糖尿病」「脂質異常」「痛風」について理解する。	講義	糖尿病、メタボリックシンドロームについて講義する。
6	内分泌疾患・代謝疾患のまとめと国家試験過去問題を紹介する。	講義	内分泌疾患に関する国家試験過去問の解説をする
7	赤血球の疾患「貧血」について理解する。	講義	貧血の原因・症状について講義する。
8	白血球の疾患「白血病、悪性リンパ腫」について理解する。	講義	白血病の治療について講義する。
9	血小板、凝固異常の疾患について理解する。	講義	出血傾向、抗凝固薬について講義する。
10	血液疾患のまとめと国家試験過去問題を紹介する。	講義	血液疾患に関する国家試験過去問を解説する。
11	アレルギー疾患について理解する。	講義	アレルギーの種類と疾患について講義する。
12	自己免疫疾患、膠原病について理解する。	講義	自己を障害する免疫異常について講義する。
13	免疫疾患のまとめと国家試験過去問題を紹介する。	講義	免疫疾患に関する国家試験過去問を解説する。
14	感染症をおこす微生物について理解する。	講義	感染症について復習する。
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

前もって講義プリントを配布するので、講義する範囲を一読してください。
自宅での復習することが大切です。わからないことがあれば講義後に質問してください。

■成績評価の方法

筆記試験 90点 講義に対する取り組み 10点

■テキスト参考書など

テキスト:医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「⑥内分泌・代謝」、「④血液・造血器」、「⑪アレルギー・膠原病・感染症」
講義内容のまとめプリントを配布する。

■備考

ホワイトボードに板書します。板書内容はホームページにアップしますが、講義中にスマートフォン等による撮影を許可します。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

疾病論 V

講師: 吉家 清貴、大山 光子、堀川 憲子、吉崎 愛、貴島

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

系統別、代表的疾患について、その病態生理、診断、検査、治療の基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	耳鼻咽喉—1 鼻・口腔・咽喉頭疾患について理解できる。	講義	基本的な解剖と生理機能も含んだ内容の理解も含む。 担当: 吉家
2	耳鼻咽喉—2 耳鼻科領域の腫瘍論と嚥下障害について理解できる。	講義	嚥下・咀嚼・音声等についての理解する。 担当: 吉家
3	耳鼻咽喉—3 耳科疾患: 機能と難聴を中心に理解できる。	講義	めまい、難聴等代表的疾患を理解する。 担当: 吉家
4	眼—1 眼の解剖・検査を学ぶ。	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用 担当: 大山
5	眼—2 眼の疾患・治療①を学ぶ。	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用 担当: 大山
6	眼—3 眼の疾患・治療②を学ぶ。	講義	テキスト・パワーポイント・配布資料使用 担当: 大山
7	歯科口腔—1 歯・口腔・顎・顔面の構造機能を理解する。	講義	歯・口腔・顎・顔面の構造機能を理解する。 担当: 堀川
8	歯科口腔—2 歯・口腔・顎・顔面の疾病を理解する。	講義	歯・口腔・顎・顔面の疾病を理解する。 担当: 堀川
9	歯科口腔—3 口腔ケアの意義、清掃方法を理解する。	講義	口腔ケアの意義、清掃方法を理解する。 担当: 堀川
10	皮膚—1 皮膚科総論(症状、所見、検査、治療、創傷、褥瘡)を理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 宮内
11	皮膚—2 皮膚各論(湿疹、痒疹など)を理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 宮内
12	皮膚—3 皮膚科各論(感染、膠原病など)を理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 宮内
13	生殖器系—1 生殖器系の解剖と生理を理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 貴島
14	生殖器系—2 生理の異常と感染症について理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 貴島
15	生殖器系—3 良性腫瘍と悪性腫瘍について理解する。	講義	予習・復習を行うこと。 担当: 貴島

■受講上の注意

- (耳鼻咽喉) 興味をもってきていただきたい。
理解していただけるように講義をする予定。
- (眼科) 疾患の写真をできるだけ出しますので、見るようにしてください。
一日目に配布した資料は毎回持参すること。
- (歯科・口腔) 参考テキストの項目を予習し授業中に理解する。
傾聴する態度を身につける。
- (生殖器) 集中講義で行う。

■成績評価の方法

15回講義終了後に終講試験を実施し、総合的に評価する。

- (耳鼻咽喉) 終講試験
- (眼科) 出席状況、終講試験

■テキスト参考書など

系統看護学講座「耳鼻咽喉」「眼」「歯科口腔」「皮膚」「女性生殖器」医学書院

■備考

- 適宜資料を配布する。
(眼科) 一日目に全回分の資料を配布。
(歯科・口腔) 資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

佳子

臨床心理学

講師: 田沼 利枝

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

臨床心理学の主要理論を通して、方法、対象、適用領域、及び社会的意義についての基礎知識、臨床心理学的人間観と臨床心理学的人間理解の基礎的方法を理解する。また、臨床心理学に基づいた医療現場におけるカウンセリングの実際を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床心理学における心理支援と人間観、発達観について理解できる	講義・個人ワーク	テキストの「はじめに」と第1章1節を読んでおくこと。講義終了後ミニレポートを提出
2	臨床心理学における心理支援と臨床観について理解する	講義・個人ワーク・DVD	テキストの第1章3節を読んでおくこと。講義終了後ミニレポート提出
3	心理支援のための臨床心理アセスメントのあり方について理解できる	講義・個人ワーク	テキストの第2章2節を読んでおくこと。講義終了後ミニレポートを提出
4	心身症の背景と症状の意味及び心身症への臨床心理学的支援について理解できる。	講義・グループワーク・DVD	テキストの第5章2節、第6章1節を読んでおくこと。講義終了後ミニレポート提出
5	PTSDについての基礎的な知識について理解できる	講義	テキストの第8章を読んでおくこと。講義終了後ミニレポート提出
6	PTSDのための臨床心理学的心理支援について理解できる。	講義・DVD	テキストの第9章を読んでおくこと。講義終了後ミニレポートの提出
7	医療現場で求められる臨床心理学的心理支援のあり方について理解できる。	講義・DVD	テキストの第10章3節を読んでおくこと。講義終了後ミニレポート提出
8	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

学習の振り返りのため毎回ミニレポートを提出のこと。主体的に講義に取り組み、テキスト全体を必読して理解を深めてほしい。

■成績評価の方法

授業への参加態度(10%)、授業後のミニレポート(50%)、試験(40%)により総合的に評価

■テキスト参考書など

臨床心理学―「生きる意味」の確立と心理支援― 八千代出版
参考書は適宜授業の中で紹介

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

治療論

講師: 山下 佐英、太田原 美郎、花園 幸一、今村 恵

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

様々な疾病の回復をはかる代表的な治療について理解を深め、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	手術療法・麻酔法が理解できる。	講義	テキスト「臨床外科総論」の手術療法・麻酔の知識を読んてくる。 担当: 山下
2	手術療法・頭頸部外科学が理解できる。	講義	頭頸部外科学領域における外科的治療法について調べてくる。 担当: 山下
3	手術療法・呼吸器外科学が理解できる	講義	呼吸器外科学領域における外科的治療法について調べてくる。 担当: 山下
4	手術療法・循環器外科学が理解できる。	講義	循環器外科学領域における外科的治療法について調べてくる。 担当: 山下
5	手術療法・消化器外科学が理解できる。	講義	消化器外科学領域における外科的治療法について調べてくる。 担当: 山下
6	放射線療法・放射線障害が理解できる。	講義	テキスト「臨床放射線医学」の放射線療法を読んてくる。 担当: 太田原
7	画像検査について理解できる。	講義	テキスト「臨床放射線医学」の画像検査を読んてくる。 担当: 太田原
8	放射線療法における放射線防護について理解できる	講義	テキスト「臨床放射線医学」の放射線防護について調べてくる。 担当: 太田原
9	人工呼吸の原理と構造が理解できる	講義	テキスト「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際、「臨床外科看護総論」の呼吸管理について読んてくる。 担当: 花園
10	人工呼吸の構造と生体への影響について理解できる	講義	テキスト「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際、「臨床外科看護総論」の呼吸管理について読んてくる。 担当: 花園
11	透析療法の原理と種類について理解できる	講義	テキスト 成人看護学⑧「腎・泌尿器」の透析療法について読んてくる。 担当: 花園
12	透析療法の実際が理解できる	講義	テキスト 成人看護学⑧「腎・泌尿器」の透析療法について読んてくる。 担当: 花園
13	ME機器の原理と実際(ME機器の電气的安全)を理解する 測定用ME機器およびME機器使用時の看護を理解する	講義・演習	テキスト 基礎看護学④「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際と、根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術の心電計、心電図モニターを読んてくる。 担当: 今村
14	治療用ME機器およびME機器使用時の看護を理解する	講義・演習	テキスト 基礎看護学④「臨床看護総論」の医療機器の原理と実際と、根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術の人工呼吸療法、吸引、酸素吸入療法、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器を読んてくる。 担当: 今村
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義の予習・復習をし主体的に講義や演習に臨むこと

■成績評価の方法

各担当教員(山下:40点、太田原:30点、花園:20点、今村:10点)の終講試験により総合的に評価する

■テキスト参考書など

電子書籍 医学書院eテキスト「臨床外科総論」「臨床放射線医学」「臨床看護総論」「腎・泌尿器」、eナーstreiner

■備考

■実務経験

本科目は、医師、診療放射線技師、看護師として実務経験のある教員による授業である。

生命倫理

講師: 的場千佳世

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

延命治療技術の進歩に伴う医療倫理の課題を理解し、医療に関わる倫理的問題に対応していくための基礎的能力を養う。医療現場でのさまざまな生命の問題に向き合って考える。日本と世界の実情を知ったうえで、制度の問題や臨床的な問題について自分なりの見解を持ち、それを表現することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人生の最終段階における医療・ケアのあり方について考える。	講義・グループワーク	
2	安楽死の考え方と実態を知り、その倫理的な妥当性について考える。	講義・グループワーク	
3	人工授精や体外受精の実態を知り、技術の適切な利用について考える。	講義・グループワーク	
4	代理出産について実態を知り、技術の適切な利用について考える。	講義・グループワーク	
5	人工妊娠中絶の実態を知り、倫理的な問題について考える。	講義・グループワーク	
6	出生前診断と選択的中絶の実態を知り、倫理的な問題について考える。	講義・グループワーク	
7	脳死と臓器移植の実態を知り、倫理的な問題について考える。	講義・グループワーク	
8	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義前は予習を必ずしてくること
講義中の私語、他者の妨げとなる行為はしないこと

■成績評価の方法

課題評価、総括評価

■テキスト参考書など

テキスト: 小林亜津子著「看護のための生命倫理[改訂3版]ナカニシヤ出版(2019)

■備考

講義資料については、講義前に配布する。

■実務経験

社会保障論

講師:勝 智樹

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

社会保障と社会福祉の理念を理解し、社会の中で生活する人々の生活問題に対する法律や施策の基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会保障の定義・理念・予算について理解できる。	講義	現代社会と社会福祉・社会保障について予習しておくこと。
2	年金制度について理解できる。	講義	年金制度の意義と仕組みについて予習しておくこと。
3	医療保険制度について理解できる。	講義	医療保険制度と医療提供体制について予習しておくこと。
4	生活保護について理解できる。	講義	公的扶助制度について予習しておくこと。
5	障害児・者と福祉について理解できる。①	講義	障害者総合支援法について予習しておくこと。
6	障害児・者と福祉について理解できる。②	講義	自立支援及び障害者雇用、支援について予習しておくこと。
7	虐待防止、DV防止について理解できる。	講義	虐待、DV防止の法律について予習しておくこと。
8	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

事前学習をもとに講義を行うので、事前の準備をしっかりと行うこと。
社会福祉や制度など、看護にとって重要な部分であるので、主体的に学ぶこと。
居眠りや私語等は十分に注意すること。

■成績評価の方法

筆記試験 100点

■テキスト参考書など

系統看護学講座 健康支援と社会保障(3) 社会保障・社会福祉
参考文献は講義時に提示する。

■備考

■実務経験

本科目は、社会福祉主事として実務経験のある教員による授業である。

公衆衛生学

講師: 安藤 哲夫

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護師として医療に係る上で大切な意識として、基本的人権としての「健康」を知ることである。WHO(世界保健機構)が提唱する健康である単に病弱でない・病気でないという小さな健康を見守るのではなく、患者とその家族へのQOL(生活の質)の確保・提供に対する心構えを考え・知ろうとするものである。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	公衆衛生の概念 地域・災害時の保健活動を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
2	ライフステージにおける健康への公衆衛生的課題を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
3	医の倫理・終末医療における公衆衛生的課題を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
4	国際保健の問題点及び保健統計・人口統計の経年変動を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
5	国民生活基礎調査における諸問題点を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
6	母子保健・成人/老人保健及び生活習慣病・精神保健における諸問題点を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
7	疫学・産業保健・環境保健・感染症についての問題点を知る。	講義	国家試験の過去問を参考に、知るべき事、看護に応用できる事柄を考える。
8	終講試験とまとめ	筆記試験	過去問の選択式問題である。

■受講上の注意

科目目標としての公衆衛生学は、教科書をよく読むことから習得すること。

公衆衛生学の時間数が15時間と限られていることから、看護師国家試験に対応できる能力の習得に大部分の時間を割り当てるので、講義内容を授業時間内に習得してしまうくらいの意思を持って講義に臨むことが大切である。

■成績評価の方法

試験(80%)、授業中の態度(15%)および出席皆勤(5%)

■テキスト参考書など

医学書院 公衆衛生学・国家試験過去問精選プリント

■備考

終講試験は配布する国家試験過去問精選プリントからの出題である。

■実務経験

地域包括ケアシステム論

講師: 岩崎 房子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

地域包括ケアシステムの意義や構築手法の基礎的知識について学ぶ。また、事例等を通して、地域包括ケアシステムの現状と課題、住民とのネットワークや共同活動の重要性、資源開発等の手法について学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	地域包括ケアシステムの意義について理解できる	講義・個人ワーク	・地域包括ケアの背景・意義・概要を学ぶ ・レスポンスシートの提出
2	目指すべき地域包括ケアシステムのあり方および構築のプロセス・手法について理解できる	講義・個人ワーク	・地域包括ケアの理念および構成要素・構築のプロセス・手法を学ぶ
3	地域包括ケアシステムの現状について理解できる	講義・個人ワーク	・自治体の取り組み実践例を学ぶ ・レスポンスシートの提出
4	地域包括ケアシステムの課題について理解できる	講義・グループワーク	・生活者の視点から地域包括ケアの課題を抽出し整理する ・レスポンスシートの提出
5	地域住民とのネットワークおよび共同活動の重要性について理解できる	講義・個人ワーク	・地域で自分らしく暮し続けるための自助・互助を引き出す地域づくりを学ぶ ・レスポンスシートの提出
6	地域包括ケアシステムにおける多職種連携について理解できる	講義・グループワーク	・地域包括ケアにおける看護職の役割および多職種連携について学ぶ ・レスポンスシートの提出
7	地域資源開発等の手法について理解できる	講義・グループワーク	・地域資源の開発のための手法について検討する ・レスポンスシートの提出
8	終講試験・まとめ・筆記試験	筆記試験	

■受講上の注意

主体的に講義・グループワークに臨むこと

■成績評価の方法

平常点10点、レスポンスシート10点、終講試験80点

■テキスト参考書など

テキストは使用しない。授業中に配布する資料をテキスト代わりに使用する。

■備考

■実務経験

本科目は、看護師としての実務経験のある教員による授業である。

共通基本技術Ⅳ

講師: 鹿島 三千代

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護実践の方法として看護過程の意義を理解し、看護を個別的に展開し、看護問題を科学的に解決するための思考づくりと問題解決方法の基盤を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護過程の意義と構成要素について理解できる	講義・演習	ワークシート配布
2	看護診断の概念を理解できる	講義・演習	ワークシートに取り組んで臨む
3	アセスメントの思考過程が理解できる	講義・演習	ワークシートに取り組んで臨む
4	NANDA-I分類法が理解できる	演習・演習	ワークシートに取り組んで臨む
5	NANDA-I分類法が理解できる	講義・演習	ワークシートに取り組んで臨む
6	事例の病態関連図を作成できる	講義・演習	事例課題に取り組む 病気の看護学視点をもとに病態関連図を作成する
7	事例の情報収集と情報の整理ができる	講義・演習	ワークシートに取り組む 事例に必要な情報を抽出し、必要な領域・類に整理する
8	事例のアセスメントから推定問題を抽出できる	講義・演習	ワークシートに取り組む 事例に必要な領域・類から各自アセスメントに取り組む
9	事例のアセスメントから推定問題を抽出できる	講義・演習	事例に必要な領域・類から各自アセスメントに取り組む グループワーク で現状のアセスメントについて討議する
10	事例の統合関連図を作成し、全体像を捉えることができる	演習・演習	アセスメント、推定問題と強みまで取り組んだうえで臨む
11	事例の確定診断を確定できる	演習・演習	統合過程に取り組んだうえで臨む
12	事例の看護計画を立案できる	講義・演習	ワークシートに取り組む 取り組んだうえで臨む 看護診断過程まで
13	看護過程をもとにした計画の実施・評価ができる	講義・演習	ワークシートに取り組む
14	看護記録の意義、種類が理解できる	講義	ワークシートに取り組む
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

実習の主題となる科目です。努力して「わかってできる」よう毎回の授業に真剣にとりくみましょう。テキスト以外にも解剖生理学、病態生理学、疾病論等あらゆる知識を必要としますので、様々な参考書を活用します。

■成績評価の方法

課題(30点)・ポストテスト(5点)・終講試験(65点)で評価する
ポストテスト時に欠席した場合0点とする
課題提出については、提出期限を守り提出したものを評価対象とする

■テキスト参考書など

『NANDA-I看護診断一定義と分類2021-2023』医学書院
『看護過程と看護診断の手引き(小冊子)』『看護学生スタディガイド』照林社
『基礎看護技術Ⅰ』医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師としての実務経験のある教員による授業である

共通基本技術 V

講師: 外菌 智子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

臨床判断のプロセスを学び、根拠に基づき多角的に思考し、看護を実践するための基礎的知識を学ぶ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床判断の意義が理解できる	講義	
2	場面をもとに臨床判断の実際を学ぶ(思考発話)	講義・演習	
3	場面をもとに臨床判断の実際を学ぶ(思考発話)	講義・演習	
4	臨床判断モデルと構成要素の理解(気づき)	講義	
5	臨床判断モデルと構成要素の理解(解釈)	講義	
6	臨床判断モデルと構成要素の理解(反応)	講義	
7	臨床判断モデルと構成要素の理解(省察)	講義	
8	場面をもとに臨床判断の実際①	講義	
9	場面をもとに臨床判断の実際①シミュレーション	演習	
10	場面をもとに臨床判断の実際①シミュレーション	演習	
11	場面をもとに臨床判断の実際②	演習	
12	場面をもとに臨床判断の実際②シミュレーション	演習	
13	場面をもとに臨床判断の実際②シミュレーション	演習	
14	まとめ	講義	
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

パフォーマンス評価、終講試験

■テキスト参考書など

■備考

資料は随時配布する

■実務経験

本科目は、看護師としての実務経験のある教員による授業である

診療の補助技術 I

講師: 豎山 万沙代

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

診療に伴う援助の意義を理解し、健康段階に応じて検査・治療・処置を受ける対象に対して看護実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬の基礎知識をもとに看護師の役割や与薬援助の基礎的知識と援助の実際が理解できる	講義	テキスト薬理学、テキスト基礎看護技術第9章を予習しておくこと
2	与薬(経口・口腔内・吸入)の基礎的知識と援助の実際が理解できる 安全確保の基礎知識、誤薬防止、薬剤管理の基礎的知識が理解できる	講義	テキスト薬理学、テキスト基礎看護技術Ⅱ第9章を予習しておくこと
3	与薬(点眼・点鼻・経皮・直腸内)の基礎的知識と援助の実際が理解できる 安全確保の基礎知識、誤薬防止、薬剤管理の基礎的知識が理解できる	講義	テキスト薬理学、テキスト基礎看護技術Ⅱ第9章を予習しておくこと
4	静脈内採血・注射の基礎的知識(安全確保・誤薬防止・薬剤管理含む)と援助の実際が理解できる	演習	静脈内採血の演習計画を立案し、演習に臨むこと
5	事例に基づく、静脈内採血の基礎的知識と援助の実際が理解できる	講義	静脈内採血の演習計画を立案し、演習に臨むこと
6	事例に基づく、静脈内採血の基礎的知識と援助の実際が理解できる	演習	学習したことを演習計画書に追加・修正すること
7	事例に基づく、皮下注射・筋肉内注射の基礎的知識と援助の実際が理解できる	演習	皮下注射・筋肉内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと
8	事例に基づく、皮下注射・筋肉内注射の基礎的知識と援助の実際が理解できる	演習	学習したことを演習計画書に追加・修正すること
9	点滴静脈内注射(プライミング・三方活栓の使用、輸液速度の調整)の基礎的知識と援助の実際が理解できる 輸血管理の援助の基礎的知識と援助の実際が理解できる	講義	テキスト薬理学、テキスト基礎看護技術Ⅱ第9章を予習しておくこと
10	点滴静脈内注射(プライミング、輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い)の援助の実際が理解できる	演習	点滴静脈内注射の演習計画を立案し、演習に臨むこと
11	点滴静脈内注射(輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い、刺入部の固定)の援助の実際が理解できる	演習	講義内容・前回の演習内容を復習して、演習に臨むこと
12	点滴静脈内注射(三方活栓の使用、輸液速度の調整)の援助の実際が理解できる	演習	三方活栓の使用、輸液速度の調整の演習計画を立案し、演習に臨むこと
13	検体検査(尿・便・喀痰)の援助の実際、診察・検査・処置の介助(X線撮影、血管造影検査、上部・下部内視鏡検査、CT、MRI、超音波検査、心電図、穿刺)の基礎的知識と援助の実際が理解できる	講義協同学習	テキスト基礎看護技術Ⅱ第11章を予習しておくこと
14	検体検査(尿・便・喀痰)の援助の実際、診察・検査・処置の介助(X線撮影、血管造影検査、上部・下部内視鏡検査、CT、MRI、超音波検査、肺機能検査、穿刺)の基礎的知識と援助の実際が理解できる	発表会確認テスト	発表会に向けた準備をして、発表会に臨むこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業・演習の予習、演習の計画立案を行い、主体的に授業・演習に臨むこと

■成績評価の方法

確認テスト15点、終講試験85点

■テキスト参考書など

電子書籍: 医学書院「基礎看護技術Ⅱ」「臨床検査」、照林社「スタディガイド」

■備考

資料プリントは随時配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

診療の補助技術Ⅱ

講師:内野 優子

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

診療に伴う援助の意義を理解し、健康段階に応じて検査・治療・処置を受ける対象に対して看護実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸機能障害に関連する症状のメカニズムと看護上のニーズ判別のためのアセスメントが理解できる	講義	呼吸器の解剖生理を復習して臨むこと
2	効果的な気道浄化の看護が理解できる	講義	テキストをもとに事前学習をして講義に臨むこと
3	効果的に換気を促すための援助(呼吸法・体位の工夫)が実施できる	演習	配布したチェックリストを熟読し、根拠をもとに実施できるように準備して臨むこと
4	効果的な気道浄化を促すための援助(咳嗽介助法・スクイーピング)が実施できる	演習	配布したチェックリストを熟読し、根拠をもとに実施できるように準備して臨むこと
5	一時的吸引(口腔・鼻腔)が安全・安楽に実施できる	講義・演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
6	一時的吸引(口腔・鼻腔)が安全・安楽に実施できる	演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
7	低酸素血症時の看護が理解できる	講義	テキストをもとに事前学習をして講義に臨むこと
8	安全な酸素投与と酸素ポンベの取扱いが理解できる	演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
9	安全な酸素投与と酸素ポンベの取扱いが理解できる	演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
10	循環機能障害に関連する症状のメカニズムと看護上のニーズ判別のためのアセスメントが理解できる	講義	循環器の解剖生理を復習して臨むこと
11	創傷とその治癒のメカニズムと創治癒のための環境について理解できる 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)の基礎的知識を理解できる	講義	
12	褥瘡発生の機序とアセスメントを理解し、褥瘡予防の援助が理解できる	講義	
13	創傷処置・包帯法が安全・安楽に実施できる	演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
14	創傷処置・包帯法が安全・安楽に実施できる	演習	チェックリストをもとに手順や根拠・留意点を理解し、演習に臨むこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

演習時は、指定された事前学習を必ずして臨むこと。
忘れ物が無いようにし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

課題・筆記試験(100点)

■テキスト参考書など

テキスト

「基礎看護技術Ⅱ」医学書院 「臨床看護総論」医学書院

参考書

「基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

技術演習・評価Ⅱ

講師:内野 優子

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

1・2年次に習得した様々な看護技術を活用し、事例に応じた看護を実践するための能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法の理解ができる 事例患者の看護を実践するために必要な学習項目を考えることができる 必要な情報項目を抽出できる	講義・グループワーク	確認テストを行う。講義終了後、看護を実践するために必要な学習を行う
2	事例患者の情報を意図的に収集し、必要な看護を考えることができる	講義・グループワーク	講義終了後、指定日までに援助計画を立案し提出する
3	事例患者に必要な看護計画の追加・修正ができる	講義・グループワーク	グループワークを通して事例患者の状態にあった看護援助であるか討議し、援助計画を追加・修正する
4	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかグループ内で討議しながら演習を行う
5	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	演習後の追加・修正を具体的にを行う
6	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	演習後の追加・修正を具体的にを行う
7	援助計画に沿った援助が安全・安楽・自立に配慮して実施できる	演習	終了後は、指定日までにリフレクションを記載し提出する
8	リフレクションを通して、事例患者に必要な看護を再考し、看護計画を追加・修正ができる	講義・グループワーク	リフレクションを通して学びを共有し、事例患者の状況に合った必要な看護援助を再考し、看護計画の再立案を行う
9	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかを確認し看護援助を実施する主体的に練習を行うこと
10	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかを確認し看護援助を実施する主体的に練習を行うこと
11	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかを確認し看護援助を実施する主体的に練習を行うこと
12	事例患者に必要な看護が実施できる	演習	事例患者にとって安全・安楽・自立に考慮した看護援助であるかを確認し看護援助を実施する主体的に練習を行うこと
13	技術試験 対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	技術試験	試験前にも技術の練習を行うこと 終了後、リフレクションを記載し、指定日までに提出すること
14	技術試験 対象の身体的状態を判断し、状況に応じた看護技術が安全・安楽・自立度を考えて実践できる	技術試験	試験前にも主体的に技術の練習を行うこと 終了後、リフレクションを記載し、指定日までに提出すること
15	リフレクションを通して、自己の行動や思考を振り返り、自己理解を深め課題を見出すことができる	講義・演習	自己の課題を解決するための具体策を考える

■受講上の注意

提出物は、期日を厳守すること。主体的に講義や演習に望むこと

■成績評価の方法

事前学習(10点)、確認テスト(10点)、看護援助計画(20点)、リフレクション(10点)、技術試験(50点)の総計100点。
出席状況点として、欠席毎に総計点から3点を減点する

■テキスト参考書など

『基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『基礎看護技術Ⅱ』医学書院
『臨床看護総論』医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院

■備考

課題内容と確認テストの内容は事前に知らせる。
個人ワークの内容が評価に繋がるため、個人で取り組むこと。
これまでの講義で学んだ知識・技術を活用すること。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

健康支援技術論

講師: 池西 静江、富安 恵子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

健康支援のための基礎理論とその活用方法を理解し、個人及び家族の健康の増進、疾病の予防、疾病の早期発見・早期治療を支援するための指導技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	これからの社会と看護師に求められる健康支援活動を理解することができる。	講義・ワーク	事前課題をして臨む
2	健康支援に必要な教育の基本となる考え方を理解することができる。	講義・ワーク	事前課題をして臨む。ポストテスト(5点)
3	健康支援のための基礎理論(ヘルスピーリーブモデル)を理解することができる。	講義・ワーク	事前課題をして臨む。ポストテスト(5点)
4	健康支援のための基礎理論(自己効力理論)を理解することができる。	講義・ワーク	事前課題をして臨む。ポストテスト(5点)
5	健康支援のための基礎理論(行動変容のステージモデル)を理解することができる。	講義・ワーク	事前課題をして臨む。ポストテスト(5点)
6	健康支援の方法を理解することができる。(集団指導と個別指導)	講義・ワーク	事前課題をして臨む ポストテスト(5点)
7	健康支援の実際 ①個別支援の計画	演習	理論の一つを選び支援計画を立てる
8	健康支援の実際 ②個別支援の準備	演習	個別支援の教材など作成
9	健康支援の実際 ③個別支援の実施	ロールプレイ	ピュア評価(10点)支援計画(10点)
10	健康支援の実際 ④個別支援の実施	ロールプレイ	ピュア評価(10点)支援計画(10点)
11	健康支援の実際 ①集団指導(支援)の計画準備	グループワーク	グループメンバーと協力しながら主体的に臨む
12	健康支援の実際 ②集団指導(支援)の計画準備	グループワーク	グループメンバーと協力しながら主体的に臨む 次回の体験までの準備を万全に行う
13	健康支援の実際 ③集団指導(支援)の実際	体験	民生委員さん等の協力で近所の高齢者介護予防のための「すこやか学級」(仮名)開催
14	健康支援の実際 ④集団指導(支援)の実際	体験	民生委員さん等の協力で近所の高齢者介護予防のための「すこやか学級」(仮名)開催
15	まとめ	個人ワーク、グループワーク	

■受講上の注意

個人ワーク、グループワークが多いので、主体的かつ積極的に取り組むこと
欠席は成績に大きく影響する。体調を整えてまずは出席して学ぶこと。

■成績評価の方法

課題(30点)、ポストテスト(25点)個別支援成果(20点)集団支援成果(25点)より総合的に評価する。ポストテストは欠席者は0点。

■テキスト参考書など

『基礎からわかる地域・在宅看護論』 照林社

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護過程展開論 I

講師: 鹿島 三千代、花園 千恵子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個別性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を身につける

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 看護過程の展開方法について理解する 2. 成人期にある事例の病態について理解する	講義グループワーク	共通基本技術Ⅳ・Ⅴを復習して臨む 事例提示後事前学習、病態関連図を作成する 記録用紙をファイルに綴じ準備する
2	1. 病態を理解する 2. 対象の大まかな情報から、収集すべき情報を抽出する 3. NANDA-Iの枠組みで対象に必要な情報収集とアセスメントをする	講義個人ワークグループワーク	知識確認テストを行う 参考書、講義資料など持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
3	変化する対象の状態を把握するため、追加の情報収集とアセスメントをする	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料など持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
4	アセスメントから全体像(統合過程)を捉え、看護診断を明確にする	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料など持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
5	看護診断を確定し、看護計画を立案する	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料など持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
6	臨床判断モデルを活用し、対象の状態に応じた日々の計画を考える	講義個人ワークグループワーク	臨床判断について復習して臨む 演習に向けて実習室の準備を協力して行う
7	臨床判断モデルを活用し、対象の状態に応じた看護を実施する (シミュレーション)	演習	実習室で行うため、白衣で容姿を整え臨む 必要な計画用紙、参考書を持参する
8	1. 実践をSOAPで記載し、評価・修正する 2. 看護過程の自己の課題にする	個人ワークグループワーク	参考書、講義資料などを持参し主体的に取り組む
9	1. 老年期にある事例の病態を理解する 2. 看護診断モデルにおける優先される領域の判断と、関連した情報を収集する	講義個人ワークグループワーク	成人の看護過程展開論の授業資料を復習して臨む 事例提示後、関連図を作成して臨む
10	看護診断モデルにおける優先される領域の判断と、領域のアセスメントをする	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料を持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
11	アセスメントから全体像(統合過程)を捉え、看護診断を明確にする	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料を持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
12	看護診断を確定し、看護計画を立案する	講義個人ワークグループワーク	参考書、講義資料を持参し主体的に取り組む 対象の状態をグループ討議する
13	臨床判断モデルを活用し、対象の状態に応じた日々の計画を立案する	講義個人ワークグループワーク	臨床判断について復習して臨む 演習に向けて実習室の準備を協力して行う
14	臨床判断モデルを活用し、対象の状態に応じた看護を実施する (シミュレーション)	演習	実習室で行うため、白衣で容姿を整え臨む 必要な計画用紙、参考書を持参する
15	1. 実践をSOAPで記載し、評価修正する 2. 自己の課題を明確にする	個人ワークグループワーク	参考書、講義資料を持参し主体的に取り組む

■受講上の注意

実習に直結した科目です。主体的に取り組んでください。

■成績評価の方法

知識確認テスト、事前学習、看護過程展開に必要な記録の課題の総合評価とする

■テキスト参考書など

「看護診断の手引き」池西静江著 「NANDA-I 看護診断と分類」医学書院
「成人看護学・老年看護学・疾患別の看護過程」などの参考書

■備考

資料は適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

感染症と看護

講師: 濱田 亜弥

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

今日の国内外において問題となっている感染症およびその動向、並びに感染症と看護の歴史について理解する
感染成立と発症に至る経過について理解を深め、医療関連感染に関する基礎知識や考え方、感染予防策の原則・方法について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション 感染症をもつ患者に対する看護の必要性・重要性を理解する。	講義・小テスト	テキスト序章・第1章を予習する。
2	感染症を持つ患者に対する看護の必要性・重要性を理解する 感染看護の歴史と現代の感染の動向を学ぶ	講義・小テスト	第1章を予習する。
3	感染の基礎知識: 感染成立の条件や発症とは、感染に関連した用語について学ぶ	講義・小テスト	第2章を予習する。
4	国内外の感染看護活動(WHO・CDCなど)について学ぶ 感染症防止や感染対策に関する関係法規(医療法・感染症法・学校保健安全法など)について学ぶ 市中感染、院内感染、医療関連感染の定義について学ぶ	講義・小テスト	別途資料配布
5	隔離予防策(標準予防策・経路別予防策)、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク・小テスト	第6章を予習する。 第3章～第5章も読んでおくこと。
6	隔離予防策(標準予防策・経路別予防策)、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク・小テスト	第6章を予習する。 第3章～第5章も読んでおくこと。
7	隔離予防策(標準予防策・経路別予防策)、医療関連感染対策、サーベイランス、職業感染対策、医療廃棄物の対処を知り、安全に看護を実践することを学ぶ	講義・演習・グループワーク・小テスト	第6章を予習する。 第3章～第5章も読んでおくこと。
8	ライフステージ(小児・成人・母性・老人)ごとの感染症の特徴と看護について学ぶ。	講義・小テスト	別途資料配布
9	医療関連感染予防のための院内組織について学ぶ。 感染管理認定看護師・感染症看護専門看護師の役割や活動について学ぶ。	講義・小テスト	別途資料配布
10	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める。	演習・グループワーク・小テスト	第7章を予習する。
11	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める。	演習・グループワーク・小テスト	第7章を予習する。
12	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める。	演習・グループワーク・小テスト	第7章を予習する。
13	感染症を持つ患者や易感染患者、患者家族への看護について、事例を通し理解を深める。	演習・グループワーク・小テスト	第7章を予習する。
14	隔離の倫理的側面について考える。	グループワーク	事前レポート、事後レポートがあり
15	終講試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

授業時の小テスト(10%)、 レポート(20%)、 終講試験(70%)

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ 第14版 アレルギー 膠原病 感染症 P193-389
参考文献は講義の中で紹介する

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

手術療法と看護

講師: 冷水 陽子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

手術による侵襲が対象の身体・精神・家族を含めた社会的側面に及ぼす影響を理解し、合併症を予防し回復を促進するための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	手術を受ける患者の特徴について理解できる 治療の特徴と身体機能の変化とボディイメージの変化に対する心理的不安、社会復帰に対する不安への理解	講義・グループワーク	クリニカルパスを通して手術を受ける患者の治療から社会復帰までの過程を学びます。クリニカルパスの目的について予習すること
2	侵襲に対する生体反応が理解できる	講義・グループワーク	臨床外科総論のテキストの侵襲に対する生体反応の関連図を作成します。事前に、一次・二次止血、創傷の治癒過程、免疫反応を下書きしておくこと。
3	麻酔法の特徴と看護が理解できる	講義・グループワーク	治療論で学習した麻酔法を種類ごとに復習しておくこと
4	手術前のアセスメントから全身を整える看護が理解できる	講義・グループワーク	胃がんで胃全摘術を受ける患者の事例を通して学習します。講義前に生理学的検査や血液検査の目的と正常値をまとめておいてください。
5	手術中の看護が理解できる 麻酔導入・手術体位・手術の安全管理・麻酔からの覚醒時の看護	講義・グループワーク	気道確保の方法、生理的な関節可動域、表在神経の走行について復習しておくこと
6	手術後に起こりやすい合併症について理解できる	講義・グループワーク	手術後に起こりやすい合併症について予習すること
7	手術後の合併症を予防し、回復を促進する看護が実施できる	演習	胃がんで胃全摘術を受ける患者の事例を通して術後1日目に必要な看護を学習します。事前に看護計画を立案して演習に臨むこと
8	手術後に社会復帰にむけた看護が理解できる	講義・グループワーク	胃がんで胃全摘を受ける患者の事例を通して学習します。健康支援技術論で学んだ理論について復習すること。
9	術式の特徴に応じた看護が理解できる ①胃内視鏡手術・経尿道的膀胱切除術など低侵襲手術	講義・グループワーク	テキストの該当箇所を予習すること
10	術式の特徴に応じた看護が理解できる ②心臓外科手術	講義・グループワーク	体外循環・IABPについて復習すること
11	術式の特徴に応じた看護が理解できる ③頭頸部手術	講義・グループワーク	テキストの該当箇所を予習すること
12	手術を受ける高齢者の看護が理解できる	講義・グループワーク	テキストの該当箇所および変形性膝関節症について予習すること
13	手術を受ける小児の看護が理解できる	講義・グループワーク	小児の成長・発達段階について予習しておくこと
14	帝王切開をうける妊婦の看護が理解できる	講義・グループワーク	妊娠による女性の身体的変化および分娩の過程について予習しておくこと
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖学、病態生理学、麻酔、手術療法の復習をして臨むこと
学習を深めるために、事前に課題を提示するので取り組み授業に臨むこと
事前課題の提出日は、講義開始時に提示します
演習においては基礎看護技術を復習して事前に計画を立案して臨むこと(演習への参加は必修)
グループワークは、グループ全員で協力して臨むこと

■成績評価の方法

演習後(手術後の看護)のレポート(20点)、
筆記試験(80点)により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 別巻 臨床外科総論』医学書院
『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』医学書院
『成人看護学』『老年看護学』『小児看護学』『母性看護学』医学書院
『基礎・臨床看護技術』医学書院

■備考

資料は適宜配布する【単位内訳:成人0.6単位、老年・小児・母性 各0.4単位、精神0.2単位】

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

薬物療法と看護

講師:山門 真樹、青野 拓司、磯脇 玉美

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

薬物療法における看護師の役割を理解するとともに、処方された薬剤の管理および対象に現れる作用・副作用を理解し、適正な薬物療法を行うための基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	薬物療法における看護師の役割と必要な基礎的知識を理解する	講義	臨床薬理学の第1章「薬物治療の基礎」を読む てくる
2	主要疾患(循環器系疾患)のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を 読んでくる
3	主要疾患(呼吸器系疾患)のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を 読んでくる
4	主要疾患(内分泌・代謝系疾患)のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を 読んでくる
5	主要疾患(感染症)のある対象の薬物療法の特徴が理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」を 読んでくる 小テスト第1回～第5回分(20点)
6	精神科で用いる薬物と看護について理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」第4 章「精神および神経症状にかかわる薬物」を読 んでくる
7	精神障害をもつ対象の薬物療法の特徴と服薬継続もに向けた援助について理解できる	講義	臨床薬理学 第3章「主要疾患の臨床薬理学」第4 章「精神および神経症状にかかわる薬物の部分 を読んでくる。小テスト第6回～第7回分(5点)
8	高齢者の薬物療法の特徴と看護について理解できる	講義	老年看護学第7章「薬物療法を受ける高齢者の 看護」を読んでくる。小テスト5点
9	妊産褥婦と胎児および新生児の薬と「催奇形性」の関係について理解できる。また妊娠中の切迫流産及び切迫 早産に使用される薬剤について理解できる	講義	母性看護学各論第7章「妊娠・分娩・新生児・産 褥の異常」を読んでくる。小テスト5点
10	小児の薬物療法の特徴と患児と家族への援助について理解できる	講義	小児臨床看護総論第1章「病気・障害をもつ子ど もと家族の看護」を読んでくる。小テスト5点
11	在宅における薬物療法と看護について理解できる	講義	地域・在宅看護の実践第2章「暮らしを支える看 護技術」与薬に関する地域・在宅看護技術を読 んでくる。小テスト5点
12	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	グループに分かれ、①小児②成人③老年④母 性⑤精神⑥在宅の事例のうち1事例を担当す る。各グループで個人の学習課題を設定して学 習し、その成果を提出する(課題点5点)。
13	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	学習計画に応じてグループワークを行う。各グ ループで個人の学習課題を設定して学習し、そ の成果を提出する(課題点5点)。
14	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる	グループワーク	発表に必要な資料をまとめる。ロールプレイの配 役と発表の準備を行う。 各グループで個人の学習課題を設定して学習 し、その成果を提出する(課題点5点)。
15	ロールプレイ発表会およびまとめ	グループ発表	学習成果を各グループでまとめ、ロールプレイに よる発表を行う。 ロールプレイ発表40点。

■受講上の注意

母性・小児・老年・精神・在宅の領域を超えて薬物療法を受ける対象の理解と薬物療法における看護の役割と援助方法について理解する講義である。

■成績評価の方法

小テスト45点(薬物療法の基礎・主要疾患の薬物療法20点、精神・母性・小児・老年・在宅各5点)

レポート課題:15点

ロールプレイ発表評価:40点

■テキスト参考書など

「臨床薬理学」医学書院

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

地域・在宅看護概論Ⅱ

講師：中村 浩子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

社会の変化と多様化する在宅看護活動について学び、疾病や障害を持ちながらも地域で生活している療養者および家族の理解を深め、在宅看護における看護師の役割と機能について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	地域・在宅看護の変遷、在宅看護が実践される場とその広がりについて理解する	講義・グループワーク	地域・在宅看護概論Ⅰの学習の振り返り ワークシートをもとに事前学習を行う 地域・在宅看護論1-第3章を読む
2	地域・在宅看護の対象(療養者)について理解する①	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第3章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
3	地域・在宅看護の対象(療養者)について理解する②	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第3章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
4	地域・在宅看護の対象(家族)について理解する①	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第4章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う 家族看護テキスト参照
5	地域・在宅看護の対象(家族)について理解する②	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第4章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う 家族看護テキスト参照
6	地域療養を支える在宅医療の機能と役割について理解する ひとむぎ診療所 院長 斎藤講師	講義	地域・在宅看護論1-第5章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
7	地域・在宅看護における時期別の看護について理解する①	講義・グループワーク	地域・在宅看護論2-第3章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
8	地域・在宅看護における時期別の看護について理解する②	講義・グループワーク	地域・在宅看護論2-第3章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
9	地域・在宅看護における時期別の看護について理解する③	講義・グループワーク	地域・在宅看護論2-第3章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
10	地域・在宅看護に関わる法制度について理解する。(医療保険・介護保険他)	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第6章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
11	訪問看護ステーションを設立しよう①	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第6章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
12	訪問看護ステーションを設立しよう②	講義・グループワーク まとめ発表	地域・在宅看護論1-第6章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う 発表準備等は別紙参照
13	事例を通して、地域・在宅看護のマネジメントについて理解する	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第6章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
14	事例を通して、地域・在宅看護実践の場と連携を理解する	講義・グループワーク	地域・在宅看護論1-第5章を読む ワークシートをもとに事前学習を行う
15	終講試験	筆記試験	全ワークシートを提出する

■受講上の注意

地域・在宅看護概論1を復習して講義に臨む(まる子ちゃんの家族事例を活用する)
事前に配布されるワークシートを記載し、予習を基に、授業に臨む

■成績評価の方法

ワークシート(30%) 終講テスト(70%)

■テキスト参考書など

「地域・在宅看護の基盤1」「地域・在宅看護の実践2」医学書院
「基礎からわかる地域・在宅看護論」照林社
「家族看護学」医学書院

■備考

資料、ワークシートは適宜配布する。
授業前・後のワークシートの提出あり

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

成人看護学概論

講師: 今村 恵

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

ライフステージにおける成人期の発達課題と対象の特徴を理解し成人の多様な生活による健康障害への看護の役割を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	成人看護学の対象である『大人』について理解する	講義グループワーク	テキストの対象の理解『大人になること、大人であること』を事前に読んでワークシートに取り組んでくること
2	成人各期における成長発達の特徴を理解する	講義グループワーク	テキストの『各発達段階の特徴、発達課題』を事前に読んで、事前課題をおこなってくること。 事前課題(5点)あります。 授業の最後に小テスト(5点)あります。
3	成人の役割と生活を理解する	講義グループワーク	テキストの「対象の生活-働いて生活を営むこと」を事前に読んでくること。 事後にゴールデンウイーク課題(10点)あります。
4	成人を取り巻く環境と生活からみた健康について理解する①	講義グループワーク	テキストの『成人を取り巻く環境と生活の状況』を事前に読んでくること
5	成人を取り巻く環境と生活からみた健康について理解する②	講義グループワーク	事後にインタビューをおこなった3名の方への看護介入を考え、授業を通して感じたことをレポートにまとめ提出します(10点)
6	成人の健康行動を促進するための看護(セルフケア支援)を理解する	講義グループワーク	テキストの『大人の健康行動の促し力』を事前に読み、大人の学習の特徴、動機付け、行動変容、自己効力、エンパワメントを理解してくること。 テキストの『セルフケアおよびセルフケアマネジメントへの支援』を事前に読み、オレムのセルフケア理論について理解してくること 事前課題(5点)あります。
7	健康破綻による危機的状況にある成人への看護を理解する	講義グループワーク	テキストの『健康破綻がもたらす危機状況』を事前に読み、危機モデル(フィンク)、ストレスコーピングについて理解してくること。
8	終講試験とまとめ	筆記試験	各授業内容を復習し臨むこと

■受講上の注意

事前課題としてワークシートを配布します。各自主体的に取り組んでくること。

■成績評価の方法

課題点(35点)、筆記試験(65点)にて総合評価する

■テキスト参考書など

電子書籍 医学書院「成人看護学総論」

■備考

資料やワークシートは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

急性期看護

講師: 政元 圭菜

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

クリティカルな状態にある対象と家族の特徴を理解し、集中的ケアから心身の回復、社会復帰に向けた急性期～回復期看護の基礎的能力を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	急性期にある対象・家族の特徴と看護の役割を理解する	講義グループワーク	1年次の健康回復支援論の授業資料を持参すること
2	急性期にある対象への倫理的配慮について考える	講義グループワーク	「倫理原則」「看護者の倫理綱領」を復習しておくこと。 講義終了後のレポートは評価対象(5点)となります。
3	呼吸機能障害(肺炎球菌肺炎)を呈している対象の病態・検査・治療を理解する	講義グループワーク	・肺炎球菌肺炎の病態・検査・治療を理解すること。 ・1年次の病態生理学2回目の講義資料を持参すること
4	呼吸機能障害(肺炎球菌肺炎)を呈している対象に必要な看護援助を実施する	演習	・排痰法、体位ドレナージ、ネブライザーについて調べコッノートにまとめておく ・診療の補助技術 I の授業資料を持参すること
5	重症肺炎患者の呼吸管理を理解する	講義グループワーク	・授業開始時に3回目の授業と4回目の技術についてのポストテストを行います(5点) ・人工呼吸器、観血的動脈圧モニター管理を行っている対象への看護を学びます。治療論の授業資料を持参すること
6	重症肺炎患者の呼吸管理を実施する	演習	・気管内吸引、人工呼吸器の管理について調べコッノートにまとめておく
7	重症肺炎患者への看護を考える	講義グループワーク	・授業開始時に5・6回目の授業・演習内容についてのポストテストをおこないます(5点)
8	重症肺炎患者への看護を実践する	演習	・重症肺炎患者への看護(シミュレーション)を臨床判断をおこないながら実践します。リフレクションシートは評価対象(5点)となります
9	重症肺炎患者への看護を実践する	演習	・重症肺炎患者への看護(シミュレーション)を臨床判断をおこないながら実践します。リフレクションシートは評価対象(5点)となります
10	回復期にある対象・家族の特徴と看護の役割を倫理的配慮を理解する	講義グループワーク	・1年次の健康回復支援論の授業資料を持参すること
11	循環機能障害(心筋梗塞)を呈している対象の病態・検査・治療を理解する	講義グループワーク	・心筋梗塞の病態・検査・治療を理解すること ・1年次の病態生理学4回目の講義資料を持参すること
12	循環機能障害(心筋梗塞)を呈している対象への看護を理解する	講義グループワーク	・心電図の基本、CVP(中心静脈圧)、観血的動脈圧モニターを理解すること
13	循環器障害(心筋梗塞後)の対象に必要なリハビリテーション看護を理解する	講義グループワーク	・授業開始時に11・12回目の授業内容についてのポストテストを行います(5点) ・『リハビリテーション看護』の虚血性心疾患のリハビリテーション看護を理解すること
14	回復期(亜急性期)にある対象への看護を実践する	演習	・循環器障害のある対象への看護(シミュレーション)を臨床判断をおこないながら実践します。リフレクションシートは評価対象(5点)となります
15	終講試験とまとめ	筆記試験	・1～14回目の講義資料等を復習しておくこと

■受講上の注意

毎回の講義・演習で課題があります。各自、事前学習・復習を主体的におこないグループで協力しておこなうこと。

■成績評価の方法

課題点(30点)、筆記試験(70点)にて総合評価する

■テキスト参考書など

電子書籍 医学書院「基礎看護学 I・II」「臨床看護総論」「呼吸器」「循環器」「クリティカル看護学」「リハビリテーション看護」、eナーstreiner

■備考

資料やワークシートは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

慢性期看護

講師:青野 拓司

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

慢性疾患など生涯にわたり疾病のコントロールの必要な対象の特徴を理解し、その状況に応じた基本的看護援助を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	慢性期にある患者の特徴の理解 (慢性期にある患者の特徴を理解できる)	講義・グループワーク	テキストの該当するところを読んで講義に臨むこと
2	慢性期にある患者の特徴の理解 (病気とともに生きることの意味を理解できる)	講義・グループワーク	テキストの該当するところを読んで講義に臨むこと
3	栄養代謝機能障害のある患者の看護 (糖尿病患者の特徴を理解する)	講義・グループワーク	糖尿病の病態と症状の事前学習を行うこと
4	技術演習:栄養代謝機能障害のある患者の看護 (自己血糖測定)	演習	事前に演習計画を立案して演習に臨むこと
5	感覚機能障害のある患者の看護 (糖尿病性網膜症患者の看護を理解する)	講義・グループワーク	糖尿病性網膜症の病態と症状について事前学習を行うこと
6	内部環境調節機能障害のある患者の看護 (慢性腎不全・腎臓病患者の看護が理解できる)	講義・グループワーク	腎不全・慢性腎臓病と血液透析について事前学習を行うこと
7	内分泌機能障害のある患者の看護 (甲状腺機能亢進症患者の看護が理解できる)	演習・グループワーク	甲状腺機能障害の病態と症状の事前学習を行うこと
8	排尿機能障害のある患者の看護 (脊髄損傷患者の看護が理解できる)	講義・グループワーク	排尿の機能と排尿障害の発生機序と種類について事前学習を行うこと
9	排尿機能障害のある患者の看護 (脊髄損傷患者の看護が理解できる)	講義・グループワーク	排尿の機能と排尿障害の発生機序と種類について事前学習を行うこと
10	技術演習 (持続的膀胱留置カテーテル挿入の技術)	グループ演習	一時的導尿の技術について復習を行い、演習計画書を立案して臨むこと
11	技術演習 (持続的膀胱留置カテーテル挿入の技術)	演習	一時的導尿の技術について復習を行い、演習計画書を立案して臨むこと
12	栄養代謝機能障害のある患者の看護 (潰瘍性大腸炎患者の看護が理解できる)	講義・グループワーク	潰瘍性大腸炎の病態と症状の事前学習を行うこと
13	栄養代謝機能障害のある患者の看護 (肝硬変患者の看護が理解できる)	講義・グループワーク	肝硬変の病態と症状の事前学習を行うこと
14	栄養代謝機能障害のある患者の看護 (腹水貯留のある患者の観察と看護が理解できる)	シミュレーション演習	グループで腹水貯留時の看護についてまとめる
15	慢性期看護のまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

解剖学、病態生理学の復習をして臨むこと
学習を深めるために、事前学習に取り組み授業に臨むこと
慢性疾患の病態について小テストを実施する
演習では、事前に計画を立案して臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験:60点 課題点:カテゴリ別荷重40点(プレテスト10%、ポストテスト20%、課題40%、演習30%)により総合的に評価する

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 代謝,循環器,眼,腎泌尿器,消化器,脳神経,アレルギー』医学書院
『臨床看護総論』医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

救急看護

講師: 政元 圭菜、野上 拓也

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

身体的に生命の危機的状況にある対象の救命および生命維持に必要な初期対応を理解し、救急看護実践に必要な基礎的能力を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	救急看護の概念と救急医療体制について理解する	講義	日本の救急医療体制と鹿児島県の救急医療指定病院について調べ整理する
2	救急看護の対象と倫理的問題について考え、救急看護師の役割を理解する	講義・グループワーク	事例患者の倫理的問題についてグループワークを行う
3	主要病態のアセスメントと看護① (意識障害の看護を考える)	講義・グループワーク	くも膜下出血(頭蓋内圧亢進症)の看護をグループで考える
4	主要病態のアセスメントと看護② (ショックの分類と徴候の病態を理解する)	講義	第5章Dを予習しておくこと
5	心肺停止状態に必要な看護技術 (一時救命(BLS)を理解する)	講義	事前課題にBLSについて予習しておくこと
6	心肺停止状態に必要な看護技術 (一時救命(BLS)を理解する)	演習	事前課題に沿ってCPA患者のBLSをグループで実施する
7	心肺停止状態に必要な看護技術 (二時救命(ACLS)を理解する)	演習	第5章A②を予習しておくこと
8	主要病態のアセスメントと看護③ (熱傷の初期対応を理解する)	講義・グループワーク	熱傷患者の分類・早期対応について理解する
9	主要病態のアセスメントと看護④ (急性腹症・熱中症の初期対応を理解する)	講義・グループワーク	体液喪失性・敗血症性ショック時の看護について考える
10	主要病態のアセスメントと看護⑤ (外傷の初期対応を理解する)	講義	交通事故に伴う骨盤骨折・四肢外傷時の看護についてグループで考える
11	主要病態のアセスメントと看護⑥ (骨盤骨折・四肢外傷の初期対応を理解する)	講義	止血法、創保護について事前に予習しておくこと
12	主要病態のアセスメントと看護⑦ (吐血、下血時の初期対応を理解する)	講義・グループワーク	ショックの徴候について予習しておくこと
13	主要病態のアセスメントと看護⑧ (下血とアナフィラキシーショック時の初期対応を理解する)	演習	下血のため緊急入院となった対象のシミュレーション演習を行う。演習計画を立案しておくこと
14	主要病態のアセスメントと看護⑨ (下血とアナフィラキシーショック時の初期対応を理解する)	演習	下血のため緊急入院となった対象のシミュレーション演習を行う。演習計画を立案しておくこと
15	救急看護のまとめ	筆記試験	終講試験

■受講上の注意

解剖学、病態生理学、基礎看護技術(診療の補助)の復習をして臨むこと。学習を深めるために事前に課題を提示するので、主体的に取り組み授業に臨むこと

■成績評価の方法

講義後のレポートや課題の提出状況(20点)、筆記試験(80点)により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

『系統看護学講座 別巻 救急看護学、クリティカルケア看護学』医学書院

参考図書: AHAガイドライン2020 JRC蘇生ガイドライン2020 外傷初期診療ガイドライン(JATEC)第5版 外傷初期看護ガイドライン(JNTEC)第3版

■備考

課題については事前に説明する。資料は適宜配布する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

老年看護学概論

講師:花園 千恵子

単位数:1単位

時間数:15時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

高齢者の発達課題と身体的・精神的・社会的特徴を理解し、生活を支援する老年看護の役割を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 老いの定義を理解する 2. 老年看護の目的と役割について理解する	講義	老年看護学第1章「老いるということ、老いを生きるということ」を読み講義に臨む
2	加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する	講義	解剖生理をもとに感覚器系、循環器系、呼吸器系、腎泌尿器系、消化器系、脳・神経系について事前学習をして臨む
3	加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する	講義	解剖生理をもとに感覚器系、循環器系、呼吸器系、腎泌尿器系、消化器系、脳・神経系について事前学習をして臨む
4	1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する 2. 高齢者の疑似体験を通して、加齢に伴う身体機能の変化が日常生活にどのように影響を及ぼしているか理解する	講義・演習	疑似スーツを着用し日常生活動作を体験したのち、高齢者の身体的特徴について学びを深める(課題5点)
5	高齢者インタビューを通して、時代背景や生活背景が高齢者の多様性や個人差に関連していることを理解する	講義	身近な高齢者にインタビューを行い、レポートにまとめ講義に臨む(課題10点)
6	1. 高齢者を支える社会システムについて理解する 2. 超高齢社会と高齢者の暮らしについて理解する	講義	老年看護学第2章「超高齢社会と社会保障」第9章「生活・療養の場における看護」を読み講義に臨む
7	1. 高齢者の権利擁護について理解する 2. 高齢者の意思決定支援について理解する	講義	老年看護学第2章C「高齢者の権利擁護」、第8章C「意思決定への支援」について読んで臨む
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

高齢者の疑似体験は安全面に留意し実施する
インタビューは対象のプライバシーに配慮し実施する

■成績評価の方法

課題15点 終講試験85点

■テキスト参考書など

「老年看護学」医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

高齢者の暮らしを支える看護

講師：花園 千恵子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

高齢者に多い症候と老年症候群を理解し、その人らしい生活を支えるための看護の基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者の特徴を踏まえ、身体に加齢変化のアセスメントについて理解する	講義	老年看護学 第5章「高齢者の生活機能を整える看護」を読んで臨む
2	高齢者のおもに急性疾患に付随する症候と看護について理解する (熱中症、脱水症、発熱)	講義	老年看護学 第6章「健康逸脱からの回復を促す看護」を読んで臨む
3	高齢者のおもに慢性疾患に付随する症候と看護について理解する (るいそう、浮腫、掻痒感、褥瘡)	講義	老年看護学 第6章「健康逸脱からの回復を促す看護」を読んで臨む
4	高齢者のおもに身体機能低下に付随する症候と看護について理解する (転倒、排尿障害、便秘、嚥下障害)	講義	老年看護学 第6章「健康逸脱からの回復を促す看護」を読んで臨む
5	高齢者の生活機能を整える看護について理解する (ADLを評価するための指標について)	講義	老年看護学 第4章「高齢者のヘルスアセスメント」を読んで臨む
6	高齢者の生活機能を整える看護について理解できる (食べること、排泄することを支える援助について)	講義グループワーク	老年看護学 第5章「高齢者の生活機能を整える看護」を読んで臨む
7	高齢者の生活機能を整える看護について理解する (活動すること、清潔にすることを支える援助について)	講義グループワーク	老年看護学 第5章「高齢者の生活機能を整える看護」を読んで臨む
8	老年症候群の特徴について理解し、高齢者の健康維持と生活への援助について理解する	講義	老年看護 病態・疾患論 第2章「老年症候群」を読んで臨む 事例について必要な援助を計画する
9	フレイルの状態にある高齢者のその人らしい生活を支える看護について実施する 【事例展開】	演習	事例について必要な援助を計画し、実施する 演習に必要な準備や身だしなみを整える
10	フレイルの状態にある高齢者のその人らしい生活を支える看護について実施する 【事例展開】	演習	事例について必要な援助を実施する 事前課題、リフレクションあり(10点)
11	治療や医療的ケアを必要とする高齢者の看護について理解する	講義	老年看護学 第7章「治療を必要とする高齢者の看護」を読んで臨む
12	高齢者施設(入所施設・通所施設)の役割・機能を理解する(木場田先生)	講義	介護保険制度のサービスについて事前学習して臨む
13	高齢者施設での実際から、高齢者に必要な看護を理解し、考察できる(木場田先生)	講義	施設看護の考察につなげられるよう、老年看護学概論を復習して臨む
14	さまざまな場で暮らす高齢者の尊厳を守るための支援について理解する	演習	老年看護学 第8・9章「エンドオブライフケア、生活療養の場における看護」について読んで臨む
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義・演習では課題やグループワークがあります。必要な事前学習や復習を行い主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

課題10点、筆記試験90点の総合評価とする

■テキスト参考書など

「老年看護学」「老年看護 病態・疾患論」電子書籍

■備考

資料、ワークシートは適宜配布する。資料はファイルに綴り管理すること。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

老年期の健康障害と看護

講師: 青野 拓司、今西由香

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

老年期特有の疾患を持ちながら生活する高齢者の看護について理解できる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	治療を必要とする高齢者の特徴と看護を理解する	講義	老年看護学第7章「治療を必要とする高齢者の看護」を読んで臨む
2	主な健康障害と看護を理解する	講義	老年看護学第6章「症候のアセスメントと看護」を読んで臨む
3	呼吸器疾患のある高齢者への看護を理解する（慢性閉塞性肺疾患(COPD)）	講義	老年看護・病態・疾患論第4章D「呼吸器系の疾患」を読んで臨む
4	運動器疾患のある高齢者への看護を理解する	講義	大腿骨頸部骨折の病態・検査・治療について事前学習して臨む
5	運動器疾患のある高齢者への看護を理解する(大腿骨頸部骨折)	演習	事例の看護(シミュレーション演習)を実施する
6	自己免疫疾患のある高齢者への看護を理解する(関節リウマチ)	講義グループワーク	関節リウマチの病態・検査・治療について学習し臨む
7	自己免疫疾患のある高齢者への看護を理解する(関節リウマチ) 慢性疼痛のある高齢者の看護を実施する	演習	慢性疼痛のある患者について計画を立案し、臨床判断をふまえて看護を実践する。
8	循環器系疾患のある高齢者への看護を理解する(心不全)	講義	心不全の病態・検査・治療について事前学習して臨む
9	循環器系疾患のある高齢者への看護を理解する(心不全)	演習	老年看護・病態・疾患論第4章C「循環器疾患」を読んで臨むこと
10	循環器系疾患のある高齢者への看護を理解する(心不全)	演習	事例の看護(シミュレーションシナリオ)を実施する
11	精神・神経系疾患のある高齢者への看護を理解する(パーキンソン病)	講義	パーキンソン病の病態・検査・治療について事前学習して臨む
12	神経疾患のある高齢者への看護を理解する(パーキンソン病)	講義	老年看護・病態・疾患論第4章B「パーキンソン病」を読んで臨むこと
13	認知症の種類と症状を理解する(今西先生)	講義	『老年看護学』第6章「認知機能障害に対する看護」を読み、予習して臨むこと
14	認知症の種類と症状を理解する(今西先生)	講義	『老年看護学』第6章「認知機能障害に対する看護」を読み、予習して臨むこと
15	試験・まとめ	筆記試験	筆記試験

■受講上の注意

講義・演習では課題やグループワークがある。必要な事前学習や復習を行い主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

終講試験(外部講師20点、専任教員80点)

専任教員80点内訳 筆記試験:40点 課題点:カテゴリ別荷重40点(プレテスト10%、ポストテスト20%、課題40%、演習30%)とする

■テキスト参考書など

資料、ワークシートは適宜配布する。資料はファイルにつづり管理すること

■備考

資料、ワークシートは適宜配布する。資料はファイルにつづり管理すること

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

母性看護学概論

講師: 豎山 万沙代

単位数: 1単位

時間数: 20時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

母性の概念、母性の発達、社会構造と母性の変化、母性看護の対象を理解する。
リプロダクティブヘルス/ライツの理念をもとに、母性看護の機能と役割を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	母性看護学概論を学ぶ意義について理解できる 母性の基盤となる概念について知り、母性看護の対象が理解できる	講義協同学習	既習知識(社会学など)から、母性看護の対象について考えてくること
2	リプロダクティブヘルス/ライツの概念について理解できる 女性を中心としたケア、家族を中心としたケアを理解できる	講義協同学習	既習知識からSDGsについて復習してくること 新聞等から母性看護に関する情報について読んでくること
3	母性の基盤となる概念について理解できる(母性・父性・親性について理解できる) 性とはなにか、性の多様性について理解する	講義協同学習	既習知識から、自己の母性(父性)親について考えてくること
4	母性看護における法的・倫理的問題(母体・胎児の権利)	講義協同学習	前回講義内容とともに、母性看護学概論1章G・Hを予習・復習してくること
5	女性(男性含む)の性と生殖に関する解剖生理、妊娠の生理・思春期・更年期について理解できる	発表会	解剖生理学・疾病論Vのテキスト・資料および母性看護学概論第3章・5章を学習してくること。図書室などから参考書を持参すること
6	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、STD/STIIにおける看護が理解できる	講義協同学習	母性看護学概論第6章(A・B・C・D)を予習してくること。関連する科目を事前に学習しておくこと。
7	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性の健康について理解できる	講義協同学習	母性看護学概論第5章C・第6章Eを読んでくること
8	受胎調節の原理と実際が理解できる	講義協同学習	受胎調節法を指導できるように、予習してくること
9	性暴力被害者の身体的・心理的問題と看護について理解できる 外国人妊婦(在日外国人含む)問題について考える	講義協同学習	母性看護学概論第6章(F・H)を読んでくること。
10	終講試験およびまとめ		

■受講上の注意

協同学習では、グループダイナミクスを活用して学習を進めていくため、積極的に自らの意見を発言し、他者の意見に耳を傾けること
講義内容によっては補習ができない内容もありますので、体調管理を行い、欠席のないようにしてください

■成績評価の方法

発表会 20点(資料10点・確認テスト10点)、終講試験 80点

■テキスト参考書など

電子書籍:『母性看護学概論』『小児概論・小児臨床総論』『解剖生理学』『疾病論V 腎・泌尿器』『母性看護学方法論I』医学書院
『スタディガイド』照林社 必要時資料配布

■備考

社会の変遷に伴い、母性看護の役割はますます拡大されています。講義を通して、看護師として、母性看護の対象に行う看護とはなにか考えてください。

■実務経験

本科目は、助産師として実務経験のある教員による授業である

精神看護学概論

講師: 濱川 孝二、山門 真樹

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

ライフサイクルにおける課題と精神保健を学び、精神看護の基本的概念と援助に必要な基礎的知識を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神的健康の意義と精神看護の考え方について理解できる	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第1章、精神保健福祉第1章を読んでおくこと
2	精神保健の考え方について理解できる	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第2章を読んでおくこと
3	精神保健福祉の歴史について理解できる	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第7章、精神保健福祉第2章を読んでおくこと
4	精神保健福祉に関する法律と施策について理解できる	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第7章、精神保健福祉第3章を読んでおくこと
5	精神保健福祉法で規定された入院形態や行動制限を含む、精神科病院における治療環境を知ることができる	病院見学	学習内容を復習し、目的意識をもって見学に臨むこと。
6	精神保健福祉法で規定された入院形態や行動制限を含む、精神科病院における治療環境を知ることができる	病院見学	学習内容を復習し、目的意識をもって見学に臨むこと。
7	精神科病院の見学を通しての学び まとめ	グループワーク	精神科病院見学の学びをグループで共有してまとめる。
8	精神科病院の見学を通しての学び まとめ発表	グループワーク・発表	精神科病院見学の学びをグループで共有してまとめ、発表する。
9	精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術について理解できる① 一次予防、二次予防	講義・グループワーク	講義前に精神保健福祉第4章を読んでおくこと
10	精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術について理解できる② 三次予防	講義・グループワーク	講義前に精神保健福祉第4章を読んでおくこと
11	心のはたらきと人格形成について理解できる	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第3章および第4章を読んでおくこと
12	精神科で用いられる理論について理解できる(精神力動理論、対象関係論、システム理論等)	講義・グループワーク	講義前に精神看護の基礎第3章および第4章を読んでおくこと
13	現代社会の問題と精神保健福祉対策について理解できる①(自傷、自殺、虐待等)	講義・グループワーク	講義前に精神保健福祉第7章を読んでおくこと
14	現代社会の問題と精神保健福祉対策について理解できる②(物質依存、引きこもり、不登校等)	講義・グループワーク	講義前に精神保健福祉第7章を読んでおくこと
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

精神保健医療看護の基本概念を理解する講義です
予習を行い講義に臨むこと

■成績評価の方法

レポート課題: 10点 グループの評価物: 10点
筆記試験: 80点

■テキスト参考書など

「系統看護学講座 精神保健福祉」「系統看護学講座 精神看護の基礎」医学書院

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

看護過程実習

講師:鹿島 三千代

単位数:3単位

時間数:120時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

根拠をもって対象に必要な看護を計画的に実践できる

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

1. 対象の身体的状態、心理的状态、社会的状態を把握し、看護の必要性(看護診断)を明確にする
2. 問題解決思考を活用して看護の計画を立案できる
3. 現在の状態を把握(臨床判断)し、計画通りでよいか考える
4. 自分の能力に応じた最善の看護を安全・安楽に実施する
5. 対象を尊重した態度で行動する
6. 看護実践を振り返り、次回につなげる
7. 看護を実践するチームの一員であることを意識して行動する

実習期間および方法

1名の患者を受け持ち、15日間の実習を行う

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱を参照する

■受講上の注意

受け持たせていただく患者とご家族を尊重し、看護学生としてふさわしい態度で実習する
事前学習を行い、主体的に実習に取り組む

■成績評価の方法

看護過程実習評価表に基づいて評価を行う

■テキスト参考書など

実習前に提示する

■備考

詳細は実習要綱を参照

■実務経験

本科目は、看護師としての実務経験のある教員による授業である

施設で暮らす高齢者の看護実習

講師:花園 千恵子

単位数:1単位

時間数:40時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

施設で暮らす高齢者の特徴を理解し、その人らしい暮らしを支える看護を実践できる

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

1. 高齢者の特徴を踏まえて、その人らしい暮らしについて理解する
2. 受け持った対象の日常生活状況、健康状況を把握する
3. 受け持った対象の思いを尊重しながら生活を支援する
4. 高齢者を取り巻く多職種の役割と連携の必要性を理解する
5. 高齢者との関りを通して、高齢者の暮らしに関心を持ち、尊厳をもって関わることの意味について理解する

実習期間及び方法

介護老人保健施設
介護老人福祉施設
グループホーム
介護医療院(介護療養病棟)
いずれかの施設で4日間
まとめ1日間

■方法

実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

■成績評価の方法

施設で暮らす高齢者の看護実習の実習評価表に基づいて評価する。

■テキスト参考書など

「老年看護学」医学書院 「基礎・臨床看護技術」医学書院

■備考

場所別の実習内容については、実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

法学

講師: 池田 哲之

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

法についての基礎的知識と法令の構造や法の解釈、法の考え方や仕組みなどの基本事項、さらに日本国憲法について理解し、法律と看護や医療との関連についての基礎的能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	現代立憲主義と憲法の関係性を理解する	講義	受講上の注意参照
2	人権の種類・性格を学ぶ	講義	受講上の注意参照
3	法令の種別を知る	講義	受講上の注意参照
4	人権を守る統治システムの概要を理解する	講義	受講上の注意参照
5	立法府の機能・役割を学ぶ	講義	受講上の注意参照
6	行政府および司法府の機能・役割を学ぶ	講義	受講上の注意参照
7	社会権を支える法令を知る	講義	受講上の注意参照
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

テキストにおける講義該当箇所を事前に読んでおくこと。インターネット・新聞などを活用し、時事問題を法的観点から考察する習慣をつけること

■成績評価の方法

科目目標への到達度合いを原則として、筆記試験(90%)、授業への参加態度(10%)の配分で評価する

■テキスト参考書など

教員の講義レジュメ

図録 日本国憲法 弘文堂(第2版)2023年4月 ISBN 978-4-335-35896-8

■備考

上記内容は、受講生の理解度その他の状況によって、変更となる場合があります

■実務経験

教育心理

講師: 假屋園 昭彦

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育場面での学習・発達・適応といった諸現象を心理学の立場から理解し、効果的な学習活動に結び付ける基礎的知識を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	乳幼児期の人格・情緒発達課題について理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
2	言葉の発達について理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
3	科学的概念と数理解の発達について理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
4	社会的認識の発達	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
5	思春期と青年期の人格、情緒発達、発達課題が理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
6	学級運営が理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
7	特別支援教育が理解できる。	講義・グループワーク	主体的に臨むこと。
8	総まとめと試験	筆記試験	

■受講上の注意

グループワークや課題学習に対して主体的に臨む。

■成績評価の方法

出席状況・受講態度・課題評価と発表・終講試験を総合的に評価する。

■テキスト参考書など

毎回資料プリントを配布する。

■備考

■実務経験

教育方法と評価

講師: 假屋園 昭彦

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育方法・評価の基礎的な理論を学び、看護場面に求められる教育力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	作成中		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			

22

23

24

25

26

27

28

29

30

■受講上の注意

■成績評価の方法

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

外国語(英語)

講師: 飯田 敏博

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

日常会話で頻繁に用いられる基本表現を学び、「話し」・「聞く」ことができる、基礎的な英語コミュニケーション能力を習得する。医療に関する英語を理解し、医療情報や看護に関する英語の文献を読解する能力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ポリオについて理解を深め、受診時の英語でのやりとりができる。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
2	薬の処方箋について理解を深め、診察時の英語でのやりとりができる。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
3	片頭痛や、気圧の変化などで生じる頭痛についての英語を理解できる。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
4	薬について理解を深め、内科受診時の英語でのやりとりができる。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
5	大腸がんに行進する可能性がある悪性のポリープについての理解を深める。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
6	SARSについての理解を深め、気管支鏡を用いての検査に関わる表現を身につける。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
7	復習テストで学習の理解度を測る。また粘膜の潰瘍について学ぶ。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
8	糖尿病のリスクについて英語での理解を深める。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
9	動脈疾患について理解を深め、定期検査関連の表現を身につける。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
10	アメリカにおける健康保険とホームドクターのやりとりを理解する。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
11	アレルギー反応を抑える物質などについて理解する。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
12	新型コロナ関連の英語表現やワクチンについての理解を深める。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
13	内視鏡検査や胸やけなどについて理解を深め、関連表現を身につける。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
14	中年期以降の女性の身体的変化やホルモン治療についての理解を深め、関連する英語表現を身につける。	講義・グループワーク	医療英語を予習・復習すること。
15	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

授業の予習を必ず行うこと。テキストと、英和・和英辞典、あるいは電子辞書(英和・和英機能のあるもの。英英辞典の機能が付くとさらに良い)を必ず持参すること。予習・復習の際に英語の音読を行うこと。

■成績評価の方法

試験(80%)、授業への参加態度(20%)

■テキスト参考書など

English for Medicine-Revised Edition 医療・看護のためのやさしい総合英語【改訂版】金星堂

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

チーム活動論

講師: 鹿島 三千代、山下 喬之、原田 智晃、小牧 祥太郎

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

保健・医療・福祉チームで活動する意義を理解するとともに、チームを構成する各職種の役割と活動内容を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	保健・医療・福祉におけるチーム活動の意義について理解する チーム活動にかかわる様々な職種を知る	講義グループワーク	グループで課題に取り組む
2	保健・医療・福祉分野で領域を活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からチーム活動の重要性を理解する(薬剤師)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
3	保健・医療・福祉分野で活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からチーム活動の重要性を理解する(理学療法士)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
4	保健・医療・福祉分野で活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からチーム活動の重要性を理解する(言語聴覚士)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
5	保健・医療・福祉分野で活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からのチーム活動の重要性を理解する(言語聴覚士)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
6	保健・医療・福祉分野で活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からのチーム活動の重要性を理解する(精神保健福祉士)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
7	保健・医療・福祉分野で活動する職種の役割と活動内容について理解する。 各専門職の立場からチーム活動の重要性を理解する(介護福祉士)	講義	職種について事前課題のうえ聴講し、終了後は事後課題に取り組む
8	事例を通し、保健・医療・福祉の専門職のなかで連携・協働すべき職種が理解できる まとめ	グループワーク個人ワーク	事前課題に取り組んだうえで、グループワークに臨む 講義のまとめ(課題)に取り組む

■受講上の注意

講義前に調べ学習をして主体的に学習する。毎時の講義に出席し、課題に取り組むこと。評価対象物であり、提出期限を守る。

■成績評価の方法

事前課題・事後課題(2～7回目)60点 グループ学習の成果物(1回目)10点 成果物・参加度(8回目)10点 最終レポート(20点)
※全ての講義毎に課題があり、評価の対象となるため、体調管理をしっかり行う

■テキスト参考書など

適宜、資料を配布する。
参考図書: 実践多職種連携教育(中外医学社)

■備考

■実務経験

本科目は、看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・精神保健福祉士・介護福祉士として、実務経験のある教員による授業である。

5、義山法男

看護倫理

講師: 江口 恵子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

医療専門職者としての倫理の基本知識及び看護職者としての責務について学び、看護を実践する上での基本的概念を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護倫理を学ぶ意義について理解できる。	講義	看護倫理とは何かについて予習しておくこと。
2	対象の尊厳を守ることの意味について理解できる。	講義	尊厳を守ることの意味について調べておくこと。
3	対象の意思決定をどのように支えるかについて理解できる。	講義・DVD	倫理問題へのアプローチについて予習しておくこと。
4	事例における生きることを支える必要性について考える。	講義・演習	倫理問題へのアプローチについて予習しておくこと。
5	倫理原則とインフォームドコンセントについて理解できる。	講義	生命倫理について予習しておくこと。
6	看護者の倫理綱領について理解できる。	講義	看護師の倫理綱領について読んでおくこと。
7	看護師の責務と役割について理解できる。	講義	テキストの「看護者の基本的責務」について読んでおくこと。
8	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

倫理とは何かについて考える講義です。主体的に学ぶ姿勢で臨んでください。
事例を中心として学びを深めていきます。居眠りや私語など十分に注意してください。

■成績評価の方法

筆記試験 80点
課題評価 20点

■テキスト参考書など

テキスト: 看護倫理 医学書院
看護者の基本的責務 日本看護協会出版会

■備考

必要な資料については、講義時に配布する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

対象別保健論

講師: 富安 恵子、政元 圭菜

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

ライフステージにおける発達段階と健康課題を理解するとともに、健康課題達成にむけた施策について理解を深め、生命の誕生から死にいたるまで、健康的に過ごすための看護について考察する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	対象別保健論を学ぶ意義を理解できる 疾病構造の変化と看護への影響について理解する(富安)	講義	「看護学概論」P59～60を読んでくる
2	母子保健の動向・母子保健に関連した衛生の指標を理解する(富安)	講義・グループワーク	「母性看護学概論」の関連部分を読んでくる
3	母子保健の施策と保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	提示された事例について看護の役割を考える
4	成人保健の動向と関連した衛生の指標を理解する(政元)	講義・グループワーク	「成人看護学総論」の関連部分を読んでくる 課題①の説明:身近な人の健康管理を調べてくる (壮年期の方へのインタビュー)
5	成人保健の施策を理解できる 身近な人の健康管理について考える(課題①活用)(政元)	講義・グループワーク	「成人看護学総論」の関連部分を読んでくる
6	成人保健活動を理解し、看護について考えることができる(政元)	講義・グループワーク	提示された事例について看護の役割を考える
7	産業保健の動向、施策を理解できる 産業保健活動を理解し、看護について考えることができる(政元)	講義・グループワーク	「成人看護学総論」の関連部分を読んでくる 提示された事例について看護の役割を考える
8	感染症保健の動向と施策について理解する(政元)	講義・グループワーク	テキスト『公衆衛生』の「第6章 感染症とその予防対策」部分を読んでくる
9	高齢者保健の動向と関連した衛生の指標を理解する 高齢者保健の施策を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	「老年看護学」の関連部分を読んでくる 提示された事例について看護の役割を考える
10	小児保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	「小児看護学概論」の関連部分を読んでくる 提示された事例について看護の役割を考える
11	学校保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	「小児看護学概論」の関連部分を読んでくる 提示された事例について看護の役割を考える
12	障害を持つ人の保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	障害者の動向や制度について調べてくる 課題②
13	障害を持つ人の保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安) 課題②活用	講義・グループワーク	提示された事例について看護の役割を考える
14	難病保健の動向、施策および保健活動を理解し、看護について考えることができる(富安)	講義・グループワーク	提示された事例について看護の役割を考える
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

各看護学概論を復習して臨む

■成績評価の方法

課題①、②合わせて10%、授業毎の事前課題10%、筆記試験80%

■テキスト参考書など

各概論テキスト、『社会保障と社会福祉』『公衆衛生』医学書院
『看護学生スタディガイド』照林社 他、随時、必要テキストを追加

■備考

【単位内訳:成人0.4単位、老年・母性・小児 各0.2単位】

■実務経験

本科目は、保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である

看護過程展開論Ⅱ

講師:上敷領 正子、鈴木 泉、中村 浩子

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

看護過程の基礎的知識を活用し、対象(地域・在宅、小児、母性)の特性や健康状態に応じた個別性のある看護実践に向けて多様な事例を用いて問題解決能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳梗塞後遺症のある在宅療養者への看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集	講義	訪問看護の制度について知識確認テストを行う 地域・在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱについて復習して臨む(中村)
2	アセスメントから全体像を捉え、看護の方向性を考える	個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(中村)
3	看護計画を立案する	個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(中村) 個別に助言を行うので、疑問点を整理して臨む。
4	計画に基づいて実践できる	演習	各自、事前に技術演習を行い、主体的に臨む(中村)
5	実施した看護について振り返りができる	個人ワーク・グループワーク	実践した看護について文献を用いて振り返る(中村)
6	川崎病を発症した小児と家族の看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集 病態関連図がとらえられる	講義	小児看護学概論・方法論ⅠⅡについて復習して臨む(鈴木) 記録用紙に記載する
7	アセスメントから全体像を捉え、初期計画を立案できる。	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(鈴木) 記録用紙に記載する
8	追加情報から、書記計画の修正および追加ができる。 全体像の追加・修正ができる。	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(鈴木) 記録用紙に記載する
9	退院や患者指導に向けての看護計画が立てられる。	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(鈴木) 記録用紙に記載する
10	看護計画を基に1日の行動計画を立てる。 必要な計画の追加修正ができる。	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(鈴木) 記録用紙に記載する
11	正常な妊娠期・分娩期・産褥期の母児の看護過程展開方法が理解できる 事例紹介と情報収集	講義	母性看護学方法論、母性看護技術の復習をして臨む(上敷領)
12	アセスメントから全体像を捉え、看護の方向性を考える。	グループワーク個人ワーク	妊娠期から産褥期(新生児期含む)までのアセスメントの視点がわかる(上敷領)
13	看護計画を立案できる	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(上敷領)
14	計画に基づいて実践できる	グループワーク個人ワーク	テキスト・参考書を持参して臨む(上敷領)
15	実施した看護について、振り返りができる	グループワーク個人ワーク	記録用紙に全て記載して臨む(上敷領)

■受講上の注意

実習に直結した科目です。主体的に取り組んでください。

■成績評価の方法

知識確認テスト(地域・在宅10点)、看護過程の提出物(それぞれ30点ずつ)

■テキスト参考書など

『地域・在宅看護論1・2』医学書院

『小児臨床看護学各論』医学書院『母性看護学各論』医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

【単位内訳:小児0.3単位、母性0.3単位、在宅0.4単位】

■実務経験

本科目は助産師・看護師として実務経験のある教員による授業である。

終末期と看護

講師: 今村 恵、花園 千恵子、鈴木 泉、早崎 玲子、森 恵

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

終末期にある対象とその家族の特徴を学び、その人らしい生と死を支える看護を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	終末期の概念と終末期を取り巻く現状を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」「臨床看護総論」の終末期に関する章を読んでおく 担当: 早崎
2	終末期における全人的苦痛を理解する 全人的苦痛のアセスメント及び看護を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく 担当: 早崎
3	緩和ケアにおける倫理的ケアの実践の基盤となる倫理の基礎的知識を理解する 緩和ケアにおける意思決定支援(インフォームドコンセント、ACP)を理解する 緩和ケアにおける倫理的問題を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」緩和ケアにおける倫理的課題の章を読んでおく 担当: 早崎
4	緩和ケアにおけるチームアプローチと看護師の役割を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の緩和ケアにおけるチームアプローチの章を読んでおく 担当: 早崎
5	終末期にある対象の苦痛(痛み、呼吸困難)への看護を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく 担当: 早崎
6	終末期にある対象の苦痛(消化器症状、倦怠感、不安・抑うつ、せん妄)への看護を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく 担当: 早崎
7	臨死期にある対象への看護を理解する 臨死期にある対象の家族へのケアおよびグリーフケアを理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の臨死期のケア、家族のケアの章を読んでおく 担当: 早崎
8	死亡時・死亡後の看護を理解する 死後のケア(エンゼルケア)を実施する	演習	エンゼルケアをグループで実施します。 配布資料を参考にエンゼルケアについて調べ演習に臨むこと。担当: 今村
9	終末期にある小児と家族の看護を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の緩和ケアの広がり、 「小児看護学概論小児看護臨床総論」の終末期にある子どもと家族の看護を読んでおく 担当: 鈴木
10	終末期にある成人と家族への看護を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の緩和ケアの広がり、 「成人看護概論」の人生の最後の時を支える看護の章を読んでおく 担当: 今村
11	終末期にある高齢者の看護を理解する(非がん疾患を中心に)	講義	テキスト「緩和ケア」の緩和ケアの広がり、 「老年看護学」エンドオブライフケアの章を読んでおく 担当: 花園
12	様々な療養の場で最期を迎える対象と家族への看護の役割を理解する	講義	テキスト「緩和ケア」の療養の場の広がりを読んでおく 担当: 早崎
13	在宅で死を迎える対象と家族への看護を理解する	講義	事前に資料を配布します。内容を読み予習をして臨むこと 担当: 森
14	在宅で死を迎える対象と家族への看護を理解する	講義	事前に資料を配布します。内容を読み予習をして臨むこと 担当: 森
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義の予習をし、主体的に講義に臨むこと

■成績評価の方法

筆記試験(担当: 早崎70点)、レポート(担当: 鈴木・花園 各5点、今村・森 各10点)により評価する

■テキスト参考書など

緩和ケア、臨床看護総論、小児看護学概論、小児臨床看護総論、老年看護学概論、成人看護学概論(全て医学書院eテキスト)、eナーストレーナー

■備考

資料プリントは適宜配布する

【単位内訳: 成人・老年・小児 各0.1単位、精神0.3単位、在宅0.4単位】

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

経験の探究・創造 I

講師: 鹿島 三千代、外園 智子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

実習に向かって主体的に学習計画をたて、実習で経験した自己の看護について知識を活用して深く考察し、今後の課題を明確にする

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目のガイダンスとプロジェクト学習について理解し、ビジョンとゴールを設定し、全体の見通しを立てることができる 健康支援実習にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる	講義 グループワーク	事前に実習要綱を読んで参加する(様式1) 事前に実習要綱について読み、プロジェクト学習に必要なプリントを持参する(様式2) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
2	包括ケア実習にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる 成人老年看護学実習1にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる	講義 グループワーク	事前に実習要綱について読み、プロジェクト学習に必要なプリントを持参する(様式2・3) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
3	成人老年看護学実習1にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる	講義 グループワーク	事前に実習要綱について読みプロジェクト学習に必要なプリントを持参する(様式2・3) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
4	子どもの発達支援実習にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる 精神看護学実習にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる	講義 グループワーク	事前に実習要綱について読みプロジェクト学習に必要なプリントを持参する(様式2・3) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
5	精神看護学実習にむけて、自己の目標と学習計画を立てることができる	講義 グループワーク	事前に実習要綱について読みプロジェクト学習に必要なプリントを持参する(様式2・3) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
6	健康支援における看護師の役割について考察する(健康支援実習)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
7	地域包括ケアシステムの中での看護師の果たす役割を考察する(地域包括ケア実習)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
8	子どもの成長発達を促進する看護師の役割について考察する(子どもの発龍支援実習)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
9	急性期における自己の臨床判断を省察し、臨床的な学びを明確にできる(成人老年看護実習 I)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
10	急性期における看護師の役割を考察できる(成人老年看護実習 I)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
11	精神障害のある患者への自己の看護実践を省察し、よりよい看護について考察し、課題を明確にできる(精神看護学実習)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
12	精神障害のある患者への自己の看護実践を省察し、よりよい看護について考察し、課題を明確にできる(精神看護学実習)	講義 グループワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式3・4) 実習毎にテーマポートフォリオを作成する
13	実習で学んだ看護をもとに、自己の看護について深く考察し、自己の課題を明確にできる(まとめ)	個人ワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式5・6) 凝縮ポートフォリオを作成する
14	実習で学んだ看護をもとに、自己の看護について深く考察し、自己の課題を明確にできる(まとめ)	個人ワーク	学習目標に沿って、計画的に取り組む(様式5・6) 凝縮ポートフォリオを作成する
15	実習で学んだ看護をもとに、自己の看護について深く考察し、自己の課題を明確にできる 成長レポートを記載し、自己評価をもとに他者評価をうける	発表面接	学習目標に沿って、計画的に取り組む 凝縮ポートフォリオをもとにまとめをする

■受講上の注意

実習と連動する科目です。実習に向けてオリエンテーションに意思をもって臨み、効果的な実習につなげましょう。また、実習終了後は課題に探究する姿勢で計画的に取り組む、次にかける看護について語れるようになりましょう。

シラバスの実習科目は個人により異なるため、別紙をもとに自分の取り組む学習内容を把握する。個人の実習進捗を確認して、本科目を履修する必要があります。

■成績評価の方法

課題レポート

①ビジョン・ゴール5点 ②実習前(20点)・・・各実習科目ごとに4点ずつ ③実習後(50点)・・・1単位の実習科目各6点、2単位の実習科目各16点 ④凝縮ポートフォリオの成果物15点 ⑤個人内評価10点

■テキスト参考書など

資料を配布する。

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

暮らしと健康を支える看護

講師：池西 静江、富安 恵子

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

「自助・互助・共助・公助」の理解を深め、健康と暮らしのアセスメントを行い、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病気や障害をもちつつ、あるいは虚弱な状態で「地域で暮らす」ことの意味とそれを支える看護の役割を理解する。 「自助・互助・共助・公助」について理解を深める（池西）	講義	地域包括ケアシステム論で学んだことを活かし、地域包括ケアシステムについて自分の言葉で説明ができるようにしておく ポストテストあり
2	地域で暮らす人々の健康と暮らしのアセスメントの視点について理解する	講義・グループワーク	身近な事例を用いてアセスメントを行う ポストテストあり
3	地域で暮らす人々の健康と暮らしのアセスメントの視点について理解する	講義・グループワーク	身近な事例を用いてアセスメントを行う ポストテストあり
4	地域包括支援センターの活動の実際を知り、看護職者として暮らしと健康を支える視点や役割について理解する	講義	地域包括支援センターについて調べてくること
5	地域（鹿児島市）にある社会資源について理解を深める	ジグソー学習	書籍やHPを見て、地域の社会資源について調べる
6	地域（鹿児島市）にある社会資源について理解を深める	ジグソー学習	書籍やHPを見て、地域の社会資源について調べる
7	物的・人的社会資源の活動の実際を理解する（難病支援センター、地域包括支援センター等）	フィールドワーク	安全に移動する 研修先では、身だしなみ、態度、言動に気をつける
8	物的・人的社会資源の活動実際を理解する（難病支援センター、地域包括支援センター等）	フィールドワーク	安全に移動する 研修先では、身だしなみ、態度、言動に気をつける
9	地域の社会資源について学びを共有し、相互に理解を深める	発表	自分たちが調べたり、実際行ってみたいものについて学びを共有する（両クラス合同）
10	事例を通して、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える（外部講師）	講義事例検討	実際の事例を基に支援の方法について考える
11	事例を通して、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える（外部講師）	発表	事例について考えた支援についてお互いの意見を交換する
12	事例を通して健康と暮らしのアセスメントを行う（事例は複数）	講義個人ワーク	2・3回目の講義を想起しながら具体的に考える
13	事例を通して看護の役割や社会資源の活用方法を考える	個人ワークグループワーク	個人の意見をしっかり持ち、グループ間で意見を交わす
14	事例を通して看護の役割や社会資源の活用方法を考え、まとめる	グループワーク	次回の発表に向けて、グループで協力し合う
15	事例を通して、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考えたことを共有する	発表	他の人たちの意見を聴き、自分の見解を深める

■受講上の注意

地域包括ケアシステム論を復習して臨むこと

■成績評価の方法

課題評価（事前課題の提出状況）25点、GW（9・11・15）の成果発表60点、ポストテスト5点×3回＝15点

■テキスト参考書など

地域・在宅看護論1・2 基礎からわかる「地域・在宅看護論」

■備考

資料、プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、保健師として実務経験のある教員による授業である

在宅療養者と家族の看護

講師: 中村 浩子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

地域・在宅看護における基本的な看護技術や日常生活援助について理解する。また、療養者と家族の状態の変化に即した援助方法を考え実践する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	暮らしを支える看護技術について理解する① (在宅で暮らす療養者と家族の特性、暮らしの場で看護するための心構え)	講義・グループワーク	地域・在宅看護論2 第2章-Aを読んでくる ワークシート① プレテスト①
2	暮らしを支える看護技術について理解する② (在宅におけるセルフケアを支援する対話・コミュニケーション)	講義・演習	地域・在宅看護論2 第2章-Bを読んでくる ワークシート② プレテスト②
3	暮らしを支える看護技術について理解する③ (在宅における家族を支援する看護)	シミュレーション学習	地域・在宅看護論2 第2章-Cを読んでくる ワークシート③ プレテスト③
4	暮らしを支える看護技術について理解する④ (在宅における安全を守る看護)	シミュレーション学習	地域・在宅看護論2 第2章-Dを読んでくる ワークシート④ プレテスト④
5	事例を用いて、地域における暮らしを支える看護を理解する① (療養環境、衣、清潔のアセスメントと支援のポイント)	講義、グループワーク	地域・在宅看護の実践 第2章を読んでくる ワークシート⑤ プレテスト⑤
6	事例を用いて、地域における暮らしを支える看護を理解する② (食、排泄のアセスメントと支援のポイント)	講義、グループワーク	地域・在宅看護の実践 第2章を読んでくる ワークシート⑥ プレテスト⑥
7	事例を用いて、地域における暮らしを支える看護を理解する① (活動、休息のアセスメントと支援のポイント)	講義、グループワーク	地域・在宅看護の実践 第2章を読んでくる。 ワークシート⑦ プレテスト⑦
8	訪問看護のマナーと注意点	シミュレーション学習	訪問看護のマナーについて調べてくる ワークシート⑧ プレテスト⑧
9	初回訪問の看護実践①	グループワーク、演習	事例に対し立案した訪問看護計画を実践する。 グループで演習を行い臨む。 ※必要物品はグループで準備・確認する。訪問 看護の記録①
10	初回訪問の看護実践②	グループワーク、演習	事例に対し立案した訪問看護計画を実践する。 グループで演習を行い臨む。 ※必要物品はグループで準備・確認する。訪問 看護の記録②
11	訪問場面を振り返り、次回の訪問看護を立案する。	グループワーク、発表	立案した訪問看護の記録①②をもとに、活発に 意見交換を行う。 訪問看護の記録③
12	事例をもとに地域・在宅看護マネジメントを理解する①	講義、グループワーク	地域・在宅看護の実践 第6章を読んでくる。 ワークシート⑯ プレテスト⑨
13	事例をもとに地域・在宅看護マネジメントを理解する②	講義、グループワーク	地域・在宅看護の実践 第6章を読んでくる。 ワークシート⑳ プレテスト⑩
14	事例をもとに地域・在宅看護マネジメントを理解する③ まとめ発表	発表	地域・在宅看護の実践 第6章を読んでくる。 発表形式は自由。(提示する媒体が必要)グ ループ毎:発表時間5分間 別紙参照
15	まとめ、終講試験	筆記試験	ワークシート10枚、訪問の記録3枚を持参する。

■受講上の注意

配布されたワークシートに予習・記載し、持参する。
講義、グループワーク、演習、シミュレーション学習に積極的に取り組む。

■成績評価の方法

ワークシート 授業後提出(2点×10枚) 訪問看護の記録(2点×3枚)
まとめ発表(4点)プレテスト(3点×10回)筆記試験(40点)

■テキスト参考書など

地域・在宅看護論1・2(医学書院)
基礎からわかる地域・在宅看護論(照林社)
地域・在宅看護実習クイックノート(照林社)

■備考

地域在宅看護概論Ⅰ・Ⅱで学習したまる子ちゃん一家:友蔵さんの事例(脳梗塞後遺症のある高齢者)を使用する。病態の理解は事前学習しておく。ワークシートは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

在宅における医療処置と看護

講師: 中村 浩子、松木 陽一、堀畑 香織

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

在宅看護の医療処置に伴う援助技術や医療機器を使用している療養者および家族への支援、在宅でのリハビリテーションの活用について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医療処置が暮らしに必要な在宅療養者と家族を支援する看護師の役割を理解する(事例紹介・学びの導入)	講義・グループワーク	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート① ポストテスト①
2	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える①(在宅医療の仕組み、訪問看護導入初期の看護)	講義・グループワーク	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート② ポストテスト②
3	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える②(在宅療養の開始、初回訪問の看護の役割)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート③ ポストテスト③
4	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える③(在宅医療機器管理、在宅療養移行期の看護) PhilipsJapan 田之上講師	講義、演習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート④ ポストテスト④
5	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える④(在宅療養安定期の看護)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート⑤ ポストテスト⑤
6	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える⑤(在宅療養の急性増悪期の看護)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート⑥ ポストテスト⑥
7	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える⑥(在宅療養の終末期・看取りの看護)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート⑦ ポストテスト⑦
8	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える⑦(在宅療養のグリーフケアと終了期の看護)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート⑧ ポストテスト⑧
9	医療処置が暮らしの中の一部となっている在宅療養者と家族のニーズに合わせ、柔軟なケアを考える⑧(在宅療養の災害看護)	シミュレーション学習	①筋萎縮性側索硬化症 ②脳梗塞後遺症 2事例を用いる。 ワークシート⑨ ポストテスト⑨
10	事例の学びをもとに「在宅療養における柔軟なケア」の情報交換を行う。まとめ発表会	講義・グループワーク	発表形式は自由(提示媒体が必要)グループ発表: 5分間 別紙参照
11	訪問看護における医療処置の実際①(ストーマ管理・胃瘻管理・喀痰吸引・褥瘡処置) 訪問看護師 堀畑看護師	講義・演習	ワークシート⑩⑪を用い演習計画を作成。グループ内で役割を決め、事前演習を行う。当日は、状況の変化に応じた看護実践を行う。(別紙参照)
12	訪問看護における医療処置の実際②(ストーマ管理・胃瘻管理・喀痰吸引・褥瘡処置) 訪問看護師 堀畑看護師	講義・演習	ワークシート⑩⑪を用い演習計画を作成。グループ内で役割を決め、事前演習を行う。当日は、状況の変化に応じた看護実践を行う。(別紙参照)
13	在宅リハビリテーションの理解と活用① 理学療法士 松木講師	講義・演習	事前資料をもとに事前学習を行い、演習に臨む(ジャージ必要)
14	在宅リハビリテーションの理解と活用② 理学療法士 松木講師	講義・演習	事前資料をもとに事前学習を行い、演習に臨む(ジャージ必要)
15	まとめ・終講試験	講義・筆記試験	ワークシート11枚を持参する

■受講上の注意

筋萎縮性側索硬化症と嚥下障害の病態関連図を事前に学習し、受講しましょう。

ワークシート、グループワーク、講義、演習、シミュレーション学習に積極的に取り組みましょう。公欠の場合、本人の申請に基づき、可能な限り補講・ポストテストを行う。

■成績評価の方法

- ①ワークシート11枚(演習計画書2枚含む)2点×11点
- ②ポストテスト3点×9点(1～9講義終了後5分間)③まとめ発表11点④終講テスト40点

■テキスト参考書など

地域・在宅看護論1.2(地域・在宅看護論の実践)(地域・在宅看護論の基盤)医学書院
基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社
地域・在宅看護実践クイックノート 他

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士、看護師として実務経験のある教員による授業である

がん看護

講師:花園 千恵子、大迫 浩子、塩満 多華子、岩坪 貴寛

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

がんとともに生きる対象と家族の特徴を学び、がん治療とその看護について理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	がん医療の現状と看護を理解する	講義	がん看護学第1章「がん医療の現状と看護」を読み講義に臨む
2	1.がん患者の対象とがん看護の場を理解する 2.がんサバイバーシップケアの概念を理解する	講義	がん看護学第4章「がん患者の看護」を読み講義に臨む
3	がん治療の概要を理解する	講義	がん看護学第3章A「がん治療の概要」を読み講義に臨む
4	がん患者の全人的苦痛に対するマネジメントと援助方法を理解する	講義	がん看護学第4章B「がん患者の苦痛のマネジメント」を読み講義に臨む
5	がん薬物療法と有害事象に対する援助方法を理解する	講義	がん看護学 第5章C「薬物療法における看護」を読み講義に臨む
6	がん放射線療法を受ける患者の看護を理解する	講義	がん看護学第5章D「放射線療法における看護」を読んで講義に臨むこと
7	集学的治療を受ける肺がん患者の看護を理解する	講義	成人看護学 呼吸器 第5章G「疾患の理解 肺腫瘍」を読み講義に臨む
8	集学的治療を受ける乳がん患者の看護を理解する	講義	成人看護学 女性生殖器 第5章B「臓器別疾患 乳房の疾患」を読み講義に臨む
9	集学的治療を受ける子宮がん患者の看護を理解する	講義	成人看護学 女性生殖器 第5章B「臓器別疾患 子宮の疾患」を読み講義に臨む
10	集学的治療を受ける急性骨髄性白血病患者の看護を理解する	講義	成人看護学 血液・造血器 第4章C「造血器・腫瘍・急性白血病」を読み講義に臨む
11	抗がん薬の暴露対策と血管漏出時の対応を実施する	演習	臨床薬理学 第4章②「抗がん薬の血管外漏出」を読み講義に臨む
12	大腸がん患者の看護を理解する【事例展開】	講義	成人看護学 消化器 第6章E「腸・腹膜疾患患者の看護」を読み講義に臨む
13	大腸がん患者の看護を理解する【事例展開】	講義	成人看護学 消化器第6章E「腸・腹膜疾患患者の看護」を読み講義に臨む
14	大腸がん看護の看護を理解する(ストーマパウチ交換の実際)	演習	成人看護学 特論「ストーマケア」を読み演習計画を立てること
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義の予習・復習を主体的に行い講義に臨むこと

■成績評価の方法

課題点10点、筆記試験90点の総合評価とする

■テキスト参考書など

医学書院「がん看護学」「呼吸器」「血液・造血器」「女性生殖器」「消化器」「臨床薬理学」

■備考

講義資料については講義時に配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

、鮫島 むつみ、貴島 佳代

小児看護学概論

講師: 上敷領 正子

単位数: 1単位

時間数: 20時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

小児の成長発達や用語について学び、看護の役割を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	小児看護の対象や目的、役割を理解できる	講義・グループワーク	小児看護学概論 第1章を読んでもくる
2	子どもの成長や発達、発達課題を理解できるー1	講義・グループワーク	小児看護学概論 第2章を読んでもくる
3	子どもの成長や発達、発達課題を理解できるー2 ポストテスト①	講義・グループワーク	小児看護学概論 第2章を読んでもくること
4	新生児期・乳児期の子どもの特徴と看護・家族について理解できる ポストテスト②	講義・グループワーク	小児看護学概論 第3章を読んでもくること
5	幼児期前期の子どもの特徴を理解できる ポストテスト	講義・グループワーク	小児看護学概論 第4章を読んでもくること
6	幼児期後期の子どもの特徴を理解できる ポストテスト③	講義・グループワーク	小児看護学概論 第4章Aを読んでもくること
7	学童期の子どもの特徴を理解できる ポストテスト④	講義・グループワーク	小児看護学概論 第4章Bを読んでもくること
8	思春期・青年期の子どもの特徴を理解できる ポストテスト ⑤	講義・グループワーク	小児看護学概論 第5章を読んでもくること
9	子どもを取り巻く社会について理解できる ポストテスト ⑥	講義・グループワーク	小児看護学概論 第6・7章を読んでもくること
10	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

予習を行い講義に参加すること
講義当日に必ず、復習を行い記憶の定着を図るように努める
地域で見かける子どもたちの様子を、興味関心をもちウォッチングし、テキストと照らし合わせ発達理解に努めること

■成績評価の方法

ポストテスト(5点×6回=30点) 終講試験70点の100点満点

■テキスト参考書など

小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
小児看護学実習クイックノート 照林社
看護学生 スタディーガイド 照林社

■備考

適宜資料は配布する

■実務経験

本科目は、看護師・助産師としての実務経験のある教員による授業である

小児看護方法論 I

講師: 鈴木 泉、松下 賢治

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

成長・発達を踏まえ、健康問題や障害を持つ小児と家族の看護を理解する(新生児期・乳児期・幼児期)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	子どもの病行や障害に対する特徴と看護について理解できる-1 病気や障害を持つ子どもと家族の特徴と看護について理解できる-1	講義	小児看護学概論(第3章・第4章A・第6章・第7章)・小児臨床看護総論(第1章・第2章)を読んでくる
2	子どもの病行や障害に対する特徴と看護について理解できる-2 病気や障害を持つ子どもと顔z区の特徴と看護について理解できる-2	講義	小児看護学概論(第3章・第4章A・第6章・第7章)・小児臨床看護総論(第1章・第2章)を読んでくる
3	1)新生児・低出生体重児の疾患を理解できる 2)染色体異常の疾患を理解できる 3)先天性疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んでくる 担当:松下5-1
4	乳幼児の疾患を理解できる-1 1)感染性疾患について理解できる 2)呼吸器疾患を理解できる 3)腎・泌尿器疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んでくる 担当:松下5-2
5	子どもの病気や障害の経過とその看護について理解できる	講義	小児臨床看護総論(第3章)を読んでくる
6	乳幼児の疾患を理解できる-2 1)循環器疾患を理解できる(先天性疾患は第3回) 2)消化器疾患を理解できる 3)代謝性疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んでくる 担当:松下5-3
7	検査・処置を受ける子どもの看護を理解できる ポストテスト	講義	小児臨床看護総論(第6章)を読んでくる
8	乳幼児の疾患を理解できる-3 1)内分泌疾患について理解できる 2)免疫・アレルギー疾患を理解できる 3)運動器疾患を理解できる 4)皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んでくる 担当:松下5-4
9	乳幼児の疾患を理解できる-4 1)血液・造血疾患について理解できる 2)悪性新生物の疾患を理解できる 3)精神疾患を理解できる(主に発達障害)	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んでくる 担当:松下5-5
10	事故・外傷時の対処・処置・看護を理解できる(ハイムリット法など) 子どもの虐待と看護を理解できる	講義	小児看護学概論(第3章A④②、B⑧C・第5章A⑧③)・小児臨床看護総論(第8章)・小児臨床看護各論(第19章)を読んでくる
11	1)発達に気がかりのある子どもについて理解できる 2)発達に気がかりのある子どもに必要な手立てを考え作ることができる	講義・グループワーク	「ことばの支援センター」からの遠隔講義 グループに分かれ手立てを検討し作成する(手立てに必要なものを準備する)
12	乳幼児期の感染性疾患の子どもの事例を展開し看護を考えることができる	グループワーク	感染性疾患の子どもの急性期について事前学習をして臨む 必要な看護をグループで検討し、計画をグループで作成する
13	乳幼児期の感染性疾患の子どもに対する看護を実施できる-1 1)急性期の子どものバイタルサインおよびフィジカルアセスメントに必要な観察とフィジカルアセスメントができる 2)子どもに必要な看護技術の実践ができる-計測、バイタルサイン測定、検査・処置時の看護、PBLs、清潔援助(臀部浴・清拭など)・離乳食や内服の援助、日常生活援助 3)乳幼児期の子どもの主な症状についてまとめることができる	演習・グループワーク・個人ワーク	事前に学習をして、テキスト・参考書を持参して望む 演習には積極的に参加し、事例に必要な看護の実践から学ぶ 主な症状は、グループワーク後個人での提出となる
14	乳幼児期の感染性疾患の子どもに対する看護を実施できる-2 1)急性期の子どものバイタルサインおよびフィジカルアセスメントに必要な観察とフィジカルアセスメントができる 2)子どもに必要な看護技術の実践ができる-計測、バイタルサイン測定、検査・処置時の看護、PBLs、清潔援助(臀部浴・清拭など)・離乳食や内服の援助、日常生活援助 3)乳幼児期の子どもの主な症状についてまとめることができる	演習・グループワーク・個人ワーク	事前に学習をして、テキスト・参考書を持参して望む 演習には積極的に参加し、事例に必要な看護の実践から学ぶ 主な症状は、グループワーク後個人での提出となる

■受講上の注意

講義前後には予習復習を行なうこと

■成績評価の方法

終講試験(外部講師30点筆記試験+教員70点の100点満点)

教員の70点のうち7回目のポストテスト5点+演習のリフレクション5点+症状のまとめ(個人提出)10点+事例看護計画および追加修正(グループでの提出)10点+筆記試験40点

■テキスト参考書など

医学書院:『小児看護学概論 小児臨床看護総論』『小児臨床看護各論』『小児看護技術』

照林社:『小児看護実習クイックノート』『看護学生 スタディガイド』

■備考

適時、資料を配布する

■実務経験

本科目は、医師および看護師・助産師として実務経験のある教員による授業である

小児看護方法論Ⅱ

講師: 鈴木 泉、松下 賢治

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

成長・発達を踏まえ、健康問題や障害を持つ小児と家族の看護を理解する(学童期・思春期・青年期)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	子どもの病行や障害に対する特徴と看護について理解できる-1 病気や障害を持つ子どもと顔z区の特徴と看護について理解できる-1	講義	小児看護学概論(第3章・第4章A・第6章・第7章)・小児臨床看護総論(第1章・第2章)を読んてくる
2	子どもの病行や障害に対する特徴と看護について理解できる-2 病気や障害を持つ子どもと家族の特徴と看護について理解できる-2	講義	小児看護学概論(第3章・第4章A・第6章・第7章)・小児臨床看護総論(第1章・第2章)を読んてくる
3	学童期・思春期から青年期の子どもの疾患を理解できる-1 1)代謝性疾患を理解できる 2)リウマチ性疾患が理解できる 3)腎・泌尿器疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んてくる 担当:松下5-1
4	学童期・思春期から青年期の子どもの疾患を理解できる-2 1)循環器疾患を理解できる 2)消化器疾患を理解できる 3)腎・泌尿器疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んてくる 担当:松下5-2
5	子どもの病気や障害の経過とその看護について理解できる	講義	小児臨床看護総論(第3章)を読んてくる
6	学童期・思春期から青年期の子どもの疾患を理解できる-3 1)呼吸器疾患が理解できる 2)完成症を理解できる 3)皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んてくる 担当:松下5-3
7	検査・処置を受ける子どもの看護を理解できる ポストテスト	講義	小児臨床看護総論(第6章)を読んてくる
8	学童期・思春期から青年期の子どもの疾患を理解できる-4 1)血液・造血疾患が理解できる 2)悪性新生物を理解できる	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んてくる 担当:松下5-4
9	1. 学童期・思春期から青年期の子どもの疾患を理解できる-5 1)神経疾患が理解できる 2)精神疾患が理解できる 3)学習障害などが理解できる 2. 成長・発達に影響を与えながら、長期経過で治療を有する疾患を理解できる(成人期への移行を含める)	講義	小児臨床看護各論の必要な章・項目を読んてくる 担当:松下5-5
10	事故・外傷時の対処・処置・看護を理解できる 子どもの虐待と看護を理解できる(ヤングケアラー、いじめ、ネグレクトなど)	講義	小児看護学概論(第3章A④②、B⑧C・第5章A⑧③)・小児臨床看護総論(第8章)・小児臨床看護各論(第19章)を読んてくる
11	1)発達に気がかりのある子どもについて理解できる 2)発達に気がかりのある子どもに必要な手立てを考え作ることができる	講義・グループワーク	「ことばの支援センター」からの遠隔講義 グループに分かれ手立てを検討し作成する(手立てに必要なものを準備する)
12	学童期の慢性疾患の子どもの事例を展開し看護を考えることができる	グループワーク	学童期の慢性疾患の子どもについて事前学習をして臨む 必要な看護をグループで検討し、計画をグループで作成する
13	学童期の慢性疾患の子どもに対する看護を実施できる-1 1)慢性期の子どものバイタルサインおよびフィジカルアセスメントに必要な観察とフィジカルアセスメントができる 2)子どもに必要な看護技術の実践ができる-計測、バイタルサイン測定、検査・処置時の看護、PBLs、清潔援助・退院に向けての指導、日常生活援助 3)子どもの主な症状についてまとめることができる	講義・グループワーク・個人ワーク	事前に学習をして、テキスト・参考書を持参して望む 演習には積極的に参加し、事例に必要な看護の実践から学ぶ 主な症状は、グループワーク後個人での提出となる

- 学童期の慢性疾患の子どもに対する看護を実施できる-2
- 14 1)慢性期の子どものバイタルサインおよびフィジカルアセスメントに必要な観察とフィジカルアセスメントができる
- 2)子どもに必要な看護技術の実際ができる-計測、バイタルサイン測定、検査・処置時の看護、PBLs、清潔援助・退院に向けての指導、日常生活援助
- 3)子どもの主な症状についてまとめることができる

事前に学習をして、テキスト・参考書を持参して望む演習には積極的に参加し、事例に必要な看護の実際から学ぶ
主な症状は、グループワーク後個人での提出となる

15 終講試験およびまとめ

筆記試験

■受講上の注意

講義前後には予習復習を行なうこと

■成績評価の方法

終講試験(外部講師30点筆記試験+教員70点の100点満点)

教員の70点のうち-7回目のポストテスト5点+演習のリフレクション5点+症状のまとめ(個人提出)10点+事例看護計画および追加修正(グループでの提出)10点+筆記試験40点

■テキスト参考書など

医学書院:『小児看護学概論 小児臨床看護総論』『小児臨床看護各論』『小児看護技術』
照林社:『小児看護実習クイックノート』『看護学生 スタディガイド』

■備考

適時、資料を配布する

■実務経験

本科目は、医師および看護師・助産師として実務経験のある教員による授業である

母性看護方法論 I

講師: 上敷領 正子、堂園 光一郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

妊娠期・分娩期にある妊婦・産婦と胎児の正常と異常の看護について理解する。不妊治療と看護について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	妊娠の成立と妊娠による母体の生理的变化について理解できる 妊娠各期の心理が理解できる 妊産褥婦を取り巻く人々の心理について理解できる	講義	母性看護学各論 第1章・第3章(A・B)を読むこと
2	妊婦の理解(妊婦・胎児の健康状態とアセスメントの視点が理解できる)	講義	母性看護学各論第3章(C)を読むこと
3	妊娠各期に行われる検査の目的が理解できる(妊娠の診断法)検査結果と妊娠への影響について理解できる	講義・演習	母性看護学各論 I 3章(C)を読むこと
4	妊娠の理解(マイナートラブル・日常生活アセスメント) 妊娠の理解(保健指導)・切迫流産の看護について理解できる	講義	母性看護学各論第3章(D)を読むこと 母性看護学各論第7章 I (G)を読むこと
5	妊娠の異常について理解できる	講義	母性看護学各論第7章 I を読むこと
6	妊娠の異常の異常と看護について理解できる(GDM・HDP)	講義	母性看護学各論第7章(G)を読むこと
7	分娩の要素・機序に理解できる	講義	母性看護学各論第4章(A)を読むこと
8	分娩進行状態について理解できる 分娩進行状態に応じた看護が理解できる(分娩1期)	講義	母性看護学各論第4章を読むこと
9	分娩進行状態について理解できる 分娩進行状態に応じた看護が理解できる(分娩2期～4期)出生直後の新生児のケアが理解できる	講義	母性看護学各論第4章を読むこと
10	分娩時における医療的介入と看護について理解できる	講義	母性看護学各論第7章 II を読むこと
11	分娩の異常について理解できる	講義	母性看護学各論第7章 II を読むこと
12	分娩の異常と必要な看護が理解できる	講義	母性看護学各論第7章を読むこと
13	不妊治療と生殖補助医療について理解できる	講義	母性看護学各論第12章を読むこと
14	不妊・不育カップルへの看護が理解できる	講義	講義
15	終講試験及びまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

本科目は、解剖生理・母性看護学概論にて妊娠までの経過を十分に理解したうえで学習を行うことが必要である。そのため、十分事前学習を行い講義に臨んでほしい。欠席等については学則に準じる。

■成績評価の方法

産科医師と合わせて100点満点とする。(割合は講義回数で計算する)

■テキスト参考書など

『母性看護学概論』『母性看護学各論』『母性看護技術』医学書院 適宜資料配布 スタディーガイド 各種雑誌等は紹介する

■備考

妊娠・分娩とダイナミックな変化を遂げる内容の学習に生命の神秘を感じてほしい。健康な妊産婦が異常にならないようにする為にどのような看護が必要であるのか柔軟な思考で学習に臨んでほしい。妊婦は地域の中で生活している。セルフマネジメントができるような支援について理解を深める。

■実務経験

本科目は、医師、助産師・看護師として実務経験のある教員による授業である

母性看護方法論Ⅱ

講師: 豎山 万沙代、堂園 光一郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

正常な妊娠・分娩の経過をふまえ、褥婦・新生児の正常と異常の看護について理解する。産褥期・新生児期に必要な技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 産褥期の身体的変化が理解できる。(妊娠・分娩との関係性を考慮し連続性を意識した学習) 2. 産褥期の心理・社会的変化が理解できる。	講義	テキスト第5章A・B、第6章A・Bを読んでくる。
2	新生児の生理が理解できる。	講義	テキスト第5章A・B、第6章A・Bを読んでくる。
3	1. 産褥当日から1日目、生後当日から1日目の正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。 2. 褥婦・新生児と家族の看護がわかる。 3. 新生児の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第5・6章を読んでくる。 正常な産褥経過および新生児の経過(褥婦と新生児はユニットとして考える。家族の関連)を考える。
4	1. 産褥2日目、生後2日目の正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。 2. 褥婦・新生児と家族の看護がわかる。 3. 新生児の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第5・6章を読んでくる。 正常な産褥経過および新生児の経過(褥婦と新生児はユニットとして考える。家族の関連)を考える。
5	1. 産褥3日目、生後3日目の正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。 2. 褥婦・新生児と家族の看護がわかる。 3. 新生児の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第5・6章を読んでくる。 正常な産褥経過および新生児の経過(褥婦と新生児はユニットとして考える。家族の関連)を考える。
6	1. 産褥4日目、生後4日目の正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。 2. 褥婦・新生児と家族の看護がわかる。 3. 新生児の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第5・6章を読んでくる。 正常な産褥経過および新生児の経過(褥婦と新生児はユニットとして考える。家族の関連)を考える。
7	1. 産褥5日目以降、生後5日目以降の正常な産褥経過(褥婦と新生児)のアセスメントの視点を考えられる。 2. 褥婦・新生児と家族の看護がわかる。 3. 新生児の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第5・6章を読んでくる。 正常な産褥経過および新生児の経過(褥婦と新生児はユニットとして考える。家族の関連)を考える。
8	1. 母児ユニットの考え方が理解できる 2. ウェルネスの視点で産褥・新生児の経過を理解できる 3. 産褥・新生児に必要な指導の必要性和具体的な内容が理解できる	講義協同学習	テキスト第5章、第6章を読んでくる。
9	産褥期の異常(堂園講師)について理解できる	講義協同学習	テキスト第7章IV読んでくる。
10	産褥期の異常の看護がわかる。	講義協同学習	テキスト第7章IVを読んでくる。
11	新生児の異常(堂園講師)について理解できる	講義	テキスト第7章IIIを読んでくる。
12	新生児の異常の看護がわかる。	講義	テキスト第7章IIIを読んでくる。
13	産褥期・新生児に必要な看護技術が安全安楽に実施できる。	演習	必要なテキスト及び参考書を読み、付帯しているQRコードから動画を視聴する。 褥婦の技術 : 「子宮底触診」
14	産褥期・新生児に必要な看護技術が安全安楽に実施できる。	演習	新生児の技術: 「新生児の計測」「新生児のバイタルサイン」「おむつ交換」「抱っこ」「沐浴」「調乳」「授乳」※パンフレットを活用すること。
15	まとめと終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

自己学習を行い、予習・復習をしてくること。主体的に講義に望むこと。グループで協同し、学習を進めていきましょう。

■成績評価の方法

パンフレット作成と発表(10点)、技術演習(10点)筆記試験(60点)で評価する。
堂園先生とあわせて100点での評価を行う。(講義回数で計算する)

■テキスト参考書など

テキスト: 『母性看護学各論』医学書院

参考書: 『母性看護技術』医学書院、看護学生スタディガイド、母性看護実習クイックノート、各種雑誌(プチナースなど)については講義中に参考資料として紹介

■備考

資料は適時配布する 入院時のみならず、地域の中で健康な子育てができるような支援について視点を深めてほしい(切れ目ない支援)

■実務経験

本科目は、医師、助産師として実務経験のある教員による授業である

精神看護方法論 I

講師:山門 真樹、胸元 孝夫

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

主な精神疾患・精神症状と状態像および精神科での治療について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神症状と病態像を理解できる	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
2	精神科領域における検査と治療を理解できる(精神療法)	講義	精神看護の基礎第6章「精神科での治療」を読んで講義に臨むこと。
3	精神科領域における検査と治療を理解できる(薬物療法、電気けいれん療法、環境療法、社会療法)	講義	精神看護の基礎第6章「精神科での治療」を読んで講義に臨むこと。
4	精神障害の診断、分類、治療を理解できる(統合失調症)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
5	精神障害の診断と分類と治療を理解できる(気分障害)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
6	精神障害の診断と分類と治療を理解できる(神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
7	精神障害の診断と分類と治療を理解できる(精神作用物質による精神および行動の障害)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
8	精神障害の診断と分類と治療を理解できる(各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」を読んで講義に臨むこと。
9	精神障害をもつ人との関わり方を理解できる	講義	精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」を読んで講義に臨むこと。
10	精神看護の特徴を理解できる(精神看護におけるアセスメント)	講義	精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」を読んで講義に臨むこと。
11	精神科における入院治療の特徴と看護を理解できる	講義	精神看護の展開第11章「入院治療の意味」を読んで講義に臨むこと。
12	精神科における安全を守るための援助と身体的ケアについて理解できる	講義	精神看護の展開第12章「身体をケアする」を読んで講義に臨むこと。
13	急性期にある患者の看護を理解できる(自傷・他害のリスクが高い患者の看護)	講義・演習	精神看護の展開第13章「安全を守る」を読んで講義に臨むこと。
14	急性期にある患者の看護を理解できる(自傷・他害のリスクが高い患者の看護)	講義・演習	精神看護の展開第13章「安全を守る」を読んで講義に臨むこと。
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	100点の筆記試験およびまとめ

■受講上の注意

主な精神疾患・精神障害の概要と治療について理解し、精神を病む人を理解する講義です。講義前に予習をし、講義後には復習を行うこと。

■成績評価の方法

筆記試験 100点(胸元60点、山門40点)

■テキスト参考書など

「系統看護学講座 精神看護の基礎」、「系統看護学講座 精神看護の展開」医学書院

■備考

講義での必要な資料等については、適宜紹介、配布する。

■実務経験

本科目は、医師、看護師として実務経験のある教員による授業である。

精神看護方法論Ⅱ

講師:山門 真樹

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

精神の健康問題をもつ対象の特徴を理解し、精神障がい者とその家族への援助を理解する。回復期から社会復帰へ向かう対象の看護および地域における支援を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神看護に用いられる理論と援助の特徴を理解できる	講義	精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」を読んで講義に臨むこと。
2	患者-看護師関係の構築とアセスメントについて理解できる	講義	精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」を読んで講義に臨むこと。
3	精神障害をもつ人のリカバリーの支援について理解できる	講義	精神看護の展開第9章「回復を支援する」を読んで講義に臨むこと。
4	回復期および慢性期にある人の特徴と看護を理解できる	講義	精神看護の展開第11章「入院治療の意味」を読んで講義に臨むこと。
5	精神障害をもつ人の社会復帰の課題とその支援を理解できる(退院支援)	講義	精神看護の展開第10章「地域におけるケアと支援」、精神保健福祉第6章「地域移行支援・地域生活支援の展開」を読んで講義に臨むこと。
6	精神障害をもつ人の社会復帰の課題とその支援を理解できる(地域における支援)	講義	精神看護の展開第10章「地域におけるケアと支援」、精神保健福祉第6章「地域移行支援・地域生活支援の展開」を読んで講義に臨むこと。
7	気分障害のある患者の看護を理解できる(回復期～維持期)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」、精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」精神看護の展開第9章「回復を支援する」を読んで講義に臨むこと。
8	統合失調症の患者の看護を理解できる(回復期～維持期)	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」、精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」精神看護の展開第9章「回復を支援する」を読んで講義に臨むこと。
9	神経症性障害の患者の看護を理解できる	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」、精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」精神看護の展開第9章「回復を支援する」を読んで講義に臨むこと。
10	発達障害、パーソナリティ障害の患者の看護を理解できる	講義	精神看護の基礎第5章「精神科疾患のあらわれ方」、精神看護の展開第8章「ケアの人間関係」精神看護の展開第9章「回復を支援する」を読んで講義に臨むこと。
11	精神障害をもつ対象の看護過程の展開	個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
12	精神障害をもつ対象の看護過程の展開	個人ワーク	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
13	精神障害をもつ対象の看護過程の展開	演習	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
14	精神障害をもつ対象の看護過程の展開	演習	主体的に課題学習に取り組むこと。指示された提出期限を守ること
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	終講試験およびまとめ

■受講上の注意

精神疾患・精神障害をもつ対象の理解を深め、精神を病む人への看護援助の基本を学ぶ講義です。講義前に予習をし、講義後には復習を行うこと

■成績評価の方法

課題レポート 20点 筆記試験 80点

■テキスト参考書など

系統看護学講座「精神看護の基礎」「精神看護の展開」「精神保健福祉」医学書院

■備考

講義に必要な資料等については、適宜紹介、配布する

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護研究 I

講師: 磯脇 玉美

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護研究の意義について理解し、看護研究を行ううえで必要となる基礎的知識を習得することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護研究を学ぶ前に調べること・研究の楽しさを知ることができる。	講義	自分が今まで経験した看護実習の中で疑問に思ったことや、興味・関心を持ったことに対する事例についてメモしておく。
2	研究におけるリサーチエスチョンの重要性や精錬する方法について理解する。	講義	次回の演習で実際にリサーチエスチョンが立てられるように授業内容を理解すること。
3	自分が気になるテーマについて実際にリサーチエスチョンを設定することができる。	演習	自分が興味・関心を持った看護についてリサーチエスチョンを立て発表し合う(配点: 10%)。
4	文献とその種類、文献検索方法について理解し、実際に文献検索をすることができる。	講義・演習	実際に立てたリサーチエスチョンに応じた論文検索を実施し、文献リストを作成する(配点: 10%)。
5	文献クリティークについて理解し、実際に文献レビューを作成できる。	講義・演習	リサーチエスチョンに応じた論文検索を行い、文献クリティークを行い文献レビューを作成する(配点: 10%)。
6	お互いの文献レビューについて発表し合い、文献クリティークに対する理解を深めることができる。	演習	自分の作成した文献レビューについて発表し合うことで他者からの評価を受けるとともに、自らも評価の視点を養う(配点: 20%)。
7	看護研究における倫理的配慮について理解できる。	講義・演習	看護研究と倫理規定、倫理的配慮等について理解し、次回の演習に備える。
8	事例検討を通して看護研究における倫理的配慮について理解を深める。	演習	グループ毎に看護研究における倫理的行動について提示された事例をもとに考え発表し合い、積極的に意見交換する(配点: 10%)
9	研究デザインについて理解できる(質的研究)。	講義	テキストや講義資料に目を通しておくこと。
10	研究デザインについて理解できる(量的研究)。	講義	テキストや講義資料に目を通しておくこと。
11	研究デザインについて理解できる(事例研究)。	講義	テキストや講義資料に目を通しておくこと。質的・量的・事例研究に関する小テストを実施する(配点: 20%)。
12	研究計画書の作成する意義と目的を理解できる。	講義	次回の講義で実際に研究計画書を立てていくので、計画書に対してしっかり理解すること。
13	研究計画書の書式と記載内容を理解し、自分の気になるテーマについて研究計画書を作成することができる。	演習	自身が立てたリサーチエスチョンに対して、研究テーマを設定し、テキストや講義内容を参考にしながら研究計画書を作成する。
14	自分が作成した研究計画書を発表し合い研究計画書に対する理解を深める。	演習	研究計画書、発表態度、ワークへの積極的な参加について評価する。(配点: 20%)
15	論文作成の基本ルールとプレゼンテーションの意義を理解できる。	講義	今回の講義内容について理解を深め、今後の看護研究Ⅱの研究活動の実践に活用する。

■受講上の注意

■成績評価の方法

課題の提出で評価します(文献レビュー、プレゼンテーションなど) 開講時に詳細は説明します

■テキスト参考書など

看護研究 医学書院

■備考

主体的な学習を期待します

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護技術総合評価 I

講師: 今村 恵

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

既習の知識・技術を統合し、対象に生じた症状の臨床判断を行い、病院における適切な看護を実践する能力を習得する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1.臨床判断の考え方を想起し、看護師が臨床判断能力を高める重要性を理解する 2.シナリオ患者の状態を初期把握するために必要な情報を考える 3.シナリオ患者の入院受け入れ時の環境を考える	講義・グループワーク	事前に向けシナリオ患者の情報(ワークシート)を配布します。シナリオ患者の看護を行うため事前課題を行ってこよう。
2	1.シナリオ患者の入院時の環境を整え入院の受け入れを実施する 2.デブリーフィングを通して入院時に必要な看護を考える	演習・シミュレーション/グループワーク	1.シミュレーションでは入院時の受け入れを実施し患者の訴えに対応すること 2.シミュレーション後のデブリーフィング用紙は評価対象(5点)となります。 3.入院時に得られた情報を患者理解シートにまと
3	1.インタビューを通してシナリオ患者の3側面を理解する 2.シナリオ患者への問診や検査結果、医師の指示を踏まえシナリオ患者に必要な看護を考える	個人・グループワーク	1.患者理解シートを持参し、情報収集が必要であることを考えてこよう 2.シナリオ患者に必要な看護を考えられるようにテキスト等を持参すること
4	1.シナリオ患者の看護に必要な知識を確認する 2.シナリオ患者の入院1日目(プレOSCE)の看護を行うために必要な技術演習計画をグループで考える	知識確認テスト①/グループワーク	1.知識確認テスト①(10点)を受験する 2.プレOSCE(入院1日目)の演習計画を立てる
5	1.入院1日目(プレOSCE)の看護に必要な技術演習をおこなう	演習	1.演習計画に沿ってグループで演習をおこなう
6	1.プレOSCE(入院1日目)を実践する	プレOSCE	1.入院1日目の課題から実際の観察及び看護のシミュレーションを実施する 2.行ったプレOSCEから、各自の臨床判断をリフレクションし指定された日時に提出する(5点)
7	1.プレOSCEでの臨床判断を省察し自己の課題を明確にする	グループワーク	1.リフレクションを基に対象に適した臨床判断をグループでまとめる
8	1.入院1日目の看護実践を通し得られた情報を基に看護過程の追加・修正を行う 2.入院2日目のシナリオ患者に必要な看護を考える	講義	1.入院2日目朝の追加情報からシナリオ患者のアセスメントをおこなう 2.グループで入院2日目のシナリオ患者に必要な看護援助について検討し演習計画を立案する
9	1.入院2日目のシナリオ患者を想定し必要な看護を実施する	演習	1.演習計画に基づきグループで演習をおこなう
10	1.入院2日目のシナリオ患者を想定し必要な看護を実施する	演習	1.演習計画に基づきグループで演習をおこなう
11	1.入院2日目(OSCE)に向け演習計画に基づき計画の検討と技術演習を実施する	演習	1.演習計画に基づきグループで演習をおこなう
12	1.入院2日目(OSCE)に向け演習計画に基づき計画の検討と技術演習を実施する	演習	1.演習計画に基づきグループで演習をおこなう
13	1.入院2日目(OSCE)を受験する 2.OSCEでの臨床判断をリフレクションし自己の課題を明確にする	OSCE(客観的臨床能力試験)	1.入院2日目の課題から、必要な看護を実践するOSCE(客観的臨床能力試験50点) 2.臨床判断のリフレクションをおこない指定された日時に課題を提出する(10点)
14	1.入院2日目(OSCE)を受験する 2.OSCEでの臨床判断をリフレクションし自己の課題を明確にする	OSCE(客観的臨床能力試験)	1.入院2日目の課題から、必要な看護を実践するOSCE(客観的臨床能力試験50点) 2.臨床判断のリフレクションをおこない指定された日時に課題を提出する(10点)
15	1.シナリオ患者に必要な看護を統合する 2.領域実習に向けた自己の課題を明確にする	知識確認テスト②/まとめ	1.知識確認テスト②(20点)を実施する 2.領域実習に向けた自己の課題についてまとめる

■受講上の注意

今までの学びを統合し看護を実践し、臨床判断能力の育成を目指す科目です。領域実習に向けて看護実践能力を高められるよう主体的に取り組まましょう。

■成績評価の方法

知識確認テスト30点、客観的臨床能力試験(OSCE)50点、リフレクション15点、課題点5点

■テキスト参考書など

事例に必要なテキスト、看護学生スタディガイド
資料プリントは適宜配布する

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験がある教員による授業である。

健康支援実習

講師: 富安 恵子

単位数: 1単位

時間数: 40時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

実習目的

あらゆる世代や概ね健康な対象への看護活動の実際を通して、対象の予防活動について深く考え、健康支援における基礎的能力を習得する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

発達課題をふまえて、対象の健康課題について理解する
対象者に必要な社会資源の目的、種類について理解する
健康支援技術を活用して、対象者に健康支援を実施する

実習期間および方法

保健センター 2日間(16時間)
または保健センターと企業(健康管理室)を合わせて 2日間(16時間)
または健康管理センター 2日間(16時間)

精神保健相談機関または子育て支援施設 1日間(8時間)
高齢者福祉センター 1日間(8時間)
学内 1日間(8時間)

■ 方法

保健センター、健康管理センターなど実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

各概論テキスト、『社会保障と社会福祉』医学書院など

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である。

地域包括ケア実習

講師: 富安 恵子

単位数: 1単位

時間数: 40時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

実習目的

虚弱や健康障害のある対象が、地域でその人らしく暮らし続けることを支援するために、様々な場で行われる活動の実際を学び、看護師の役割の重要性を認識する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

- 対象の暮らす地域を理解する
- 地域で暮らす虚弱や健康障害のある対象を理解する
- 多職種協働の場면을体験し、多職種協働の意義を理解する
- 対象の思いに寄り添い、対象が安心する声かけや関わりができる
- 地域包括ケアシステムの中での看護職の果たす役割の重要性を認識する

実習期間および方法

鹿児島県内の地域の保健医療福祉施設
(市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会など) 5日間(40時間)

■ 方法

鹿児島県内の地域の保健医療福祉施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

看護師の倫理綱領に基づき行動する
事前学習(地域の特性や保健事業など)を十分に行い、主体的に実習に臨む

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

地域・在宅看護論1・2(医学書院)他

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である。

訪問看護実習

講師: 富安 恵子

単位数: 2単位

時間数: 80時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

実習目的

在宅療養者とその家族を理解し、在宅での看護を実践するために必要な基礎的能力を習得する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

在宅療養者とその家族を理解する

在宅療養者とその家族に必要な看護を計画立案する

計画に基づき必要な看護を、訪問看護師の指導のもとに一部実践する

在宅療養者とその家族の療養生活を支援するために必要な社会資源の活用方法を理解する

多職種協働の意義を理解し、訪問看護師の果たす役割について考察する

実習期間および方法

訪問看護ステーション 9日間(72時間)

学内 1日間(8時間)

■ 方法

訪問看護ステーションなど実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する

事前学習(地域の特性や保健事業など)を十分に行い、主体的に実習に臨む

■ 成績評価の方法

訪問看護実習評価表に基づいて評価を行う

■ テキスト参考書など

地域在宅看護論1・2

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、保健師・看護師として実務経験のある教員に在る授業である

成人・老年看護学実習 I

講師: 今村 恵

単位数: 2単位

時間数: 80時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

急性期にある患者・家族の特徴を理解し、救命・生命維持、回復を促進するために必要な看護の基礎的能力を習得する。

■ 科目内容

■ 学習のねらい

- 1) 急性期にある患者・家族の身体・精神・社会的特徴を理解する
- 2) 急性期にある患者に行われる治療・検査・処置に伴う看護を指導者とともに実施する
- 3) 急性期にある患者の合併症予防および回復促進に向けた援助を臨床判断に基づき実施する
- 4) 急性期にある患者・家族への援助を倫理的判断に基づき実施する
- 5) 急性期に携わる多職種の仕事の役割およびチーム医療における看護師の役割を理解する

実習展開

【急性期病棟実習】

1) ねらい

急性期病棟での看護の実践を通して急性期にある患者・家族の回復を支援する看護を理解する

2) 実習場所

急性期病棟: 5～7日間(うち手術室見学: 半日)

3) 実習方法

学生1人で急性期にある患者を1人受け持つ

【救急外来・ICU/HCU看護実習】

1) ねらい

救急外来・ICU/HCUでの看護の実際を通して、クリティカルな状態にある患者・家族への看護を理解する

2) 実習場所

救急外来1日、ICU/HCU: 2～4日間

3) 実習方法

① ICU/HCUではクリティカルな状態にある患者を一人受け持ち指導者とともに援助を実施する

② 救急外来では救急看護の実際をシャドウイングし、可能な範囲で救急外来看護者とともに援助を一部実施する

■ 方法

実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

・受け持たせていただく患者様とご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う

・指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に実習を行うこと

・実習期間が2週間となり、また見学実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する

・実習前に事前学習を提示します

・看護技術経験録を参考に看護技術習得に努めること

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

事前に提示する

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

成人・老年看護学実習Ⅱ

講師:青野 拓司

単位数:2単位

時間数:80時間

授業学年:4学年、授業学年:3学年、授業学年:3学

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

慢性疾患をもつ患者・家族の特徴を理解し、生涯にわたり、治療を継続しながら生活する人を支えるために必要な看護の基礎力を習得する

■科目内容

■学習のねらい

(実習目標)

- 1)慢性疾患をもつ患者・家族の身体・精神・社会的特徴を理解する。
- 2)慢性疾患をもつ患者に必要な治療・検査・処置を理解し、症状緩和および急性増悪からの回復促進に向けた援助を指導者とともに実施する。
- 3)慢性疾患をもつ患者・家族に必要なセルフマネジメントへの支援を計画的に実践する。
- 4)慢性疾患をもつ患者・家族に必要な多職種連携と看護師の役割を理解する

(実習期間および方法)

実習時間:80時間(10日間)

方法:10日間のうち一般外来、地域連携室、外来化学療法室実習・透析室にて各半日実習を行う

ただし、実習施設によって地域連携室・外来化学療法室・透析室実習は、オリエンテーションとなる場合がある

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

受け持たせていただく患者様とご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う

指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に実習を行う姿勢が必要である

外来実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する

実習前に事前学習および演習を行い実習に臨み、看護技術経験録を参考に看護技術習得に努める

■成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■テキスト参考書など

実習前に提示する

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

子どもの発達支援実習

講師:鈴木 泉

単位数:1単位

時間数:40時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

小児の成長・発達を理解し、子どもとその家族に対して必要な看護を実践できる基礎的能力を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

- 1)子どもの成長・発達と基本的生活習慣の実際を知り保育活動を実施する
- 2)子どもにとって遊びが社会性の発達に必要であることを理解し遊びを実施できる
- 3)子どもの健康管理や安全管理の実際を一部実施できる

実習期間および方法

保育園・幼保連携型こども園・幼稚園

5日間(40時間)

■方法

保育園・幼保認定型こども園・幼稚園等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■成績評価の方法

ルーブリックに基づき、教員が評価を行う

■テキスト参考書など

小児看護学概論(医学書院)
小児臨床看護各論(医学書院)

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、助産師・看護師として実務経験のある教員による授業である

病気を持つ子どもと家族の看護実習

講師:鈴木 泉

単位数:1単位

時間数:40時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

小児の成長・発達を理解し、子どもとその家族に対して必要な看護を実践できる基礎的能力を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標(病気をもつ子どもとその家族の看護実習)

- 1) 患児の成長・発達や健康障害の特徴について理解する
- 2) 患児とその家族への検査・治療・処置に必要な看護を指導者とともに実施できる
- 3) 患児を取り巻く多職種の役割と機能が理解できる
- 4) 患児とその家族に倫理的配慮ができる

実習期間および方法

病棟(外来) 5日間(40時間)

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■成績評価の方法

ルーブリックに基づき、教員が評価を行う

■テキスト参考書など

小児看護学概論(医学書院)
小児臨床看護各論(医学書院)

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、助産師・看護師として実務経験のある教員による授業である

母性看護学実習

講師:上敷領 正子

単位数:2単位

時間数:80時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

妊娠・分娩・産褥期における母親と新生児及び家族の特徴を理解し、看護に必要な基礎的能力を習得する

■科目内容

■学習のねらい

【母性看護学実習 80時間】

＜実習目標＞

- 1) 妊婦健康診査を通して、妊婦の身体的・心理的・社会的特性を考え、必要な援助について理解することができる
- 2) 分娩の進行状況を理解し、分娩の進行促進と産婦の安楽についての援助を考え一部実践することができる
- 3) 褥婦の退行性変化と進行性変化を観察し、褥婦に必要な援助を考え、一部実践することができる
- 4) 新生児の胎外生活適応過程について理解し、安全に育児技術援助を一部実践することができる
- 5) 助産院の機能と概要、分娩方法や援助の多様性と妊産褥婦の主体性について理解することができる
- 6) 母性看護の実践を通して、自己の母性(父性)観の育成を育む
- 7) 周産期に必要な保健指導の必要性和内容について理解することができる

＜実習期間及び方法＞

9日間の病院実習・0.5日助産院実習・0.5日は学内指導技術演習

産婦人科外来・病棟実習(産褥・新生児)・機能別実習(外来・分娩・新生児・手術室・各種指導【 帰室指導・沐浴指導・退院指導
】)・2週間健診・1か月健診・マザークラス・助産院リモート(院長への質疑応答・対象へのインタビューなど)

■方法

病院等での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導の下実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児及び家族に対して真摯に向き合い感謝の気持ちをもって実習を行う

指導者とのコミュニケーションを図り、グループダイナミクスを活用しながらメンバーとともに学びを深める姿勢が大切である

母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・母性看護学方法論Ⅱ・看護過程方法論Ⅱ(母性)・薬物療法と看護・手術療法と看護で学習したことを復習して臨む

事前学習(演習含む)を充分に行い、主体的に臨む

生命誕生の奇跡を感じながら、実習に取り組む

■成績評価の方法

実習に臨む姿勢・実習内容、実習記録及び課題レポート・指導案(媒体含む)等の提出などを実習評価表に基づいて評価を行い、統合して評価を行う

■テキスト参考書など

テキスト等は、実習前に指示する

事前学習は、実習前に提示する

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、助産師・看護師としての実務経験のある教員による授業である

精神看護学実習

講師:山門 真樹

単位数:2単位

時間数:80時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

こころの健康問題をもつ対象とその家族を理解し、その人らしく自立した生活を送るために必要な看護の基礎的能力を習得する。

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

- 1) こころの健康問題をもつ対象とその家族の特徴を理解する
- 2) 精神疾患及び精神症状が日常生活に及ぼす影響を理解する
- 3) コミュニケーション技術を活用して援助的関係を築くことができる
- 4) 精神保健・医療・福祉チームの連携と、対象に行われている治療・支援を理解する
- 5) 精神障害をもつ対象がその人らしく自立した生活を送るための看護を実践できる
- 6) 精神障害をもつ対象の社会復帰への支援を理解する

実習期間および方法

精神科病棟実習(8日間) 1名の患者を受け持ち、実習を行う

精神科デイケア実習(半日間)

地域医療福祉連携課実習(半日間)

就労継続支援事業所実習(1日間)

■方法

病院・施設の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

受け持たせていただく患者様とその家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う。

教員・指導者の指導の下、実習グループメンバーと協働しながら実習を行う。

事前学習を行い、主体的に実習に臨むこと。

■成績評価の方法

実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録等を実習評価表に基づいて評価する。

■テキスト参考書など

系統看護学講座 精神看護の基礎(医学書院)

系統看護学講座 精神看護の展開(医学書院)

精神看護実習クイックノート(照林社)

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

チーム医療論

講師:重光 まり代、竹元 明子、菅原 英輝、福山 祥子、川原 英範、太田原 美郎

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

看護職をはじめ、理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士・介護福祉士・診療放射線技師など保健・医療・福祉チームを構成する職種の学習者同士で、それぞれの理解を深め、協働する基礎的能力を養う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目の意義、具体的な進め方、評価方法を理解できる 看護職における責任と役割を理解できる。看護職者間の連携が理解できる。多職種連携の歴史とその背景が理解できる。多職種連携・協働が理解出来る	講義	課題「既習した講義・実習を通して学んだ職種理解」を指定期日に提出する。テキストのP41～50、P217～220に目を通して来る。これまでの実習を通しての多職種の連携・協働を想起しながら受講する
2	チーム医療とは何か。チーム医療を支える専門職の構成者を列記し、それぞれの職種の役割・機能を調べ、それらの職種と看護職とどう関わるのかを考察することができる	講義・GW	チーム医療を支える専門職の構成、チームの中の看護師の役割と機能について考える
3	チーム医療とは何か。チーム医療を支える専門職の構成者を列記し、それぞれの職種の役割・機能を調べ、それらの職種と看護職とどう関わるかを考察することができる	講義・GW	チーム医療を支える専門職の構成、チームの中の看護師の役割と機能について考える
4	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者(管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師)の実践を主体的に学ぶ
5	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者(管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師)の実践を主体的に学ぶ
6	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者(管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師)の実践を主体的に学ぶ
7	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者(管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師)の実践を主体的に学ぶ
8	それぞれの専門職者から活動の実際について講義を受け、看護職者としてどう協働するのかについて考察することができる	講義	患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために能動的な専門職者(管理栄養士、薬剤師、保健師、介護福祉士、診療放射線技師)の実践を主体的に学ぶ
9	医療の専門職の役割・機能を理解し、看護師の役割を考察することができる	講義・GW	これまでの学習成果をもとに、「脳梗塞の事例の急性期における看護師の役割と多職種協働」について、グループで考える
10	医療の専門職の役割・機能を理解し、看護師の役割を考察することができる	講義・GW	これまでの学習成果をもとに、「脳梗塞の事例の急性期における看護師の役割と多職種協働」について、グループで考える
11	事例の急性期の医療専門職の役割・機能の追加・修正を行うことができる。また、急性期の看護をまとめ、看護師から多職種への働きかけについても考えることができる。 多職種連携GWに向けて、他者へのプレゼンテーションの準備ができる	GW	前回のGWを振り返り、追加・修正を行い、看護師から多職種への働きかけについて考える。また、多職種連携GWを成功させるために必要な要素について話し合うことができる。良い関係づくりを進めるための心構えとマナーを考察することができる
12	事例を通して、看護師の専門性、役割と機能について具体的に考えるとともに、多職種協働のあり方を考えることができる	多職種連携GW	学習の進め方の説明を受けた後、GWを進める。既習の学びをもとに、GWに参加する。PT・OT・ST・Nsの学習者同士でGWを進め、看護学生がコーディネートの役割を果せるように働きかける。媒体作成・プレゼンテーション準備を行う。発表を通して学びの共有を行う。「脳梗塞患者の回復期～在宅期にむけて」
13	事例を通して、看護師の専門性、役割と機能について具体的に考えるとともに、多職種協働のあり方を考えることができる	多職種連携GW	学習の進め方の説明を受けた後、GWを進める。既習の学びをもとに、GWに参加する。PT・OT・ST・Nsの学習者同士でGWを進め、看護学生がコーディネートの役割を果せるように働きかける。媒体作成・プレゼンテーション準備を行う。発表を通して学びの共有を行う。「脳梗塞患者の回復期～在宅期にむけて」
14	事例を通して、各専門職の関りを理解し、多職種連携のあり方を考察することができる	GW	多職種連携の学びを想起しながらGWに臨む。効果的な媒体の選択・プレゼンテーションを行う。「小児の虐待」「認知症」
15	事例を通して、各専門職の関りを理解し、多職種連携のあり方を考察することができる	GW	多職種連携の学びを想起しながらGWに臨む。効果的な媒体の選択・プレゼンテーションを行う。「小児の虐待」「認知症」

■受講上の注意

主体的に講義・グループワークに臨むこと。

患者を中心とした良質で安全な医療を提供するために多職種による連携の実際を学び、今後の看護活動に生かすこと。課題の提出期限は厳守すること。

■成績評価の方法

①事前課題「統合実習中に体験した多職種連携」10点

②医療・福祉の専門職者の講義終了後の課題レポート「専門職者の活動の実際、多職種協働の実際、看護専門職者としての私の課題」25点(5点×5)

③PT・OT・ST・Nsの学習者間のグループ評価40点

④14・15回目のグループ評価25点

■テキスト参考書など

『看護管理』医学書院

学研メディカル秀潤社 月刊誌 ナーシングキャンパス 多職種連携の特集

■備考

資料は適宜配布する。

授業前課題では、保健医療福祉関係職種一覧を参考にすること。

これまでの講義や各領域の実習で学習した多職種連携に関する学びも参考にすること。

■実務経験

本科目は、看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、診療放射線技師、介護福祉士として実務経験のある教員による授業である。

関係法規

講師: 富安 恵子、政元 圭菜、鈴木 泉

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護の職務上、多くの法規に関係しており、看護サービスの提供においては、基盤となる法規および関係法規を理解することが不可欠である。そこで、看護の活動の基盤となる法規を理解するとともに、法規に規定される看護職の身分・業務・責任について理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護師と関係法規のかかわりを理解できる(富安)	講義	テキストの関連頁を読んでもくる
2	保健師助産師看護師法について理解を深める(富安)	講義	テキストの関連頁を読んでもくる
3	保健、福祉に関する法規について理解を深める(富安)	講義	テキストの関連頁を読んでもくる
4	医療保険などに関する法規について理解を深める(富安)	講義	テキストの関連頁を読んでもくる
5	成人保健、がん予防、産業保健、労働衛生について理解を深める(政元)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
6	高齢者保健、福祉に関する法規について理解を深める(富安)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
7	障害者保健、福祉に関する法規について理解を深める(富安)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
8	母子保健、福祉に関する法規について理解を深める(鈴木)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
9	母子保健、福祉に関する法規について理解を深める(鈴木)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
10	小児保健、福祉に関する法規について理解を深める(鈴木)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
11	学校保健に関する法規について理解を深める(鈴木)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
12	薬物に関する法規について理解を深める。 環境・食品・公害に関する法律について理解できる(政元)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
13	臓器移植法、がん対策等に関する法規について理解を深める(政元)	講義・グループワーク	テキストの関連頁を読んでもくる
14	看護における法律問題の事例より看護職の身分・業務・責任の重さを理解する(富安)	講義・グループワーク	看護職の身分・業務・責任の重さについて主体的に考える
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

テキストで予習し臨むこと

■成績評価の方法

終講試験(60%)、小テスト(30%)、受講態度(10%)

■テキスト参考書など

『健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度』メディカ出版
『看護学生スタディガイド』照林社 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

■備考

参考文献、資料は適宜、紹介または配布する

■実務経験

本科目は、保健師、看護師、助産師として実務経験のある教員による授業である。

災害看護

講師: 谷口 光代

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

災害の特徴、災害医療及び看護の基本を理解するとともに、災害看護の各期及び救援活動に必要な知識と基本的な技術を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	災害医療の基礎知識が理解できる。	講義・DVD	テキスト第1章および、第2章「A 災害看護の歩み」「B 災害医療の基礎知識」を読み、予習して臨む。
2	災害看護の基礎知識が理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第2章「C 災害看護の基礎知識」を読み、予習して臨む。
3	災害看護の基礎知識およびトリアージに関する基本的な内容が理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第2章「C 災害看護の基礎知識」を読み、予習して臨む。
4	災害サイクルの急性期・亜急性期における看護の役割が理解できる。	講義・DVD	テキスト第2章「D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護」を読み、予習して臨む。
5	災害サイクルの慢性期・復興期における看護の役割が理解できる。	講義・DVD	テキスト第2章「D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護」を読み、予習して臨む。
6	災害サイクルの静穏期における看護の役割が理解できる。	講義・DVD	テキスト第2章「D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護」を読み、予習して臨む。
7	被災者や救援者のストレスやこころのケアが理解できる。	講義・演習	テキスト第2章「F 災害とこころのケア」を読み、予習して臨む。
8	被災者や救援者のストレスやこころのケアの重要性が理解できる。	講義・演習	テキスト第2章「F 災害とこころのケア」を読み、予習して臨む。
9	被災者特性に応じた災害看護の展開方法が理解できる。	講義	テキスト第2章「E 被災者特性に応じた災害看護の展開」を読み、予習して臨む。
10	国際的な災害救援と看護について理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第4章「G 国際救援と看護」を読み、予習して臨む。
11	鹿児島県の災害の特徴を踏まえ、地域における防災意識を高めることができる。	演習	テキスト「4 危機管理: 減災・防災マネジメント」を読み、予習して臨む。
12	鹿児島県の災害の特徴を踏まえ、地域における防災意識を高めることができる。	演習	テキスト「4 危機管理: 減災・防災マネジメント」を読み、予習して臨む。
13	ロールプレイを通して、災害時の基礎的知識を習得できる。	演習	これまでの講義内容を復習し、臨む。
14	ロールプレイを通して、災害時の基礎的知識を習得できる。	演習	これまでの講義内容を復習し、臨む。
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

グループワーク・演習が多いので、主体的かつ積極的に取り組むこと。
学習した知識と技術は自分自身のものになるよう、講義後に復習すること。

■成績評価の方法

終講試験(80%)、参加態度及び課題レポート(20%)により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護・国際看護

■備考

関連テキストの持参については、事前に連絡する。
資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

国際看護

講師: 谷口 光代

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

国際社会の健康問題の現状と国際協力の仕組みについて理解し、異なった文化や社会における看護の役割を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	国際看護の主要概念、世界の現状について理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第4章「A 国際看護とは」「B グローバルヘルス」「C 国際協力のしくみ」を読み、予習して臨む。
2	世界の保健・医療・看護の動向、異文化理解について理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第4章「D 文化を考慮した看護」「E 国際看護活動の展開過程」を読み、予習して臨む。
3	国際協力機関の協力の仕組みや、支援活動の実際と課題について理解できる。	講義・グループワーク	テキスト第4章「E 国際看護活動の展開過程」を読み、予習して臨む。
4	国際看護活動の実際(青年海外協力隊の活動の実際)を知り、国際看護活動について理解できる。	講義	テキスト第4章「F 開発協力と看護」を読み、予習して臨む。
5	異文化理解と多文化共生について理解できる。	講義	テキスト第4章「D 文化を考慮した看護」「G 国際救援と看護」「H 21世紀の国際協力の課題」を読み、予習して臨む。
6	世界の国々の健康問題と看護について考えることができる。 他国の文化および生活の実際について理解することができる。	講義・グループワーク	これまでの講義内容を復習し、臨む。
7	世界の国々の健康課題と看護について理解を深めることができる。	グループワーク	これまでの講義内容を復習し、臨む。
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

・近年の世界情勢を把握して臨むこと。

・グループワークでは、自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べるとともに、他者の話をよく聞くこと。また、ディスカッションの際には積極的な姿勢で臨むこと。

■成績評価の方法

筆記試験(80%)、参加態度及び課題レポート(20%)により総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護・国際看護
適宜、資料を配布。

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護専門職論

講師: 近藤 ひとみ

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

チーム医療の重要性を認識し、看護管理システムについて理解を深めるとともに、看護の専門性を追求し、看護の自立と責任を理解

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	第1章 看護とマネジメント ・看護管理学に含まれる要素・看護のマネジメントが必要とされる場について理解できる ・看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められることについて考察する 第2章 看護ケアのマネジメント ・看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて理解する・患者の権利を守るための概念について理解を深める	講義	管理の概念や知識は、看護部長や看護師長のような管理者だけに必要なことではなく、すべての看護職に必要な概念ととらえる
2	安全管理のための予防対策について整理し、理解する	講義	看護職としての基本の安全管理を学ぶ(医療事故・感染・災害等)
3	チーム医療について理解し、多職種との連携について、その業務とあわせて理解する	講義	チーム医療の中での看護師の役割を理解する
4	看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解する	講義	看護業務は法律により規定された範囲で看護倫理に基づき実践されることを学ぶ
5	第3章 看護職のキャリアデザイン ・看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて理解する ・キャリアについて理解する ・自己のキャリア形成について、考察する	講義	自己のキャリア指向をチェックする(6段階評価) 自己のキャリアアンカーの特徴を確認してみよう
6	・タイムマネジメントについて理解する ・ストレスマネジメントについて理解する	講義	多重課題において優先順位を決定する上でタイムマネジメントが不可欠であることを理解する 心身共に健康な状態で仕事を行うには、ストレスと上手に向き合うことを覚える
7	第4章 看護サービスのマネジメント ・看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解できる ・組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化とのかかわりを理解することができる	講義	組織目的達成のためにPDCAサイクルの必要性を理解する 事例で組織図の仕組みを学ぶ
8	・看護サービス提供のための仕組みについて理解できる ・人材のマネジメントについて理解できる	講義	人的資源のマネジメントの重要性を理解する 看護職の労働基準法と労働安全衛生法を学ぶ
9	施設・設備環境および物品のマネジメントについて理解できる	講義	患者主体の療養環境と労働者主体の作業環境のマネジメントを考える
10	・組織におけるリスクマネジメントについて理解できる ・対象者へのサービスの評価について、どのような視点があるのかについて理解できる	講義	守秘義務、プライバシー保護、情報開示における情報の取り扱いについて考える 医療におけるサービスの質の評価を誰が、どのような視点で行うのか学ぶ
11	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 ・マネジメントの概要について理解できる ・組織の構造とその原則について整理し、マネジメントの関連性について理解できる ・組織における人間及び人間関係について諸理論について理解できる	講義	マネジメントを行う上で、組織の原理・原則を学ぶ重要性が理解できる
12	・組織の構成員を調整する要素を、問題解決の方法とあわせて理解できる ・組織のなかにおいて、意思決定などの個人の能力を広げるための要素について理解できる	講義・グループワーク	組織の調整にコミュニケーションの必要性を知る (グループワークをとおして理解する)
13	第6章 看護を取り巻く諸制度 ・看護や看護職の定義や法・制度について理解する ・看護業務と職業倫理について理解できる ・看護教育制度および継続教育とマネジメントの関連性について理解できる	講義	看護の定義や看護を取り巻く環境要因の諸制度をあらためて整理する
14	看護実践の場と医療制度のしくみについて理解を深めることができる	講義	制度や政策が看護にどのようにかかわっているのか考える
15	まとめ・終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験 100点

■テキスト参考書など

看護管理学 医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護研究 I

講師: 磯脇 玉美

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

看護研究の基礎的知識・態度を習得する。

- 看護における研究の意義を理解できる。
- 看護研究に必要な基礎的能力(データ収集・論文作成・発表)の基本を身につける。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護研究の意義と内容を理解し、興味・関心を高めることができる。	講義	テキスト「看護研究」の序章を読み、P11のワークを事前に行い講義に参加する。
2	研究テーマ(リサーチクエスト)の立て方について理解できる。	講義・演習	事前に興味のあることについて考えて参加すること。
3	文献を読み、論文の構成について理解できる。	講義・演習	クリティークを行うので、興味のあることについて複数の文献を集めておくこと。
4	文献検索を行いながら、文献レビューの目的と方法について理解できる。	講義・演習	リサーチクエストに応じて文献検索を行い、文献リストを作成する。
5	文献検索を行いながら、文献レビューの目的と方法について理解できる。	講義・演習	リサーチクエストに応じて、文献検索を行い、結果をまとめ提出する。
6	看護研究における倫理的配慮と研究論文の構成要素を理解できる。	演習	看護研究と倫理規定、倫理的配慮、同意書作成について
7	研究デザインについて理解できる。 ①質的研究	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
8	質的研究のデータの収集と分析方法が理解できる。	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
9	質的研究のデータの収集と分析方法が理解できる。	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
10	研究デザインについて理解できる。 ②量的研究	講義・演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
11	量的研究のデータの収集と分析方法が理解できる。	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
12	量的研究のデータの収集と分析方法が理解できる。	演習	各自の課題に積極的に取り組むこと。
13	研究デザインについて理解できる。 ③事例研究	講義	各自の課題に積極的に取り組むこと。
14	研究計画書の作成について理解できる。	講義	各自の課題に積極的に取り組むこと。
15	論文作成の基本ルールとプレゼンテーションの意義を理解できる。	講義	論文作成のルール、プレゼンの意義について理解すること。

■受講上の注意

演習での課題(グループワーク・個人ワーク)があるので積極的に参加すること。
看護研究Ⅱへつながる科目であるために、確実に理解すること。

■成績評価の方法

研究テーマ(リサーチクエスト)の提出(25%)文献リストの提出(15%)
2年次に行った各自のケーススタディをクリティークした結果の提出(10%)
講義中に行う小テスト(50%)を総合的に評価する。

■テキスト参考書など

テキスト:『看護研究』医学書院
そのほかプリントを講義時に提示する。

■備考

演習や課題レポートについては講義時に指示を行う。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

看護研究Ⅱ

講師:磯脇 玉美、山門 真樹、上敷領 正子、鈴木 泉、重光 まり代

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を追求するとともに、看護実践につながる論理的思考力を養う

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護研究の意義について理解できる	講義・個人ワーク	看護研究のテキスト及び看護研究Ⅰの資料を準備しておく
2	研究テーマの検討及び研究計画書の作成	個人ワーク	研究計画書の書き方についてテキストを読む
3	研究テーマの検討及び研究計画書の作成	個人ワーク	研究計画書の書き方についてテキストを読む
4	研究計画書の作成	個人ワーク	研究計画書の書き方についてテキストを読む
5	研究計画書の作成	個人ワーク	研究計画書の書き方についてテキストを読む
6	研究計画書の作成	個人ワーク	研究計画書の書き方についてテキストを読む
7	研究計画書の作成、研究計画に基づき文献検索を行う	個人ワーク	文献検索の方法について学習してくる
8	研究計画書の作成、研究計画に基づき文献検索を行う	個人ワーク	文献検索の方法について学習してくる
9	文献検索及び研究データの収集	個人ワーク	文献検索の方法及び研究データの収集について学習してくる
10	文献検索及び研究データの収集	個人ワーク	文献検索の方法及び研究データの収集について学習してくる
11	文献検索及び研究データの収集	個人ワーク	文献検索の方法及び研究データの収集について学習してくる
12	研究論文の作成	個人ワーク	研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
13	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
14	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
15	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
16	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
17	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
18	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
19	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
20	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと
21	研究論文の作成	個人ワーク	データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること 研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと

22	抄録・発表原稿・発表スライドの作成	個人ワーク	研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること
23	抄録・発表原稿・発表スライドの作成	個人ワーク	研究計画に沿って研究成果をまとめる 指導教員の指導を受け、計画的に進めていくこと データの取り扱いなど倫理的配慮に留意すること
24	研究発表の準備・研究発表リハーサル	演習・個人ワーク	他者に研究の内容が伝わりやすくなるように工夫する
25	研究発表の準備・研究発表リハーサル	演習・個人ワーク	他者に研究の内容が伝わりやすくなるように工夫する
26	研究発表	演習・発表	研究成果を他者に分かりやすく発表する。他者の発表を聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
27	研究発表	演習・発表	研究成果を他者に分かりやすく発表する。他者の発表を聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
28	研究発表	演習・発表	研究成果を他者に分かりやすく発表する。他者の発表を聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
29	研究発表	演習・発表	研究成果を他者に分かりやすく発表する。他者の発表を聞いて、看護について考えるとともに自己の課題を見出す
30	看護研究の振り返り	演習・グループワーク	看護研究の取り組みを振り返り、学びと課題についてグループでまとめて発表する。

■受講上の注意

看護を探究する科目です。個人ワークが中心ですので積極的に取り組むこと
担当教員との連携をしっかりと図り、主体的に指導を受けること
倫理的配慮に基づき、論文作成を行うこと

■成績評価の方法

評価表に沿って①研究活動の実際②研究発表について総合的に評価する(100点)
担当教員の指導を受けていない場合や研究論文を提出期限内に提出できなかった場合は評価の対象とならない

■テキスト参考書など

テキスト 『看護研究』 医学書院

■備考

ケーススタディや看護研究 I の資料等を活用すること

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

看護技術総合評価Ⅱ

講師: 冷水 陽子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■科目目標

臨地実習の経験を踏まえ、クリティカルな状態にある対象の看護を臨機応変に実践するための基礎的能力を養う。

- 1) コミュニケーションを図りながら対象との人間関係の構築を図ることができる。
- 2) 対象の意思決定を支援しながら倫理的配慮ができる。
- 3) 対象の抱える健康上の課題を的確にとらえ状況を判断することができる。
- 4) 対象の状況に必要な看護を選択・実施することができる。
- 5) 実施した看護行為の省察を行い言語化することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1. 演習の意義・目標、進め方、評価方法を理解することができる。 2. 事例の患者を理解することができる。	講義・グループワーク	1. 事例の健康上の問題を解釈する。 2. チームとして考えることができる。
2	事例の健康上の問題を判断する	個人ワーク	健康時と比較し、何が問題となっているのか考える
3	事例の治療上の看護計画を立案できる。	個人・グループワーク	1. 治療上の看護計画を立案し提出する。 2. 個人の看護診断計画をチームにプレゼンテーションするので積極的に意見交換を行う。
4	事例の看護計画の修正ができる。	個人・グループワーク	意見交換を基に看護計画の修正を行う。
5	1. 事例の状況下で、起こりうる対象の反応が予測できる。 2. 対象の変化に応じた看護計画の追加、代替え案を立案できる。	個人・グループワーク	計画した看護を実践する中で起こりうる対象の変化について予測し、対処方法まで計画を追加する。
6	1. 看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる。 2. 実施中の対象の反応を観察し状況に応じた臨床判断を行う。	演習	対象の反応を予測しながら看護を実施する。
7	1. 看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる。 2. 実施中の対象の反応を観察し状況に応じた臨床判断を行う。	演習	看護計画に沿って対象の反応を予測しながら看護を実施する。
8	リフレクションを通して、シナリオの解釈と判断の根拠、選択した看護の方法を検討できる。	グループワーク	ディスカッションを通して、臨床判断の一連の過程について検討する。 状況によっては、看護計画の追加・修正を行う。
9	1. 看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる。 2. 実施中の対象の反応を観察し状況に応じた臨床判断を行う。	演習	看護計画に沿って、対象の反応を予測しながら看護を実施する。
10	1. 看護計画に沿った援助が安全・安楽に基づいて実施できる。 2. 実施中の対象の反応を観察し状況に応じた臨床判断を行う。	演習	看護計画に沿って、対象の反応を予測しながら看護を実施する。
11	リフレクションを通して、シナリオの解釈と判断の根拠、選択した看護の方法を検討できる。	グループワーク	ディスカッションを通して、臨床判断の一連の過程について検討する。 状況によっては、看護計画の追加・修正を行う。
12	状況に応じた判断と必要な援助が実施できる。	演習	与えられた情報からアセスメントした内容及び必要な看護について演習を行い振り返りをして、次の試験に臨む
13	状況に応じた判断と必要な援助が実施できる。	OSCE	与えられた情報からアセスメントした内容及び必要な看護について判断し実施する
14	リフレクションを通して、シナリオの解釈と判断の根拠、選択した看護の方法を検討できる。	個人ワーク	必要と判断した看護の目的と根拠を考慮しながら実施し、事例の反応を基に解釈と判断、方法の選択や実施方法について省察する。
15	まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

この科目では、対人関係調整能力、患者の権利擁護・意思決定支援、的確な状況判断能力および問題解決能力に基づいた看護実践能力、課題解決するための自己研鑽能力の獲得を目指しています。これまでの臨地実習での学びを踏まえ、主体的に取り組んでください。
事例は、3事例以上とし、開講前に提示します。

■成績評価の方法

OSCE(70点) 個人リフレクション(各10点) 筆記試験(20点)

■テキスト参考書など

事例に必要なテキストを活用する

■備考

講義前にシナリオを提示する。

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

認定看護セミナー

講師:重光 まり代、冷水 陽子、下尾 菜摘、福元 幸志、竹迫 香奈、寺嶋 圭子、橋口 恒夫、内田 宏貴、永橋 浩佑

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

特定分野についての新しい知見、高度な技術をもつ認定看護師等の講義を通して、看護の専門性を追求し、看護実践への関心を高め、生涯にわたり学習し続ける意義を再認識し、専門職としての今後の展望をもつ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	看護専門職の資格と機能:看護職における専門・認定看護師、特定看護師等について調べ、機能・役割について理解できる	講義・演習	看護の専門性について自己の考えをまとめ、終了後にレポートを提出する
2	看護における専門分野と機能:調べた看護専門職の機能・役割についてグループで討議し、互いに共有できる	グループワーク	自己の学び、考えをもとにグループで意見交換し、看護の高度化・専門分野について学びを深める
3	急性・重症患者看護専門看護師の制度について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
4	急性・重症患者看護専門看護師(下尾 菜摘)より講義を受けて、専門看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
5	急性・重症患者看護専門看護師(下尾 菜摘)より講義を受けて、専門看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
6	・急性・重症患者看護専門看護師の講義での学びをレポートにまとめる ・救急看護認定看護師の制度について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
7	救急看護認定看護師(橋口 恒夫)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
8	救急看護認定看護師(橋口 恒夫)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
9	・救急看護認定看護師の講義での学びをレポートにまとめる ・精神科認定看護師の制度について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
10	精神科認定看護師(内田 宏貴)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
11	精神科認定看護師(内田 宏貴)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
12	・精神科認定看護師の講義での学びをレポートにまとめる ・診療看護師(特定行為研修制度)について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
13	特定行為看護師(福元 幸志)より講義を受けて、特定行為研修制度や特定行為看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
14	特定行為看護師(福元 幸志)より講義を受けて、特定行為研修制度や特定行為看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
15	・診療看護師(特定行為研修制度)の講義での学びをレポートにまとめる ・がん化学療法認定看護師について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
16	がん化学療法認定看護師(寺嶋 圭子)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
17	がん化学療法認定看護師(寺嶋 圭子)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
18	・がん化学療法認定看護師の講義での学びをレポートにまとめる ・認知症認定看護師について調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出
19	認知症認定看護師(竹迫 香奈)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
20	認知症認定看護師(竹迫 香奈)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
21	・認知症認定看護師の講義での学びをレポートにまとめる ・フライトナース・ドクターカーナースについて調べ学習を行い、理解を深める	レポート作成	講義終了時にレポート提出

22	フライトナース・ドクターカーナース認定看護師(永橋 浩佑)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	事前学習の内容を理解したうえで聴講する
23	フライトナース・ドクターカーナース認定看護師(永橋 浩佑)より講義を受けて、認定看護師の役割を知り、看護実践能力への関心を高めることができる	講義	
24	フライトナース・ドクターカーナース認定看護師の講義での学びをレポートにまとめる	レポート作成	講義終了時にレポート提出
25	自己の課題の明確化:認定看護師等から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師についてグループでまとめ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	グループワーク	講義での学びをもとに看護職としての自覚を持ち、自己研鑽することの重要性について考えるとともに、今後の自己の課題についてまとめる
26	自己の課題の明確化:認定看護師等から受けた講義をもとに、自己の興味・関心のある分野の認定看護師についてグループでまとめ、看護職における生涯学習の重要さと自己の課題を見出す	グループワーク	
27	学びの発表とまとめ:学びの共有と今後の展望や各認定看護師の多角的な看護に対する考え方などをグループ毎に発表する	発表	学生主体で発表会を行う
28	学びの発表とまとめ:学びの共有と今後の展望や各認定看護師の多角的な看護に対する考え方などをグループ毎に発表する	発表	
29	看護師の資格をもとに、様々なフィールドでの働き方や活動の実際を知る	講義	事前に講義の内容を確認し、調べて置くこと
30	看護師の資格をもとに、様々なフィールドでの働き方や活動の実際を知る	講義	事前に講義の内容を確認し、調べて置くこと

■受講上の注意

- ・認定看護師等の経験を基にした講話を直接聴講できる貴重な講義である。事前学習で各種認定制度を理解したうえで講義をうけること
- ・外部講師の都合により講義の順番が変更となることがある

■成績評価の方法

- ・課題レポート及びグループ発表を点数とする
- ・評価のルーブリックは講義開始時に配布して提示する
- ・事前学習及びまとめレポートは講義終了時に提出とし、提出できなかった場合の評価は0点とする(当日の欠席を含む)

■テキスト参考書など

講義で必要な資料等は、適宜配布する

■備考

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員、講師による授業である

成人・老年看護学実習 I

講師: 今村 恵

単位数: 3単位

時間数: 135時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

急性期にある患者の特徴を理解し、健康状態に合わせた看護援助を習得する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

- 1) 生体機能に急激な変化が生じている患者を理解できる
- 2) 急性期にある患者に必要な治療・検査・処置を理解し、回復を促進させる援助が実施できる
- 3) 回復期にある患者の特徴が理解できる
- 4) 回復を促進する因子を明らかにし、社会復帰に向けての援助が実施できる

実習期間・方法

3週間のうち15日間: 事前学内実習1日間、臨床実習14日間

うち手術室実習・集中治療室実習・救急外来実習各半日

臨床実習では、1名の患者を受け持ち実習を行う

手術室・集中治療室・救急外来実習では、指導者のもと原則見学実習を行う

ただし、実習施設によって手術室・集中治療室・救急外来見学実習がオリエンテーションとなる場合がある

■ 方法

病院等の実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

受け持たせていただく患者様とご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う

指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に実習を行う姿勢が必要である

実習期間が3週間となり、また見学実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する

実習前に事前学習および事前学内実習(シミュレーション)を行います。

看護技術経験録を参考に看護技術習得に努めること

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

実習前に提示する

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

成人・老年看護学実習Ⅱ

講師:青野 拓司

単位数:3単位

時間数:135時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

慢性期もしくは終末期にある患者の特徴を理解し、健康状態に合わせた看護援助を習得する

(慢性期実習)

慢性期にある患者の特徴を理解し、患者のセルフケア能力や症状コントロール能力を高めるための看護援助を習得する

(終末期実習)

終末期にある患者の特徴を理解し、個別性を踏まえた看護援助を習得する

■科目内容

■学習のねらい

慢性期実習

患者の発達段階を踏まえて身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる

患者のセルフケア能力や症状コントロール能力に応じた日常生活の支援と自立への援助ができる

患者に必要な社会資源を活用し、包括的ケアについて考えることができる

終末期実習

終末期にある患者の発達段階を踏まえて、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる

終末期にある患者が残された時間を全うし、その人らしく自己実現できるようにQOLを高める援助ができる

医療チーム(保険・医療)における協力・連携の必要性和看護の役割について考えることができる

実習期間・方法

3週間のうち15日間:病棟実習14日間

地域連携室実習・外来化学療法室実習・透析室実習各1日、半日

病棟実習では、1名の患者を受け持ち実習を行う

地域連携室・外来化学療法室・透析室では、指導者のもと原則見学実習を行う

ただし、実習施設によって地域連携室・外来化学療法室・透析室実習見学実習は、オリエンテーションとなる場合がある

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

受け持たせていただく患者様とご家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う

指導者とコミュニケーションを図り、実習グループメンバーと協働しながら主体的に実習を行う姿勢が必要である

実習期間が3週間となり、また見学実習は事前に日時が決められるので、遅刻・欠席等ないように時間管理・健康管理に十分注意する

実習前に事前学習および演習を行い実習に臨み、看護技術経験録を参考に看護技術習得に努める

■成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■テキスト参考書など

実習前に提示する

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

小児看護学実習

講師:鈴木 泉

単位数:2単位

時間数:90時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

小児の特徴を理解し、健康と成長・発達が促進されるよう小児とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標(保育園)

健康な乳幼児の特徴を理解できる

発達過程に応じた養護と成長・発達を促す援助の実際について理解できる

実習目標(病院)

患児の発達段階・健康状態を理解できる

患児の健康状態に応じて、患児とその家族に必要な看護が理解できる

小児を対象とする病棟(外来)での看護師の役割を理解できる

実習目標(ことばの支援センター)

発達支援が必要な乳幼児の特徴を知る

発達過程に応じた養護と成長・発達を促す援助の実際について知る

小児の発達において活用できる社会資源を知る

実習期間および方法

保育園 4日間(36時間) 病棟(外来) 4日間(36時間)

ことばの支援センター 1日間(9時間) 学内演習 1日間(9時間)

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する

事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■成績評価の方法

ルーブリックに基づき、教員が評価を行う

■テキスト参考書など

小児看護学概論(医学書院)

小児臨床看護各論(医学書院)

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、助産師・看護師として実務経験のある教員による授業である

母性看護学実習

講師:上敷領 正子

単位数:2単位

時間数:90時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

妊娠・分娩・産褥期における母親と新生児及び家族の特徴を理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

妊婦健康診査を通して、妊婦の身体的・心理的・社会特性を理解し、保健指導のあり方について考えることができる

分娩の進行状況を理解し、分娩の進行促進と産婦の安楽についての援助を考えることができる

産婦の退行性変化と進行性変化を観察し、産婦に必要な援助を考え実践することができる

新生児の胎外生活適応過程について理解し、安全に育児技術を実践することができる

周産期にある母子を取り巻く環境や社会資源について理解することができる

母性看護の実践を通して、自己の母性(父性)の育成を育む

実習期間及び方法

10日間の病院実習、1日は助産院実習、1日は学内指導技術演習

実習期間及び方法

産婦人科外来・病棟実習(産褥・新生児)・機能別実習(分娩・新生児・手術室・各種指導[帰室指導/退院指導・沐浴指導])・マザークラス・1か月健診

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児及びその家族に対して真摯に向き合い感謝の気持ちをもって実習を行う

指導者とのコミュニケーションを図り、グループダイナミクスを活用しながらメンバーとともに学びを深める姿勢が大切である

母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・母性看護学方法論Ⅱ・看護過程展開論Ⅱ(母性)で学習したことを復習して臨む

事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

生命誕生の奇跡を感じながら、実習に取り組む。

■成績評価の方法

実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録及び課題レポート・指導案(媒体含む)等の提出などを実習評価法に基づいて評価を行い、

統合して評価を行う

■テキスト参考書など

実習前に指示する

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、助産師として実務経験のある教員による授業である

精神看護学実習

講師:山門 真樹

単位数:2単位

時間数:90時間

授業学年:3学年、授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

精神障がいをもつ対象の理解を深め、こころの健康問題が日常生活に影響を及ぼしていることを把握し、看護に必要な知識・技術・態度を習得する

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

- 1)精神に障がいをもつ対象と家族の特徴を理解できる
- 2)対象の健康状態をアセスメントし、必要な日常生活援助ができる
- 3)治療的援助関係について理解できる
- 4)対象に行われている治療の実際と環境を理解し、必要な援助ができる
- 5)精神保健・医療・福祉チームの連携とチームにおける看護の役割について考えることができる
- 6)地域で生活する精神障がい者への支援の実際を知ることができる

実習期間および方法

精神科病棟実習(9日間) 1名の患者を受け持ち、実習を行う

精神科デイケア実習・地域医療福祉連携課実習・地域活動支援センター実習(1日間)

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う

詳細は実習要綱参照

■受講上の注意

受け持たせていただく患者様とその家族に感謝の気持ちを忘れずに実習を行う。

教員・指導者の指導の下、実習グループメンバーと協働しながら実習を行う。

事前学習を行い、主体的に実習に臨むこと。

■成績評価の方法

実習に臨む姿勢、実習内容、実習記録等を実習評価表に基づいて評価する。

■テキスト参考書など

新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 (メヂカルフレンド社)

新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護(メヂカルフレンド社)

精神看護実習クイックノート(照林社)

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。

在宅看護論実習

講師: 富安 恵子

単位数: 2単位

時間数: 90時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

実習目的

在宅で療養している対象とその家族を理解し、在宅での看護が実践できるために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

- 在宅で療養している対象を理解する
- 対象の療養生活環境を理解する
- 在宅で療養している対象の看護を理解する
- 療養生活を支援するために必要な社会資源、他職種との協働の実際を理解する

実習期間および方法

- 訪問看護ステーション 10日間(75時間)
- 鹿児島市社会福祉協議会 1日間(7.5時間)
- 地域包括支援センター 1日間(7.5時間)

■ 方法

訪問看護ステーションなど実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

看護者の倫理綱領に基づき行動する
事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨む

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

- 『地域療養を支えるケア』メディカ出版
- 『在宅療養を支える技術』メディカ出版

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、保健師として実務経験のある教員による授業である。

しまの看護実習

講師: 富安 恵子

単位数: 1単位

時間数: 45時間

授業学年: 3学年、授業学年: 4学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

実習目的

しまで暮らす人々の健康管理と看護活動の実際を体験し、看護活動の特徴を理解するとともに、しまにおける看護師の果す役割について考察する

■ 科目内容

■ 学習のねらい

実習目標

- ①しまで暮らす人々の健康管理の実際を理解する
- ②しまで健康問題を抱えて生活する人々の看護活動の実際を理解する
- ③①、②を通して、しまの看護活動の特徴と看護師の役割を理解する

実習期間および方法

役場、施設、病院などでの実習(5日間)を通してしまで暮らす人々の健康管理の実際と看護活動の実際を理解する
1日 学内でまとめを行う

■ 方法

病院等の実習施設での臨地実習

■ 学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う
詳細は実習要綱参照

■ 受講上の注意

しまの医療と看護 I・II を土台にした実習である。グループで協力して積極的に行動すること。宿泊を伴う実習であるので、体調管理に留意すること。

■ 成績評価の方法

実習内容・実習記録の提出・実習態度を実習評価表に沿って、総合的に評価する

■ テキスト参考書など

しまと医療と看護 I、II で使用した講義資料
しまに関する資料(書籍、DVD)など

■ 備考

詳細は実習要綱参照

■ 実務経験

本科目は、保健師として実務経験のある教員による授業である。

統合実習

講師:冷水 陽子

単位数:3単位

時間数:135時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

実習目的

看護専門職者として、自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養うとともに、看護チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力の向上をめざす。

■科目内容

■学習のねらい

実習目標

- 患者の健康状態に応じて適切な判断を行い、看護を実践できる。
- 看護チームの一員として、その役割を理解できる。
- チーム医療におけるマネジメントの実際をとおして、看護における基礎的なマネジメントについて理解できる。
- 病院における医療安全について理解できる。
- 看護専門職者としての自己の課題を明確にできる。

実習期間および方法

- ・3週間の月～金曜日実習 うち15日間
- ・看護管理実習は半日
- ・夜間業務見学・リーダー業務見学実習各1日
- ・夜勤実習では、12:15～20:00とする。
- ・リーダー業務見学実習では、原則8:30～17:00とする。(実習施設により異なる)
- ・学内実習2日間

■方法

病院等の実習施設での臨地実習

■学習上の留意点

臨地実習指導者、担当教員の指導のもと実習を行う。
詳細は実習要綱参照。

■受講上の注意

今実習は、これまでの講義や各領域の実習で学習してきたことを統合し、より実践的な体験を行う。さらに看護専門職論、チーム医療論に繋がられるように理解を深めること。
来年チーム医療・看護チームの一員として働くことを意識しながら主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

統合実習の実習評価に基づいて評価を行う

■テキスト参考書など

看護管理のテキスト、これまでの講義や各領域の実習で学習した多職種連携に関する資料参照

■備考

詳細は実習要綱参照

■実務経験

本科目は、看護師、保健師、助産師として実務経験のある教員による授業である。